平成２２年度

大学院生による授業評価結果報告書
（前期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
8	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内　陽一、山崎　勝之、皆川　直凡
9	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育Ⅰ	小西　正雄
10	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	粟飯原　良造
11	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村　隆宏、島田　恭仁、津田　芳見、浜崎　隆司
12	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	烏田　直哉
13	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内　陽一
14	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎　勝之
15	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川　直凡
16	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	伴　恒信
17	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	樫田　美雄
18	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村　隆宏
19	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	橋川　喜美代
20	現代教育課題総合	30637000	文化間教育総論	小西　正雄、太田　直也
21	現代教育課題総合	30638000	文化間教育演習Ⅰ（基礎研究）	小西　正雄
22	現代教育課題総合	30639000	文化間教育演習Ⅱ（地域研究）	太田　直也
23	現代教育課題総合	30643100	情報教育総論	谷村　千絵、藤村　裕一
24	現代教育課題総合	30646100	情報教育特論Ⅲ（実践論）	藤村　裕一、谷村　千絵
25	現代教育課題総合	30647100	環境教育総論	西村　宏、近森　憲助
26	現代教育課題総合	30649100	環境教育特論Ⅱ（授業開発）	近森　憲助、西村　宏
27	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井　健治
28	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西　真記子
29	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田　雄三
30	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習Ⅰ	久米　禎子、佐藤　亨、葛西　真記子、今田　雄三、粟飯原　良造、中津　郁子、吉井　健治
31	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論（前期集中分）	田中　秀紀

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
32	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	粟飯原　良造、今田　雄三、葛西　真記子、中津　郁子、吉井　健治
33	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原　良造
34	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤　健二
35	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	山本　力
36	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上　とも子
37	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上　とも子
38	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	八幡　ゆかり
39	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷　博俊
40	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原　光恵
41	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田　恭仁
42	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田　芳見
43	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原　卓志、茂木　俊伸
44	言語系	32140000	日本語Ⅰ	永田　良太
45	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾　春子
46	言語系	32144000	日本古典語研究	原　卓志
47	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木　俊伸
48	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	野口　哲也
49	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	妹尾　好信
50	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	山口　眞琴
51	言語系	32153000	日本語教育学研究	小野　由美子
52	言語系	32154000	社会言語学研究	渋谷　勝己
53	言語系	32155000	対照言語学研究	山川　　太
54	言語系	32156000	日本語文法研究	永田　良太
55	言語系	32161000	日本語音声表現研究	永田　良太

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
56	言語系	32173000	国語科教育学研究	村井　万里子
57	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田　伸司
58	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷　裕次
59	言語系	32216000	英米文化研究Ⅱ（現代文化研究）	前田　一平
60	言語系	32220000	英米文学応用演習Ⅱ	太田　直也
61	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下　克彦、眞野　美穂
62	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下　克彦
63	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野　美穂
64	言語系	32228000	英米文化研究Ⅰ（文化史）	杉浦　裕子
65	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	伊東　治己
66	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森　直人
67	社会系	33158000	四国遍路と地域文化	大石　雅章、山本　準、立岡　裕士、 町田　哲、梶井　一暁、皆川　直凡、 木原　資裕、南　隆尚、中津　郁子
68	社会系	33158100	歴史学研究Ⅰ	川岡　勉
69	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田　哲
70	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田　昌博
71	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	木原　克司
72	社会系	33158800	地理学演習Ⅰ	木原　克司
73	社会系	33159100	地図表現学研究	立岡　裕士
74	社会系	33159200	地図表現学演習	立岡　裕士
75	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生　多聞
76	社会系	33159500	社会学研究	山本　準
77	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤　直之
78	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津　正美
79	自然系	34125000	代数学研究	平野　康之

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
80	自然系	34126000	代数学演習	平野　康之
81	自然系	34172000	数学科教育学研究	齋藤　昇、秋田　美代
82	自然系	34175000	数学科教材開発研究	齋藤　昇、秋田　美代
83	自然系	34212000	エネルギー・物質と環境特論	粟田　高明
84	自然系	34213000	電磁気学特論	松川　徳雄
85	自然系	34215000	物性物理学特論	本田　亮
86	自然系	34217000	有機化学特論	高津戸　秀
87	自然系	34225000	進化生物学特論	工藤　慎一
88	自然系	34230000	地球科学特論Ⅱ	村田　守、香西　武、西村　宏
89	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西　武、村田　守、西村　宏、 小澤　大成
90	自然系	34228000	地球惑星物質学特論	西村　宏、村田　守、香西　武
91	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	草下　實
92	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安　利秀
93	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森　正、田中　巳穂
94	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	森　正
95	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森　正
96	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根　秀憲
97	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根　秀憲、小林　苳子
98	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田　啓明
99	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡　貴史
100	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島　真人
101	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島　真人
102	芸術系	35211000	絵画制作研究	西田　威汎、鈴木　久人
103	芸術系	35214000	版画制作演習	武市　勝

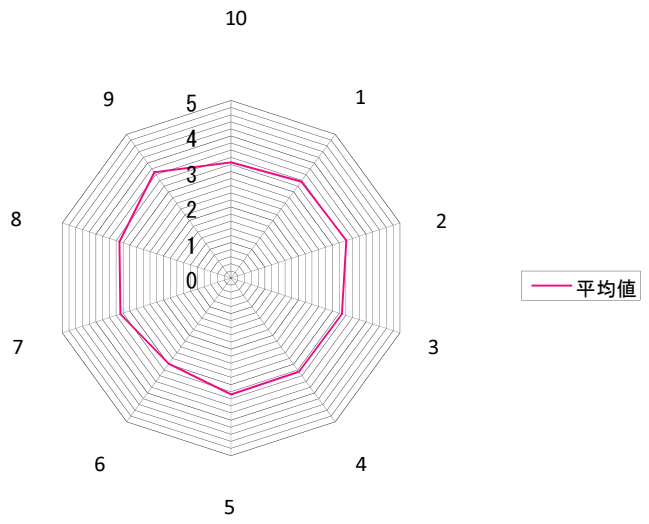
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
104	芸術系	35216000	塑造制作演習	長岡　強
105	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎　窮
106	芸術系	35219000	視覚デザイン演習	松島　正矩
107	芸術系	35221000	工芸制作研究	井戸川　豊
108	芸術系	35222000	陶芸制作演習	上田　敦子
109	芸術系	35227000	芸術学研究	小川　勝
110	芸術系	35272000	美術科教育学研究	赤木　里香子
111	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木　朝彦
112	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田　芳明
113	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木　朝彦、山田　芳明
114	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原　資裕
115	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	賀川　昌明
116	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井　敦典
117	生活・健康系	36125000	スポーツ・トレーニング研究	南　隆尚
118	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本　佐雅子
119	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬　政雄
120	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中　弘之
121	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地　章
122	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延　仁志
123	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤　陽介
124	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地　章
125	生活・健康系	36231000	シミュレーション研究	高曽　徹
126	生活・健康系	36232100	計算力学研究	畑中　伸夫
127	生活・健康系	36233100	計算力学演習	畑中　伸夫

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
128	生活・健康系	36278000	教育と情報活用	益子　典文
129	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川　衣代
130	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井　典代
131	生活・健康系	36317000	食生活学研究	前田　英雄、西川　和孝
132	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金　貞均
133	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水　多佳子
134	国際教育	37111000	国際教育協力研究	大隅　紀和
135	国際教育	37121000	国際教育IT活用研究	松嵜　昭雄、小澤　大成
136	国際教育	37171000	国際教育現地理解研究	鈴木　隆子
137	国際教育	37174000	国際教育教材開発研究	小澤　大成、松嵜　昭雄
138	国際教育	37176000	国際教育教材開発演習Ⅱ	小澤　大成、松嵜　昭雄、服部　勝憲

結果報告書

授業科目名　学校教育の人間形成的役割
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　木内　陽一，山崎　勝之，皆川　直凡　　回答者数　50　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	11	26	1	4		3.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	17	17	8	1		3.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	15	19	7	3		3.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	10	20	7	4		3.3
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	5	17	16	11	1		3.3
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	6	8	21	9	6		3.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	14	20	4	5		3.3
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	18	15	7	4		3.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	15	19	3	1		3.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	12	21	3	6		3.3



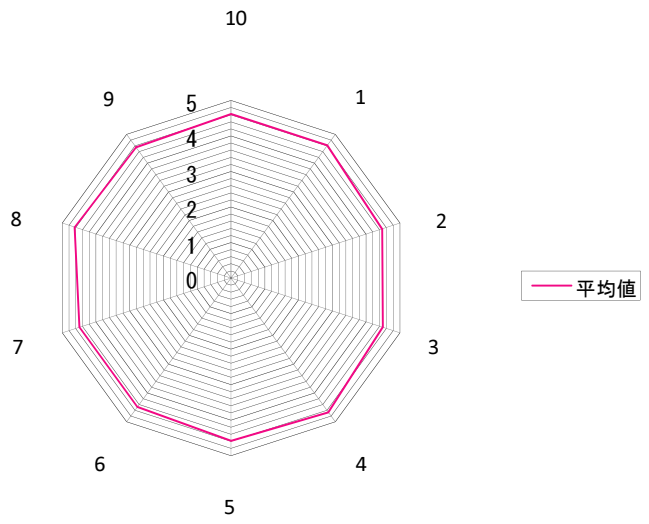
教員のコメント

本講義は、人間形成コース教員の山崎、皆川、木内の三人が担当しているので、本コースの多様性を生かした形で、授業をすすめるように努力している。とくに現在取り組んでいる研究テーマを中心として、さまざまなコースの受講生にも興味を持ってもらえるように努めている。木内個人は、近代日本の文学や思想を題材として、広い立場から人間形成をとらえるように努力はしているものの、評価結果をみると一層の工夫を必要とすることが痛感される。各評価段階の選択人数は，全10項目中7項目において評価3がもっとも多く2以下の回答も相当数みられることから，授業担当者としてその原因を考える必要があると思われる。項目別にみると，9つの項目では評価4・5の人数が評価1・2の人数を大きく上回っているのに対し，質問項目(6)においては評価4・5と評価1・2の選択人数が拮抗していることから，よりわかりやすい説明を求める受講生が特に多いことがわかる。この点については，大学院の授業としての水準の維持を前提に，できるかぎり改善をはかりたい。

結果報告書

授業科目名　現代の諸課題と学校教育Ⅰ
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　76　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	50	24	1	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	46	24	3	2	1		4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	46	23	4	1	1	1	4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	56	16	3	1			4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	52	15	8			1	4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	47	21	6	2			4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	45	24	6	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	54	17	4	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	46	26	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	53	19	3		1		4.6



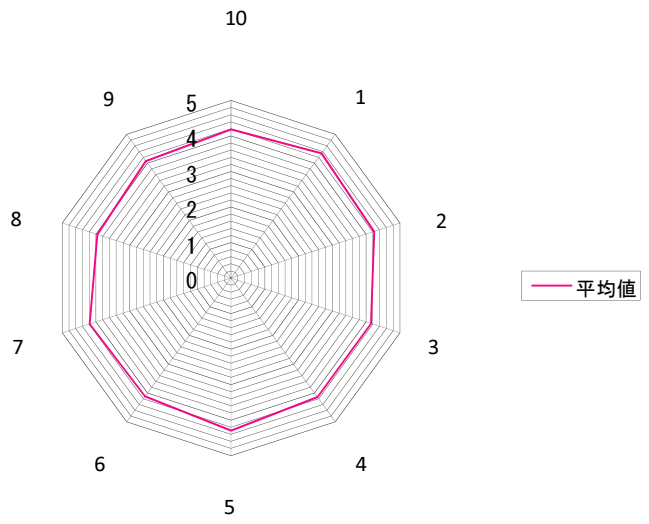
教員のコメント

シラバスのなかの「授業の趣旨」でねらったことがほぼ達成できたことが，自由記述のなかから明確に読み取ることができた。すなわち，「これまで当然のように思っていたことを批判的に再検討するいい機会になった」という感想である。今年はこれに加えて，提出された受講生のコメントの主なものを次時に紹介したことが好評で，受講生とのコミュニケーションとはかった点がとくに評価されたようである。

結果報告書

授業科目名　子ども理解と生徒指導
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　粟飯原　良造　　回答者数　121　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	61	44	13	2	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	60	40	14	4	3		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	54	41	19	4	3		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	53	42	16	7	2	1	4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	60	44	12	3	2		4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	59	35	15	7	5		4.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	58	38	18	4	3		4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	48	35	25	8	4	1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	49	41	22	8	1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	62	31	19	6	3		4.2



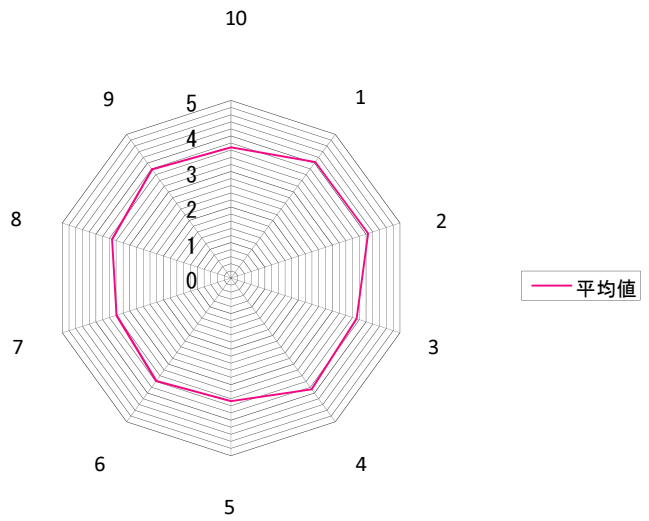
教員のコメント

全10項目の質問に対していずれも平均値は4.0点以上の評価を受けたので，授業内容および授業の進め方は適切であったと思われる。また，成績評価の項目は平均値4.1点であり，概ね適切であったと思われるが，評価2点および1点，無回答が10名あり，今後，より明確な基準を明示する必要がある。評価2点および1点が最も多かったのは，「受講生に分かりやすく説明した。」「板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」の2項目で12名（回答者121名の9.9%）でった。自由記述からもパワーポイントの見えにくさが指摘されているので，スクリーンに映して読みやすいパワーポイントつくる必要がある。他の自由記述では，マイクを使っているが講師の声が聞き取りにくいことがあると指摘されているので，マイク使用時に受講生に聞こえているか確認し調整していく必要がある。他に，講師が経験に基づき具体例を講義をしたことで子どもとその保護者の理解がすすんだ，レジメが役に立った等の記述があり，肯定的に受講生が講義をとらえていた。以上のことから，本講義は多くの受講生にとって有意義であったと考えられる。さらに有意義にするために，パワーポイント，マイクの使用を改善することが必要である。

結果報告書

授業科目名　子どもの発達支援
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　田村　隆宏，島田　恭仁，津田　芳見，浜崎　隆司　回答者数　107　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	36	43	25	2	1		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	40	38	25	3	1		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	28	34	34	9	2		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	33	41	21	10	2		3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	21	30	37	14	4	1	3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	24	37	26	17	3		3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	27	39	13	7		3.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	39	25	11	9		3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	37	34	6	2		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	21	46	29	7	4		3.7



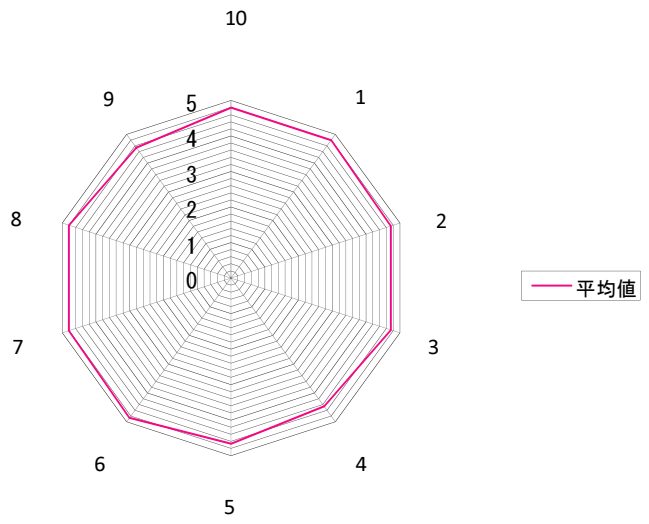
教員のコメント

項目(1)と(2)と(4)については「4」前後の評価であり，概ね内容を達成していたと考えられる。ただし，(5)(7)(8)では「3．5」前後の比較的低い評価点であったことから，今後は，特に授業を進める速さの再検討，教科書や配布する資料，及び板書，視聴覚機器の使用についての再検討が必要であると考えられる。その他の項目の内容についてもさらに検討する必要があろう。

結果報告書

授業科目名　人間形成文化史研究
評価実施日　平成22年8月11日
担当教員名　烏田　直哉　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	1		1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	4					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	4	2				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	3	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	3					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	3					4.8



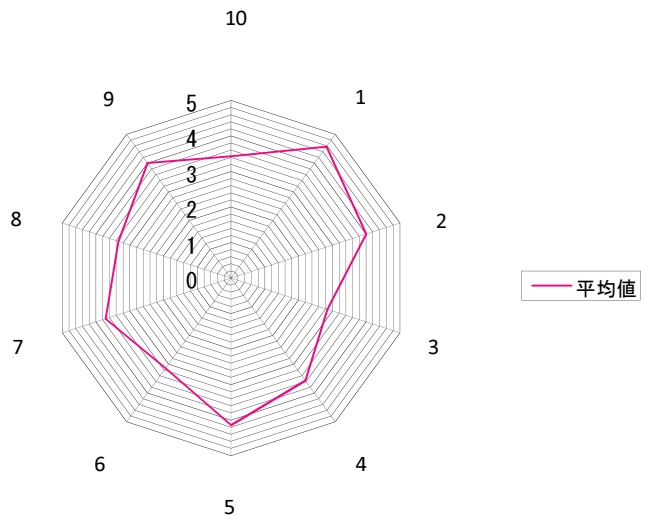
教員のコメント

大学院に対しては初めての授業で、何をどのように示せばよいのか模索しながらの展開になってしまいました。しかし、私自身も様々な点で勉強になり、今後の授業の在り方を考える上で大きな収穫でした。ありがとうございました。

結果報告書

授業科目名　教育哲学研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2	3	1	1		2.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	3	1			3.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4	1				4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	3	2			3.1
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2	2	1			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1	3	1		1	3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	3	1	2			3.4



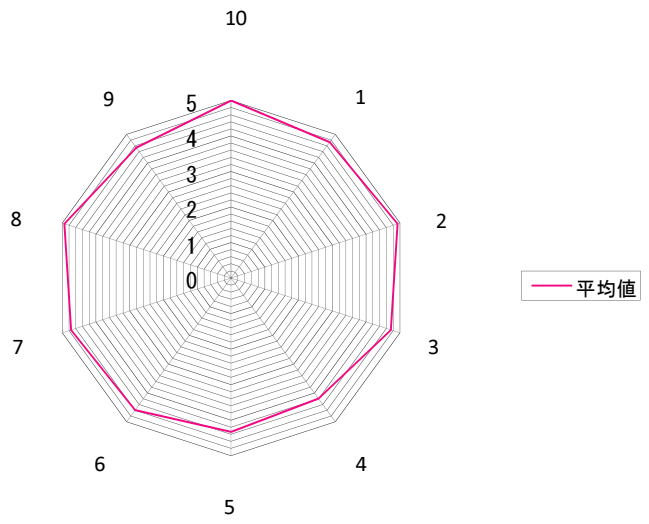
教員のコメント

本講義では西田幾多郎『善の研究』をテキストとして、西田を中心に近代日本の哲学に対する基礎的な知見を得ることを、目的としている。評価は全体としてみれば、教師の実践力養成に資する点が弱いという評価と受け止めた。歴史的観点から見れば、西田を始めとする京都学派の哲学と、信州の信濃教育会の関係が参考になる。大正九年に信濃哲学会が組織され、それ以降、長野県下の教員には、京都学派の哲学を学び、それを実践に生かそうという機運が高まっていった。西田やその門下の哲学者が招聘され、講演会等が組織された。長野県・上水内教育会の峰村鉄男によれば、哲学を学ぶことにより、個人の人生観の確立、職業人として多忙な中でも無私をつらぬけるようになる。さらに、様々な価値観が見え、教育的諸課題に適切に対処できるようになる。教科等の指導面でも、真の共生・平等の心で子どもの前に立つことが出来るようになり、道徳の根底にある宗教的情操にも理解が深まるという。哲学と教育実践力の関係を長い目で見ていきたいものである。

結果報告書

授業科目名　発達健康心理学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	9		1			4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	6	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	6					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	4		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15						5.0



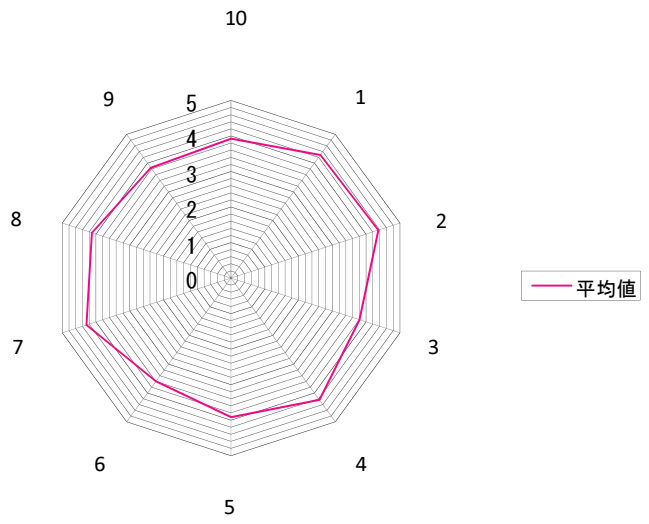
教員のコメント

総合評価において、受講生全員が満点（5評価）の評価を示した。これは、授業者にとって初めての体験である。この全員満点を目指すことが、これまでの教育活動の目標でもあったが、それが達成された授業になった。しかしこの結果は、授業者の授業がよかったというよりも、受講生の真摯で誠実な姿勢のあれわれであろう。それほどに、素晴らしい受講生であった。授業者としては、そのことに心から感謝している。このコメント欄では、毎回、今後の発展のために反省の視点を記述していた。しかし今回は、あえて、その視点を提示せずにおきたい。ただ、すべての受講生とともに、この授業の心地よい余韻に浸りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　教育認知心理学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　皆川　直凡　　回答者数　25　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	12	3				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	7	3	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	7	8	1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	7	6				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	10	5	1	1		3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	9	5	4	1		3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	11	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	7	6	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	9	5	2	1		3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	9	6	2			3.9



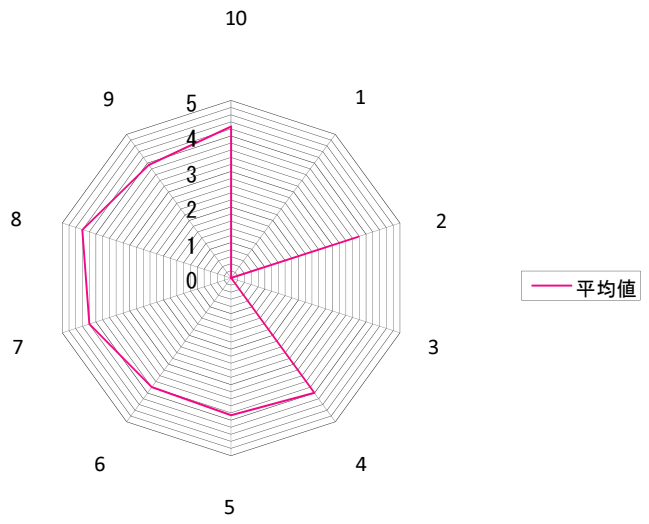
教員のコメント

質問項目(10)総合評価が5と4の計17名(A群とする)と，それが3と2の計8名(B群とする)のそれぞれについて，質問項目(1)～(9)に対する平均評定値を算出した。その結果，A群における平均評定値は，項目順に4.5，4.7，4.3，4.5，4.3，4.1，4.5，4.4，4.4であった。項目(1)・(2)・(4)・(7)が特に高いが，全項目において平均評定値は4.0を越えており，個々の項目への評価が総合評価に反映されていることがわかる。一方，B群における平均評定値は，項目順に3.9，3.6，2.8，3.8，3.1，2.6，3.9，2.6，2.8であった。B群では，項目(1)・(2)・(4)・(7)での評価が比較的高く，項目(3)・(6)・(8)・(9)への評価が低いことがわかる。また，項目(2)・(3)・(5)・(6)・(9)では，A群とB群との間に1以上の開きがあった。特に，項目(9)すなわち受講生の主体的・積極的取り組みにおいて，大きな差がついたことが注目され，この差が，他の項目の群間差に影響を及ぼしていると考えられる。A群の満足度をいっそう高めることを最優先に，この問題にも取り組みたいと考える。

結果報告書

授業科目名　比較教育社会学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　伴　恒信　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。						15	######
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	5	3			6	3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						15	######
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	6	3	1			4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	5	3	2			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5	5	1			3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	10	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	7	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	8	1	2			3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	9	1				4.3



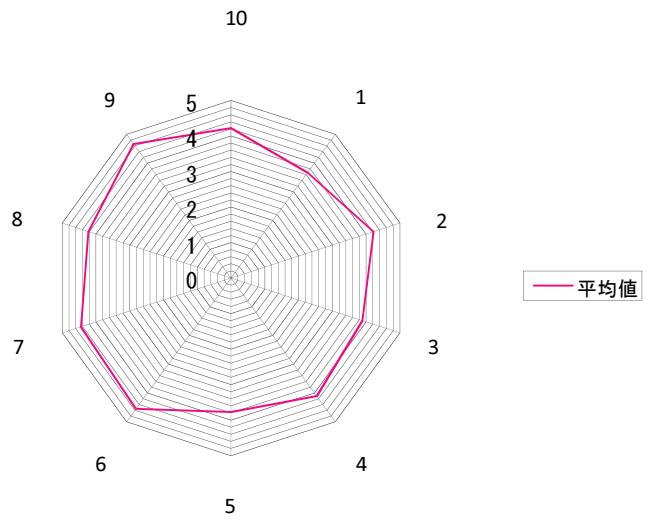
教員のコメント

昨年度、海外で収集した人権教育やシティズンシップ教育に関する最新の資料を英語の原文（簡易で日常的な文章）で読む課題を出したところ、現職教員は大きな関心を示して熱心に取り組む一方、学部卒院生は基礎知識の無さやあまりに低い英語力のために全くついていくことができなかった。今年度はその反省に立って、演習的な課題は一切出さず、基礎知識を確認しながらの講義に徹した。良かった点との指摘で多かったのが、「様々な映像やスライドを用いながら先生自身の体験談を入れ、分かりやすく説明してくださった」「歴史や現代社会など広い分野にわたったため、毎回意欲をもって学ぶことができた」「社会的背景など、今の日本や世界の問題を知ることができた」「日本だけでなく、世界の教育について知ることができ、先生の体験などをまじえて話していただいたのでわかりやすかったです」といった感想である。改善すべき点としての感想では、「もう少し授業内容について議論する時間をもちたかったです」「スライドのページを変えるのが少し早かったです」「シティズンシップ教育のところをもう少し時間をかけてほしかったです」「受講生のレベルに合わせてくださったのだろうが、一般教養的な授業になってしまったことは否定できない」「授業内容が多かったため、集中力が持続しずらかった」など、講義者としては昨年度の反省に立って講義中心の授業にしたことである意味予想通りの反応が返ってきた。近年、教育への課題意識を持っている現職院生と基礎知識にも欠ける学部卒院生とのレベルの差がますます拡大しており、この間のバランスを一つの授業で取ることが難しくなってきている。このことについて良く理解してくれる受講生もいて、「全受講生の希望を叶えることは難しいと思いますが、いろいろな工夫を試みて授業をつくって下さったことに感謝します」「伴先生の授業は初めてでしたがいやされました」「先生の笑顔がすてきです」との感想を述べてくれる人もいることで、授業者の方も癒され、さらなる改善への意欲がわいてくるのである。

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉研究
評価実施日　平成22年9月17日
担当教員名　樫田　美雄　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	4	4				3.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1	1			4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1	1			3.9
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3	1	1			4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2	4	2	1			3.8
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	1		1			4.6
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	3	1				4.4
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4		1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4		1			4.2



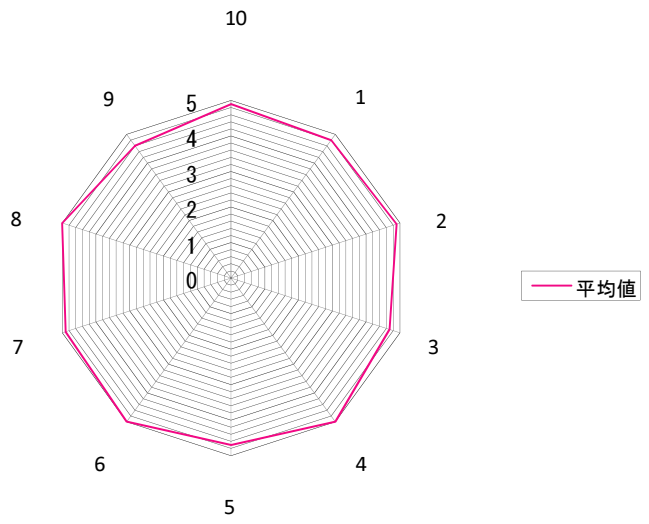
教員のコメント

非常勤であるため、事前の履修指導が行き届かなくて学生さんは戸惑うことがおおかったと思います。しかし、学生さんの方がまじめに取り組んでくれたため、毎日すこしづつ学生さんの学習状況に対応した授業運営を行うことができ、最終的には満足して頂ける授業実践ができたと自負しています。ただ、お一方の学生の方とは、すれ違いが生じてしまいました。打たれ弱い最近の学生さんの状況を理解して、今後は授業運営をしていこうと思います。こちらとしては、なんとか、授業についてきてもらいたいがために、手をかえ、品をかえ、角度を変えて、質問を連発したつもりだったのですが、受け手の方としては、それを攻撃として受け取られたのでしょう。学生さんのそのような受け取り方を導かないよう、性格を見定めて、今後は対処していこうと思っています。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理研究
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9			1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



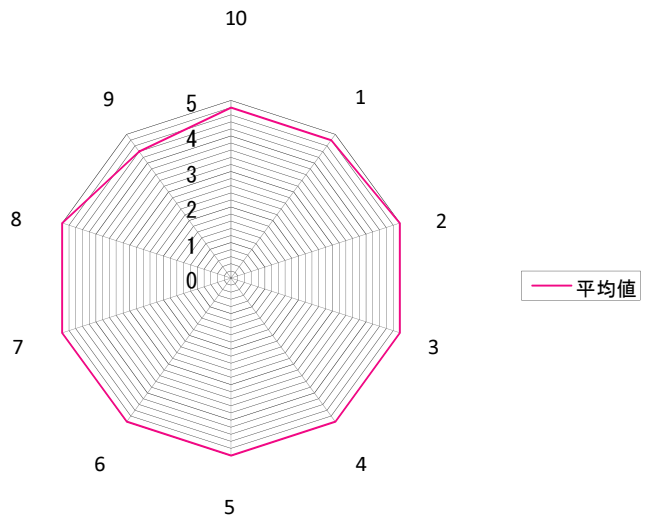
教員のコメント

全評価項目を通じて，「4．5」以上の高い評価点が得られたことから，概ね学生にとっても望ましい授業であったと考えられる。ただし，一人のみではあったものの「2」という低い評価点がついた授業を進める速さについては検討を要する。また，ごく少数ではあるものの「3」の評価点がついた教師の実践力育成にかかわる内容と，学生が主体的・積極的に取り組むという点については今以上に改善を目指したい。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学研究
評価実施日　平成22年7月12日
担当教員名　橋川　喜美代　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3					4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



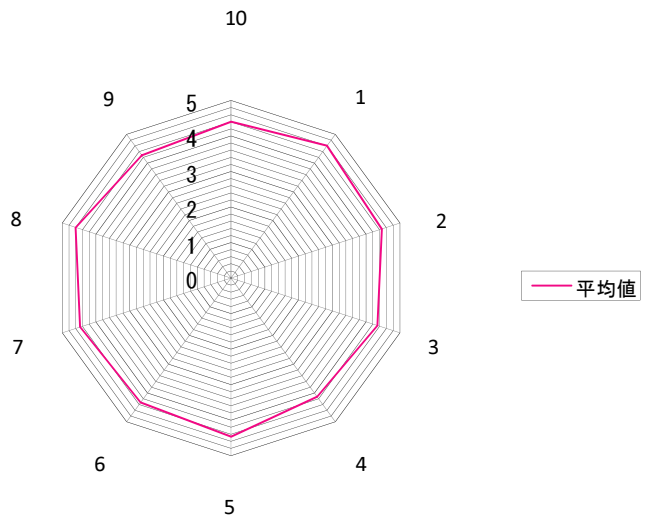
教員のコメント

今年度は、教育実践フィールド研究との関わりから受講生と話し合いながら、授業の曜日を変更し、変則的な形で進めた。そうした変更にもかかわらず、受講生は概ね満足しているようで安心している。ただ、受講生自身の授業への取り組みは依然として落ち込んでいるので、もっと積極的に取り組める課題を工夫し、学習への意欲を喚起する必要がある。オリエンテーションの時点では、国内外の保育実践をとりあげようとすることに、受講生から盛り沢山すぎるといった声も聞かれたが、大きな負担にはならなかったようである。受講生たちの感想では「資料やパワーポイントがわかりやすく、具体的に話され、学生の質問にきちんと答えてくれた」「自分たちで調べた保育実践をまとめて発表する作業は大変だったが、とても身になってよかった」「大学時代にはまったく聞いたこともないようなことが殆どで新鮮だった」「幼児教育の歴史に触れることができて良かった」と述べている。また、保育現場に入って乳幼児たちに触れたことも新鮮だったようである。

結果報告書

授業科目名　文化間教育総論
評価実施日　平成22年7月23日
担当教員名　小西　正雄，太田　直也　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	4	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4	2				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	6	2				4.3
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	7	3				4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	8					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8	4	3				4.3
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	6	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	6					4.6
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5	3				4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2	2	1			4.4



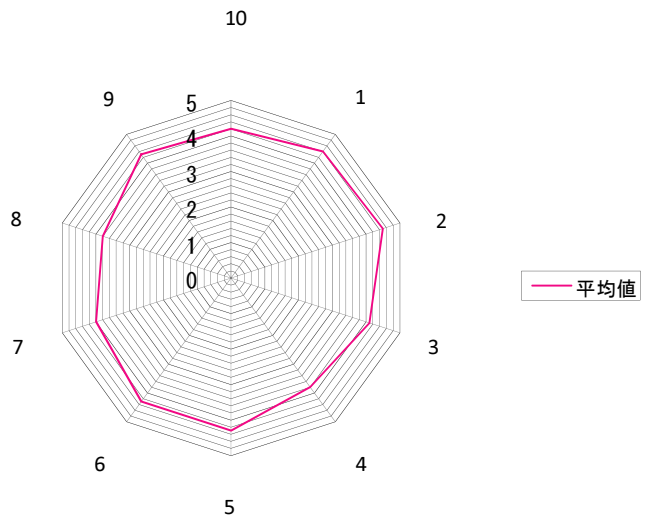
教員のコメント

授業前半はポストコロニアルの時代における多文化主義の問題点を中心に論じ、言語教育についての私見を述べた。やや社会言語学的側面が強かったかもしれないという反省はある。後半ではさらに教育あるいはさらに現実的に学校現場を念頭に置いて現代文化を論じた。反反本質主義に関する諸々の説明は、受講生には大きなインパクトがあったと思われる。時として難解な文化論に戸惑いを感じているかに見えた受講生も見受けられたが、総じて良好な評価を得たことに満足している。

結果報告書

授業科目名　文化間教育演習Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	6					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	5	2				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	4				3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	7					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	5	1	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	4	4				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	4	2				4.2



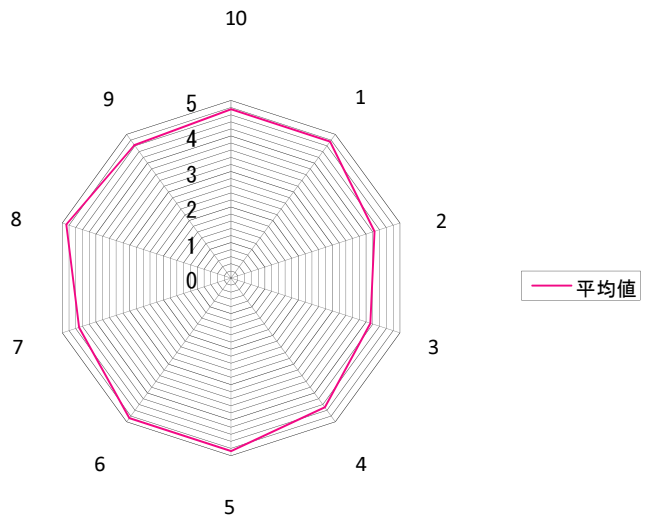
教員のコメント

自由記述欄への記入は,「論文読みをした経験がなかったので役だった」という趣旨のものが散見される程度で特段の指摘はなかった。
受講生のレディネスに大きな偏差があることはどうしようもないことで，提示された論文を難解と感じた者もおればそうでない者もいるという
状態で，しかも少人数だったので，授業評価そのものの平均値からの示唆は得にくい。

結果報告書

授業科目名　文化間教育演習Ⅱ（地域研究）
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　太田　直也　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	3				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	2					4.8



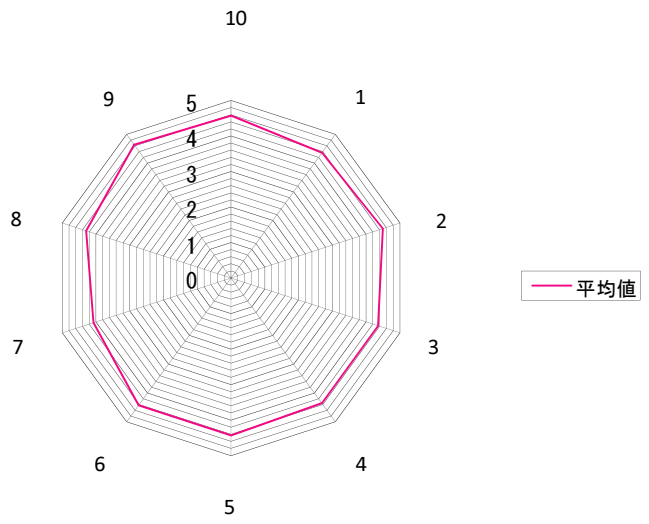
教員のコメント

受講者たちの好意的な評価には感謝するが、授業担当者としてはさらに多くのことができたのではないかとの思いと申し訳なさが残っている。受講者たちの自主性を重んずることはできたが、系統だった「調べ学習」の機会を十分に与えることができなかったのは反省点として、次年度に役立てたい。

結果報告書

授業科目名　情報教育総論
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　谷村　千絵，藤村　裕一　　回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	9					4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	5	1				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	9					4.4
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	7	1				4.4
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	6	1				4.4
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	7	6	1				4.4
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	7	3				4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	6	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5					4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	6					4.6



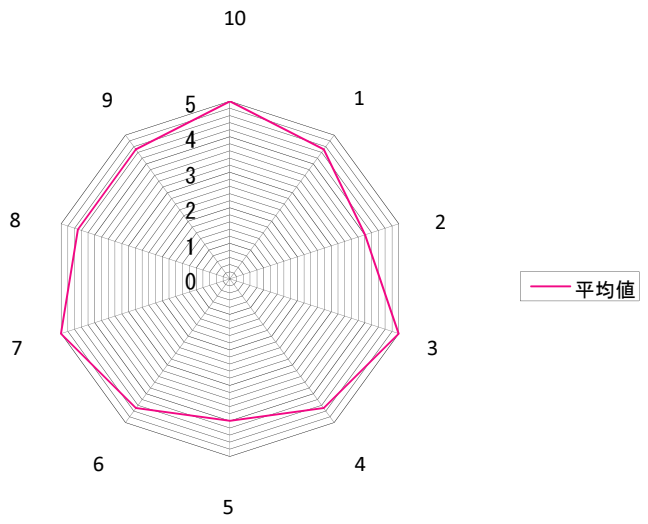
教員のコメント

おおむねよい評価を得ることができた。今後さらに学生が授業の趣旨と内容を理解できるように授業を工夫し，3の評価の解消を目指したい。
自由記述欄には，「現代の情報社会をリアルタイムで触れ，身近な問題として考えなければいけないという現実を目の当たりにすることができた」「情報教育に興味をもつことができた」「受講生の考えや発言を尊重してくれた」「勉強になった」，「来年も行うべきだと思う」等のコメントがあった。
また，「二人の先生が違う視点から情報教育を考えているところ」，「情報というテーマにおいて，さまざまな視点から考えることができてよかった」，「2名の先生のそれぞれの専門分野を学ぶことができた」が良かった点として挙げられた。
しかし，授業担当教員2名のそれぞれの授業内容のつながりをもっと明確にしてほしいとの意見が2名あった。そこで，総括ディスカッションの場を設けるなど，2名の教員の授業内容を，受講生自身が再構造化してとらえられるよう，工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　情報教育特論Ⅲ（実践論）
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　藤村　裕一，谷村　千絵　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1		1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



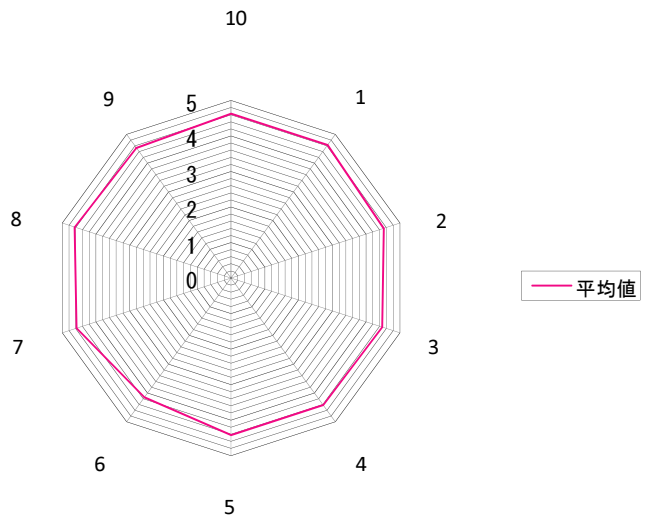
教員のコメント

授業は，少人数で模擬授業を中心にディスカッション重視で行った。実践力育成，教材の的確さ，総合的評価について，高く評価されている。専門的な知識の獲得と，授業の進む速さに関して評価が分かれた（5と3）。受講学生の属性は現職教員とストレートマスターで，授業の受け止め方に若干の差があったことが予想される。今後は，授業で取り扱う専門知識の理解および授業の進む速さについて，受講生の様子をより丁寧に把握して対応するよう努めたい。

結果報告書

授業科目名　環境教育総論
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　西村　宏，近森　憲助　　回答者数　19　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	7					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	7	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	6	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	5	3				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	11					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	7	3	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	6	1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	7					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	9					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13	5	1				4.6



教員のコメント

回答者全19人の総合評価平均値は4.6で，ほぼ所期の目的が達成されていると判断できる。本科目は本年度からの開講となる科目ではあるが，授業科目改正前の旧カリ「環境教育特論I」に相当する内容で，シラバスにも記したように，教材開発や授業開発などの実践・応用科目への導入部分に位置づけ，環境教育を理解するために必要な基礎的内容に徹した科目内容とした。受講生はこの点を比較的理解していたことが，(10)の総合評価及び(1)のシラバスの理解の項目への回答で明らかとなった。

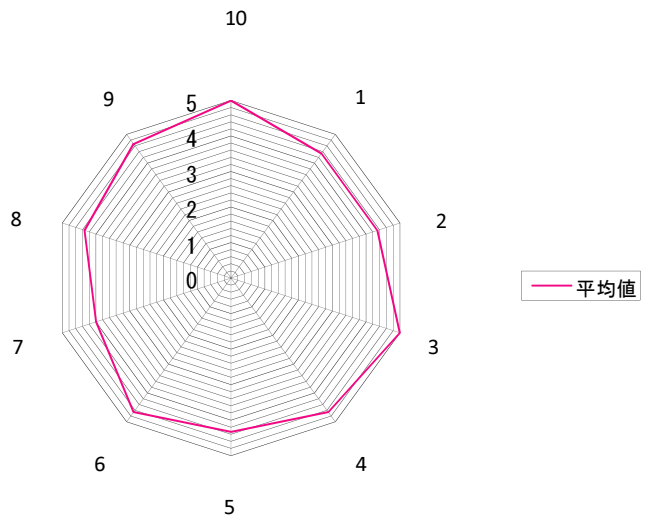
以下に受講生によって記された自由記述欄の記述をそのまま引用し，具体的にどのように評価されたかの参考とする。

○専門的な内容について取り上げるとともに，私たちの身近なものとの結びつきも取り上げられていた点が良かった。
○環境について様々な所から見ることができて面白かった。環境教育についてもくわしく具体的な講義で分かりやすかった。
○環境と人間とのかかわりをいろいろな面から考えることができたことが楽しくてよかったです。
○学校現場で行われている一般的な「環境教育」を見直す機会となった。
○授業の終わりに書いた質問には，次の時間にすぐに答えてくれたところがよかった。
○受け身ばかりではなく，受講生をまきこんだ学習があり，授業の組み立てがすばらしかった。
○環境倫理を批判できる点には驚きました。
○環境に対しての知識があまりなかったが聞いていて楽しく，解説もとてもわかりやすかった。

結果報告書

授業科目名　環境教育特論Ⅱ（授業開発）
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　近森　憲助，西村　宏　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	2					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	2					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1	1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



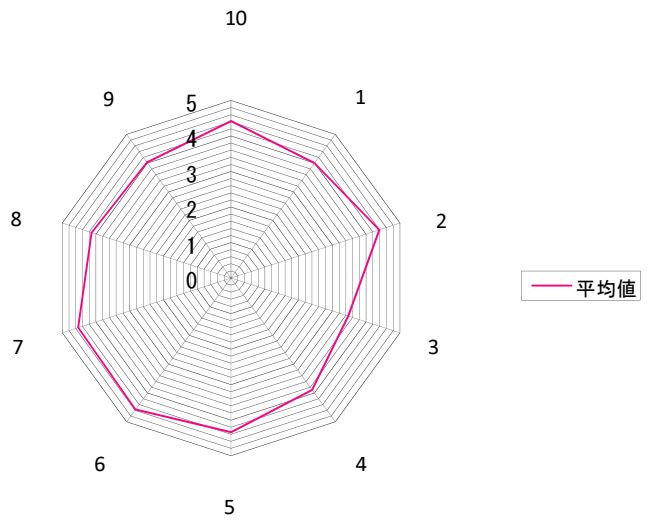
教員のコメント

すべての質問項目において4．0以上の高い評価が得られている。また、コメントにおいても「今後の授業実践で活かせる授業内容だったので大変役に立った」「環境教育の授業設計をするにあたって既存の環境教育の枠組みにとらわれない自由な発想で立案することができた」など授業内容に肯定的なものが見られた。この理由は、受講者が3名と少なかったこともあり、授業づくり・模擬授業・授業の検討を核とした学生の活動を中心とした授業を実施できたことによるものと思われる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅰ
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　吉井　健治　　回答者数　38　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	17	6	3			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	13	2	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	15	14	5			3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	14	10	1	1	1	3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	18	15	5				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	10	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	12	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	10	10	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	20	4	3			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	21	12	5				4.4



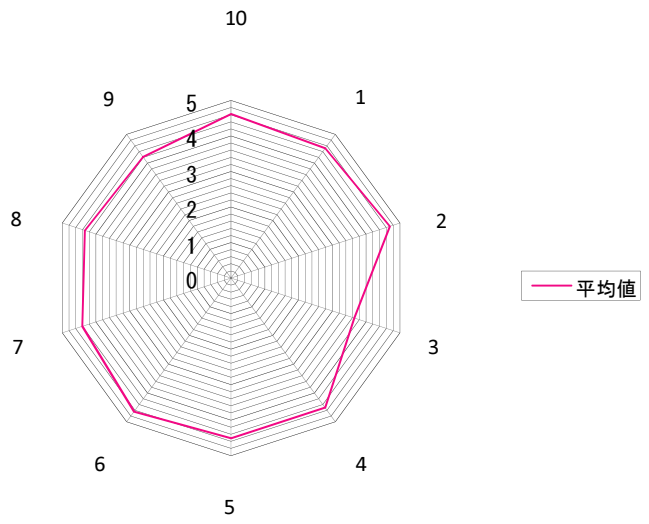
教員のコメント

総合評価の平均値は4．4であり、本講義は全体的に高い評価だったといえよう。ただし、第3項目の平均値は3．5だったが、これは本講義が臨床心理士養成を目的とする内容だったので、仕方ないことかもしれない。自由記述欄には、良かった点として、「具体的な事例を提示してもらって分かりやすかった」、「理論的な内容も具体例や喩えがあってよく理解できた」など分かりやすいという評価が多かった。他方、改善点としては、「もう少し板書をしてほしい」、「配付資料があって良かったが、全体の流れがつかみにくいところもあった」があった。その他としては、「先生の人柄を通して心理臨床家としての態度を学んだ」、「雑談やユーモアがあって楽しい授業だった」があった。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅱ
評価実施日　平成22年7月23日
担当教員名　葛西　真記子　　回答者数　37　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	12	3				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	5	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8	12	2	3		3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	24	10	2		1		4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	21	14	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	5	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	19	14	4				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	20	11	5		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	15	5		1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	7	2	1			4.6



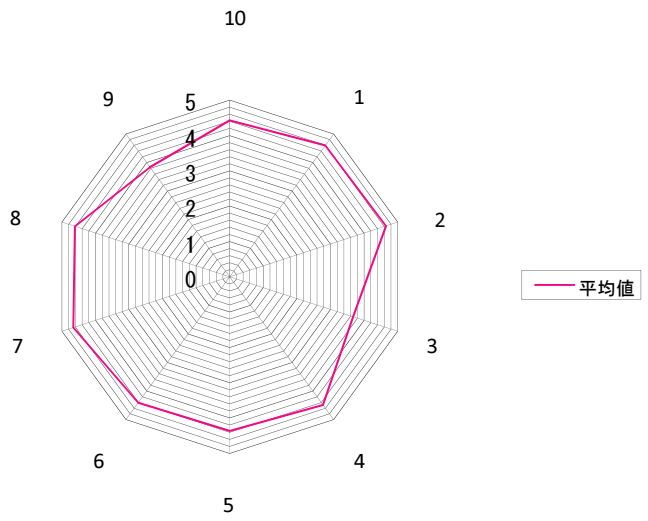
教員のコメント

本授業の総合的評価は、平均点が4.6であり、「とてもよかった(5)」が27名「よかった(4)」が7名であり、ほとんどの受講生が満足しているようだった。各項目でもほとんどの項目で4.0以上であり、特に高かった項目は、「専門的知識を深める」、「受講生にわかりやすい」であり、担当者が意図し、シラバスでも説明をしている臨床心理学の専門的知識を深め、実践に役立つ内容となっていたようである。また、授業概要の説明も適切で、成績評価の方法の説明も適切であり、授業の進む速さも適切と判断されていた。特に改善点とすれば、平均点が他の項目より低かった「教師の実践力の育成につながる内容であった(平均3.6)」「板書や視聴覚機器の使用は適切であった(平均4.3)」であるが、前者には、講義の意図する方向が臨床心理士の育成であることが影響していると思われる。授業中に児童生徒理解に理論をいかに役立てることが可能かについても言及しているが、より具体的な内容が求められると推測する。また受講生が現職教員が4名、教師を目指している者が数名であるということも影響していると思われる。後者の板書や視聴覚機器であるが、毎回プロジェクターを使用して説明をしたが、必要に応じて板書や他の視聴覚を使用する方法も今後検討したいと思う。最後に、「受講生が授業に主体的・積極的に取り組んだ」という項目であるが、これも他の項目より少し低くなっている(平均4.2)。受講生が主体的に取り組めるように、教員からの一方的な講義ではなく、ディスカッションや宿題、質問など、受講生の参加を積極的に取り入れる方法を考えていきたい。自由記述の回答からは、内容が具体的、実践的でわかりやすかったという内容がほとんどであり、精神分析的理論への興味が増えた院生も多かった。改善点としては、スピードを落とす、資料の字を大きくすることがあげられた。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　49　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	32	14	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	13	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	16	21	1	1		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	25	23	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	24	20	4	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	19	5				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	35	12	1	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	33	14	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	18	15	3			3.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	24	2				4.4



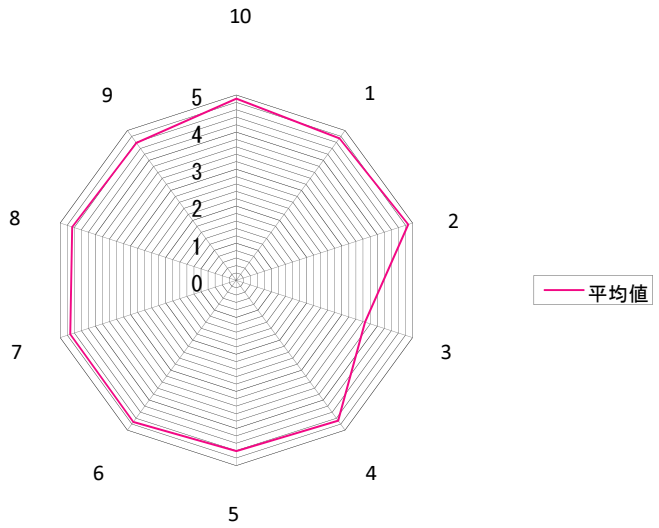
教員のコメント

総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」に関しては4.4点を獲得しており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考える。(1)～(9)の各項目ごとの評価でも、平均点が4点を超えていたものが7項目を占め、概ね高評価を得たものと判断される。ただし「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては平均点が3.7点、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に関しては平均点が3.8点であり、わずかに4点に届いていなかった。(3)に関しては、精神保健の観点からの児童理解が教師の実践力の育成にとって重要であることを今後改めて授業内でわかりやすく周知していきたい。(9)に関しては、講義形式の授業であるためどうしても受講者が受け身的になってしまう傾向があるため、今年度も授業内でクイズ形式での知識の確認や、事例の紹介なども取り入れるようにしており、アンケートの自由記述においても「もう少し受講者が参加できる形式を取り入れて欲しい」という意見が寄せられたので次年度以降授業の形式をさらに工夫し、受講生が積極的に参加できるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅰ
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　久米　禎子，佐藤　亨，葛西　真記子，今田　雄三，回答者数　41　人
粟飯原　良造，中津　郁子，吉井　健治

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	32	7	2				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	37	3	1				4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	8	19	3			3.7
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	28	13					4.7
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	27	13		1			4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	30	11					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	31	8	2				4.7
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	31	7	2	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	10	2	1			4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	37	4					4.9



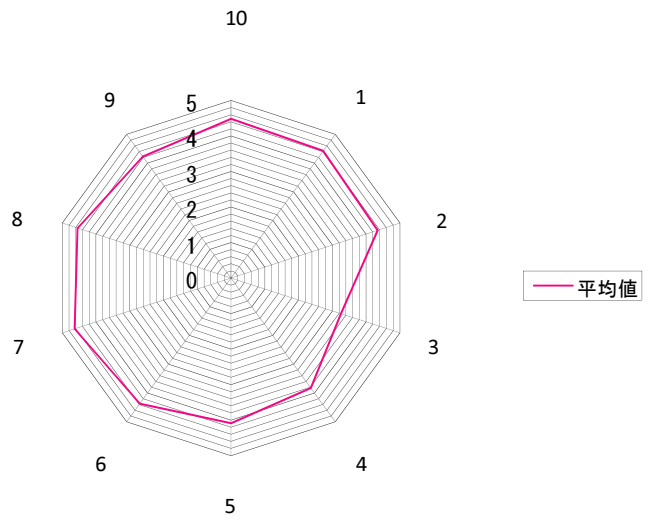
教員のコメント

本授業は全体的に高い評価が得られている。とくに総合評価は4.9という高評価である。自由記述で書かれた内容から推測すると，基礎的な内容を幅広く扱っていること，作業やレポートを課し体験的に深める内容になっていることなどが，この評価につながっていると思われる。質問項目(3)の評価は3.7である。この項目は，「教師の実践力の育成につながる内容であった」という内容であるが，臨床心理士養成コースの専門的な内容である本授業は，そもそも目的が異なっているため，このような評価になっていると考えられる。自由記述でレポート返却の要望が複数あった。今後の検討課題としたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究法特論(前期集中分)
評価実施日　平成22年9月16日
担当教員名　田中　秀紀　　回答者数　35　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	18	14	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	9	4	2			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	14	7	2		3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	9	11	2	1		3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	17	10	4	2	2		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	11	2	1	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	24	10		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	24	7	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	16	2	1	1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	21	11	2	1			4.5



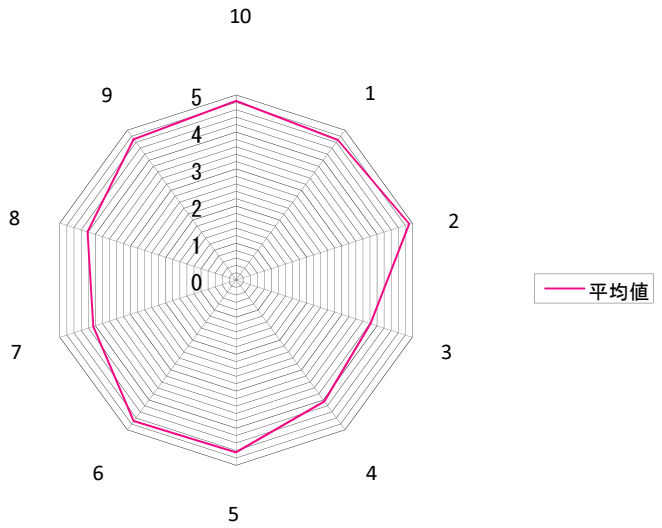
教員のコメント

心理統計という、心理学のなかでももっとも理解が難しく理数系の発想が必要な分野の授業でありながら、学生は主体的・意欲的にとりくんだと思う。今後もより学生の理解が定着しやすいような授業にしていきたいと考える。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接演習
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　粟飯原　良造，今田　雄三，葛西　真記子，中津　郁子，吉井　健治　　回答者数　37　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	8	2				4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	3					4.9
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	12	11	2	1		3.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	13	9		1		4.1
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	26	10		1			4.6
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	26	11					4.7
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	14	11	12				4.1
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	19	8	9	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	28	8		1			4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	31	6					4.8



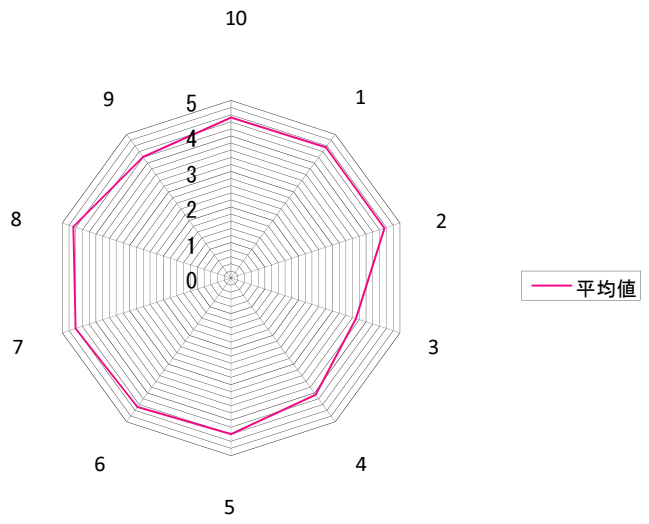
教員のコメント

質問項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」のみ平均値は3.8点で，それ以外は，平均値は4.1～4.9点であり，特に「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」は回答者全員が4点以上であった。総合評価も回答者全員が4点以上で，平均値は4.8点であった。本講義は面接を想定したロールプレイで行われる少人数制の講義であり，教師の実践力の育成につながるかどうかは受講生本人の学び方に左右されると思われる。自由記述では，少人数制での講義なので理解がすすんだ，ロールプレイをの経験の有無にかかわらず面接のスキルアップにつながったとの記述が多かった。特記すべきは，改善点にはビデオではなくDVDでロールプレイを見られるようにしてほしいという意見のみであったことである。以上のことから，本講義は受講生の要望に十分に答えたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅱ
評価実施日　平成22年7月23日
担当教員名　粟飯原　良造　　回答者数　33　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	22	8	2	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	7	1	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	8	8	1	4		3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	9	3	4	1		4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	19	9	4	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	21	9	2		1		4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	8	1	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	9	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	15	4	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	10	3				4.5



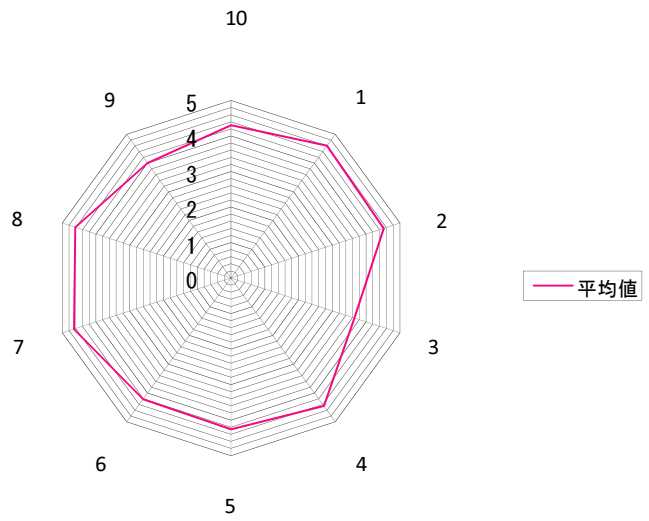
教員のコメント

質問項目(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」以外の質問項目は平均値4.1～4.7点の範囲であり，全10項目の平均値は4.5点なので，授業内容，授業の進め方は概ね良好であったと思われる。質問項目(3)の平均値は3.7点だが，回答者33名中28名が評価が3～5点で，うち12名が評価5点であった。本講義は臨床心理士養成コース大学院生対象であり，臨床心理士を目指す大学院生向けの講義であるので評価が低いと考えられる。「成績評価の方法の説明は，適切であった。」では，評価2点が4名，評価1点が1名であるので，毎年1回目の講義に成績評価の仕方について大学院生により詳しい説明が必要と思われる。自由記述では，講義で学んだことが実践に役立った，ワークが面白かった，レジメに図式が多くてわかりやすかったとの記述が多かった。マイクの使用で講師の声がよく聞こえたとの記述があり，前年度まで講師の声が聞き取りにくいと言う記述はなくなったので，マイク使用が効果的であったと思われる。以上のことから，本講義は受講生の要望に応える講義がされたと考えられる。

結果報告書

授業科目名　社会心理学研究
評価実施日　平成22年9月30日
担当教員名　佐藤　健二　　回答者数　46　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	32	10	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	28	14	4				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	11	24	1			3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	26	15	5				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	21	18	5	2			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	17	8	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	33	10	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	33	8	5				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	20	5	4	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	20	20	6				4.3



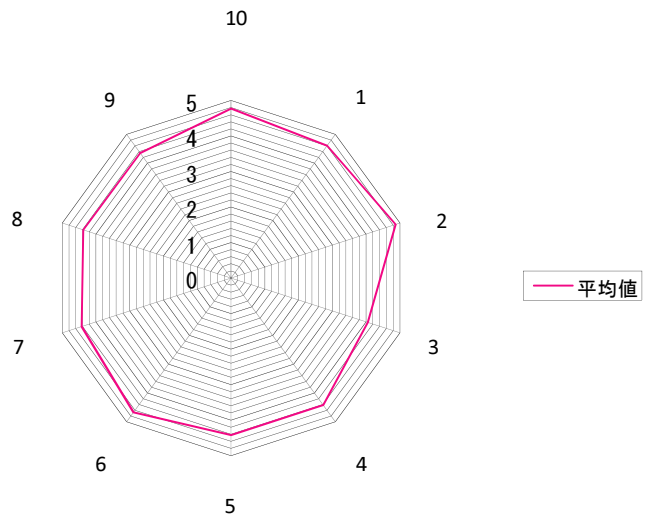
教員のコメント

総じて，4点以上であり，大きな問題点は無いと思われる。記述式のコメントを読んでも，概して，内容は具体的で，興味深いものだったことが伺われた。ただし，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」と言う点については，3．6点であり，改善の余地が有る。もっとも，「社会心理学」と言う学問分野の性質上，実践的な内容は元来，少なく，その点では，妥当な評価とも言える。今後は，より実践に生かせる内容とすることを考えたい。

結果報告書

授業科目名　心理臨床特別研究
評価実施日　平成22年9月23日
担当教員名　山本　力　　回答者数　40　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	10	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	5					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	9	13	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	22	14	3	1			4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	25	9	4	2			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	30	7	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	25	9	4	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	11	4	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	14	3	2			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	31	9					4.8



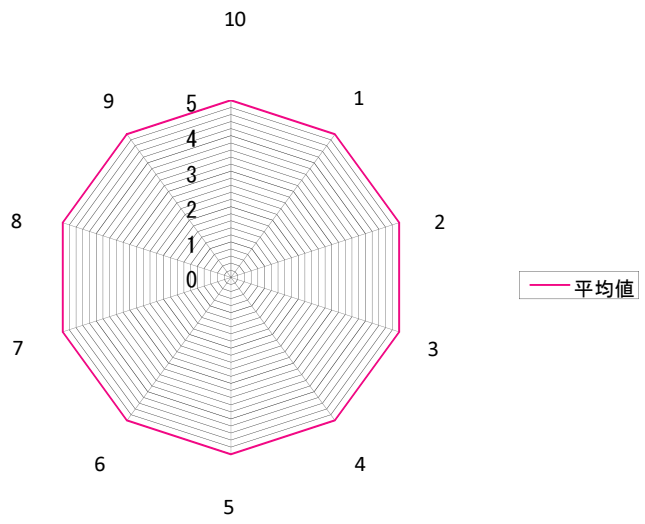
教員のコメント

院生の聞く態度のよさに支えられて，対話を伴ったよい講義を展開できたと思う。分かりやすさに心がけたが，想定通りでよかったと思う。評価がやや低い教師の実践力の育成について科目の性質上やむを得ない。総合評価4．8は教師としても励みになるもので，さらに工夫を重ねていきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター概論
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



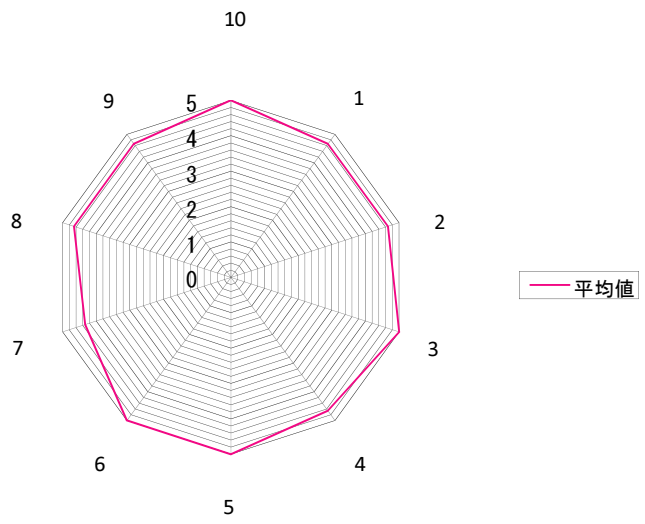
教員のコメント

受講生の人数が少なく、その分、発表回数が多くなるため、レポートや発表資料づくりに追われる授業であったことが、自由記述から読み取れる。評価点の平均5ポイントというのは、院生自身のがんばりへの実感があってのことと思われる。自由意見にもあったが、発表に続く協議において、自身の意見を充分言えなかった感があるのは、授業者の問題もあると考えられる。「わからない」ことも出しながら協議の中で学びあっていける協働学習を進める工夫が、授業者として必要であると考え、来年度の授業展開を考えていきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実地教育
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2		1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



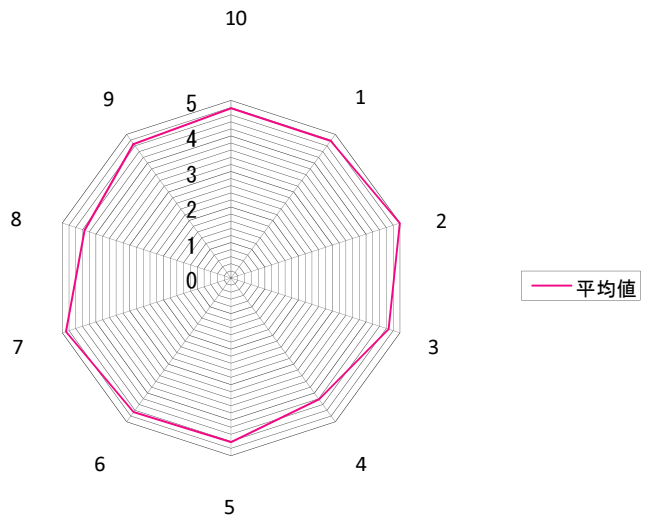
教員のコメント

一つを除いて、4.7ポイント以上であるため、この授業の目的を充分果たせたと考える。4.3であっった「教科書や配布された資料は，適切であった。」に関しては、院生自身が主体的に教育活動に取り組むという授業内容の性質上、院生から要求のない教員からの一方的な資料配付はなく、また、授業（教育活動）を進めるに当たっての資料等も院生自ら探し求めることも、実地教育としての目的であるため、この項目自体が、評価として適切ではない項目であると考えている。このことから、この項目には斜線を引いておくべきであったと言える。授業の時間以外の予習や復習にかける時間が非常に多くなる授業内容であり、2年生としては負担の高い授業であるにもかかわらず、3名共に非常に熱心に取り組み、協力してくれた幼児の変化も著しく、教育活動の成果が出ている。院生からも「今後に役だった」との意見が得られたので、来年度もこの内容・形態で継続していきたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅰ
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　八幡　ゆかり　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	5	1				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	3				1	4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	3					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



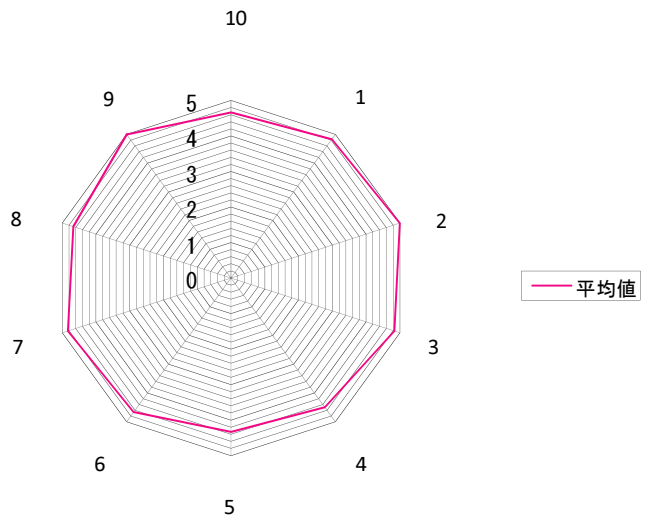
教員のコメント

総合評価が4.8であったことから，本授業について受講者の満足度は高かったと考えられた。その理由について，本授業科目が専門科目に位置しており，受講生の期待もこの点に重きをおいていたことが「授業でよかったこと」の記述内容から窺われた。この点について，設問の授業の内容「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」が全員「5」の評価を示しており，高い総合評価につながったと考えられた。また，「授業でよかったこと」の記述内容に「専門的な内容を実践事例を多くとりあげてわかりやすく話してくれた」といったことが挙がっており，授業の内容「(3)教師の実践力の育成につながる内容」の評価「4.7」に反映されたと思われた。そして，受講者の授業への取り組みについて「(9)主体的・積極的に取り組んだ」が「4.7」の評価になったのは，「授業で良かったこと」の記述内容に「毎回，話し合い，発言できるようにしてくれた」といった授業の工夫を授業者が行ったことが効果的に働いたと考えられた。なお，改善すべき点として視聴覚教材に使用したテレビが小さいことが挙げられており,施設・設備の面で今後,検討する必要があると思われた。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学研究論Ⅱ
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	4					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



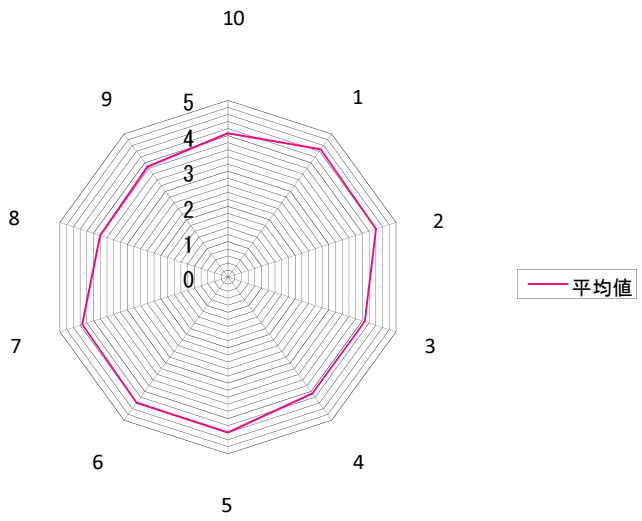
教員のコメント

授業に対する総合評価得点は高く、受講者にとって満足いく内容であったと考える。特に専門的知識の深化に関する得点が高く、受講生が求める特別支援教育に関する専門的知識の習得と本授業の構成が合致していたものと推察される。本講義では特別支援教育実践に関わる重要な3テーマを中心に構成しているが、この点については今後も継続して取り上げていくことが妥当であると考える。
また授業への主体的･積極的な取り組みに関する評価も大変高い。このことからも受講生の授業内容に対する興味･関心の高さが伺える。この点については、受講生の特別支援教育に関する熱意や受講意欲の高さによるところが大きいことも予想される。この結果を受け、今後もこのような受講者の期待に応えることができればと考える次第である。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床心理学研究論
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　15　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	6	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	7	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	8	3				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	6	4				4.1
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	4	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2	2	1			4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	4		2			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	2	1	2		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	4		1		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	6	4				4.1



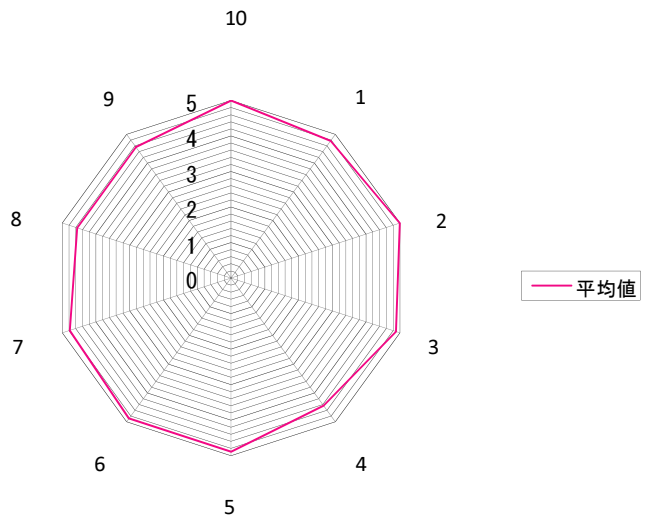
教員のコメント

この授業で最も受講生へ影響を与えたのは、具体的な支援機器の例であったり、当事者の声であったり、直接自分の体験に結びつく授業形式のときであったと感じる。そのため今後は特に、いかに主体的に授業に臨む展開を作るかを意識した授業づくりにしたい。また、理論や過去研究の紹介など、教員からの「説明」時には、板書や話し方等、今後の改善が望まれるところがあったので気をつけたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育学習心理学研究論
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　島田　恭仁　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



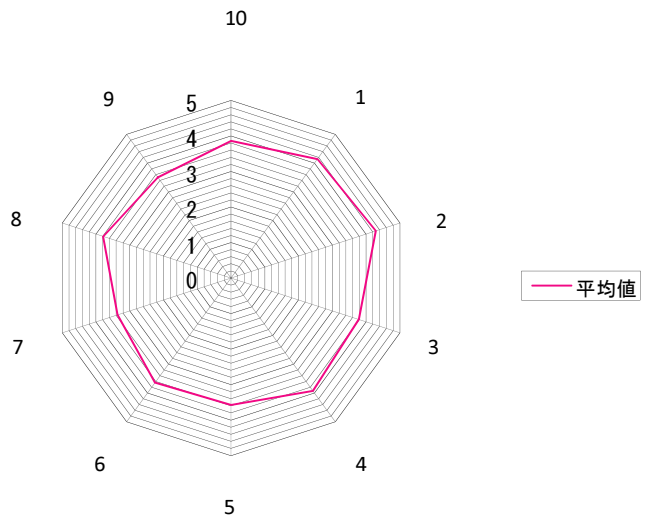
教員のコメント

大方の項目で，受講者9名全員が5又は4の高い評価をおこなったことから，授業の内容はよく浸透したことが確かめられた。特に，問2では9名ともが5の評価を行ったことから，本講が受講生の「専門的知識を深めるのに役立つ内容」だったことが分かった。昨年以上に分かりやすく心理学の実験データを紹介して，知的障害と発達障害の学習困難の諸相について説明したため，専門的な知識の理解を促すことができたと考えられる。また，問10でも9名ともが5の評価を行ったことから，本講の内容が受講生にとって「総合的に評価してよかったと思う」ものであったことが分かった。理論面のみでなく，事例に即して，アセスメントと指導のリンクを形成する方法を詳述したことにより，教育実践に役立つ知識・技能を求めるニーズに応えることができたと考えられる。しかしながら，問4では3の評価を行った受講生もいたことから，今後は「成績評価の方法」を工夫する必要があると考えられた。論作文による評価であったため，評価の観点が分かりにくかったのだと思われる。次年度は，論旨を整える練習を授業中に行った上で，論作をする等の工夫を加えたい。

結果報告書

授業科目名　発達障害児生理・発達学研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　津田　芳見　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	8	2				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	3				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	7	5				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	7	4				3.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	7	1			3.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	5	7				3.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	5	2	1		3.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	4	2	3			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	7		1		3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	8	4				3.9



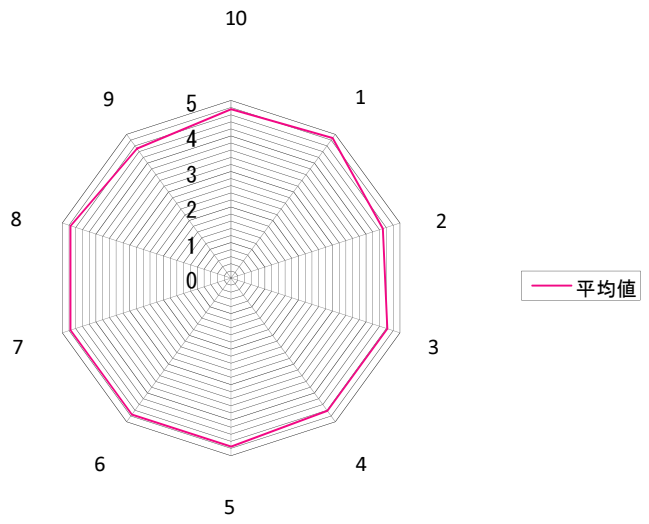
教員のコメント

授業の内容については、概要、専門的知識、実践力の育成など、おおむね高かった。授業の進め方については、ビデオや、DVDを使用したことが、評判がよかった。授業への取り組みは、熱心に主体的に取り組んでくれた人が多かった。この授業は、本来、特別支援教育のベースとなる障害児発達生理・発達学研究についての講義であるため、学生側の理解度には、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられるが、よく学んでくれていると思われる。教育実践力に役立つかどうかは評価が難しいところである。発達障害児の生理的・病理的特性を理解して、研究にどう取り組むか、今後の授業に反映させていきたい。」

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅰ
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　原　卓志，茂木　俊伸　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	2					4.8



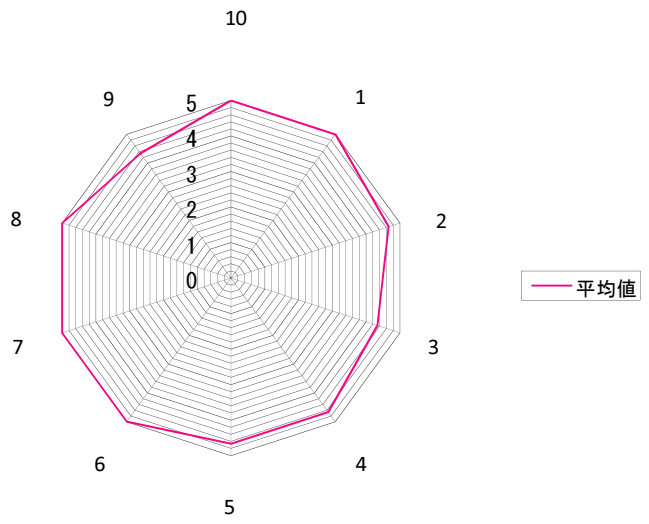
教員のコメント

ここ数年来、受講学生が少なく授業の成立そのものが危ぶまれたこともあったが、本年度は学期はじめのオリエンテーションでの宣伝効果からか、正規の受講生と聴講のみを希望する学生あわせて8名の受講生があった。このことは、授業を担当する者として格別の喜びである。
授業に対する評価は、極めて高かった。これは、英語コース所属教員との合同授業であり、教員によって提供された話題が、日常的な生活言
語に題材を求めていたことと、その問題を追求することによって、言語の本質に迫るものになったことが原因としてあげられよう。
本授業のよかった点として、学生からは次のようなコメントが寄せられた(改善点などについてのコメントは無かった)。
〇様々な話題提供と、それに対するディスカッションでは、気付かなかった視点から言葉を考えることができた。
〇いろいろな分野のことが分かり、とても勉強になった。言語についての知識が深まった気がします。
〇複合語、数詞など言語を細かく考えると、様々な気付かない面があることを知ることができてよかったです。
今後も、提供する話題の精選に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅰ
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



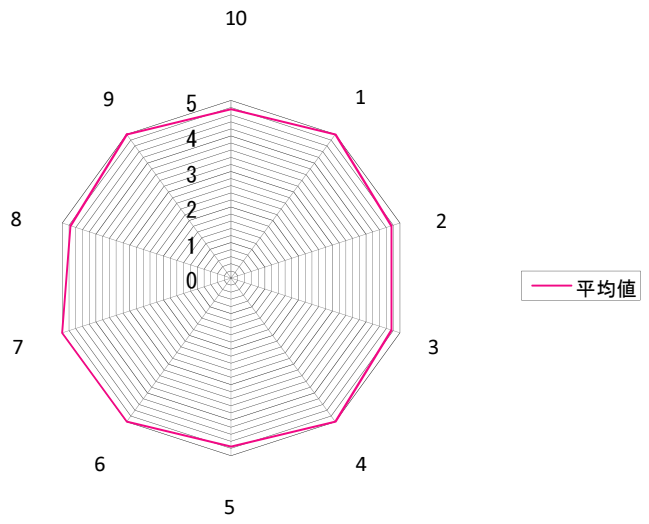
教員のコメント

本授業では，レポートや論文を書くための日本語力を身につけることを目標とした。前年度は，漢字圏・非漢字圏の学習者や様々な日本語レベルの学習者が混在していたため，授業を進める際に困難さを感じることもあったが，本年度はいずれも漢字圏の学習者でレベルも統制されていたため，授業の進め方に関して，困難さを感じることは少なかった。「授業の進め方」に関する各項目の評価が高いのもこのことが影響しているものと思われる。その一方で，「授業内容」に関する評価を見ると，日本語の学習が専門的知識の習得や実践力の育成にどのように結びつくのかについて，必ずしも受講者に共有されているわけではないことがわかる。この点について，次年度以降，改善していきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅱ
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　妹尾　春子　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



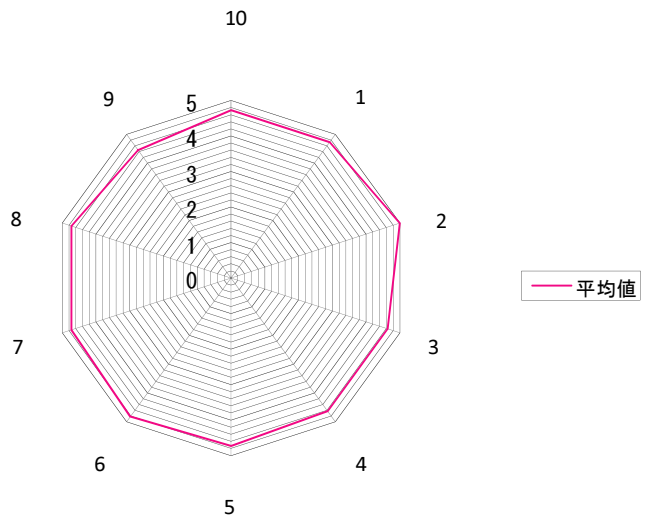
教員のコメント

論文読解に必要な文法や用語を学習してきた。少人数ではあったが、一人一人が意欲的に授業に取り組めていた。今後は学生の発表方法を工夫し、学生の発言の場をもっと増やしていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名　日本古典語研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	4					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	1	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



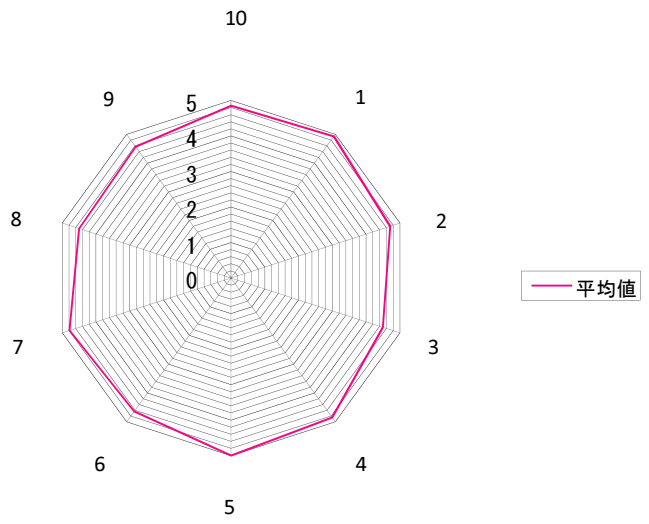
教員のコメント

受講生の努力と人柄とに助けられた授業であった。高い評価は、そのまま受講生に対する評価として返したいと思われる。
よかった点として寄せられたコメントには次のようなものがある(改善すべき点についてのコメントはなかった)。
〇これまであまり触れることのなかった分野の知識を深めることができた。自ら考える場面の多い演習形式なので、受け身ではなく主体的に受講
することができた。
〇難しいと感じる古典の原文を、楽しく、新しい発見を沢山見つけながら学べた。受講生が当て合いながら進めていくのがよかった。
〇古文の文脈感覚が身につきました。授業全体の雰囲気がやわらかく、居心地がよかった。
〇高等学校の古典の授業との関わりが強いと感じるのが、全体の講義の中で、これだけでしたので、現場とのつながりを実感でき安心できる時
間でした。
また、感想としては次のようなコメントがあった。
〇学校現場で直接使えるものではないが、興味深い内容でした。
〇平家物語の一部分でしたが、実際に原文を読みながら内容を知れて、楽しかったです。いつ当たるかなどの緊張感もよかったです。
受講生全員が楽しみながら受講できるような授業を、今後も続けていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　現代日本語研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　茂木　俊伸　　回答者数　14　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	7					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	2					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	14						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	5					4.6
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	3	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	6					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	2					4.9



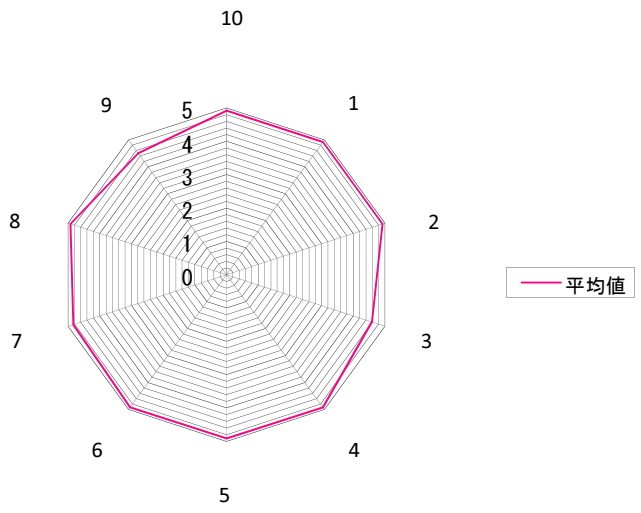
教員のコメント

本授業では，現代日本語の語彙・文法などに関する諸問題を題材としながら，ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め，これらを獲得することを主な目標とし，講義を行った。受講者数は 14 名（＋聴講 1名）であった。
授業の総合評価の平均値は 4.86，全項目の平均値は 4.74 であり，昨年度より若干低くなったものの，全般的によく評価されていると解釈できる。
評価が分かれる年もある項目3は，今年度も概ね高い評価（平均値4.5）であった。授業で扱った内容が，単なる一分野の技術としてではなく，受講者それぞれの専門分野や実践に活かせるものとして評価されているのであれば，幸いである。
改善点（記述式項目[3]）に関しては，ほとんどが無記入か「特になし」であったが，要望として「討論があればよかったと思う」という意見があった。その場で質問を受けたほか，受講者で議論する時間も設けたつもりであるが，一方的な講義にならないよう注意したい。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅰ
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　野口　哲也　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	11	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	1					4.9



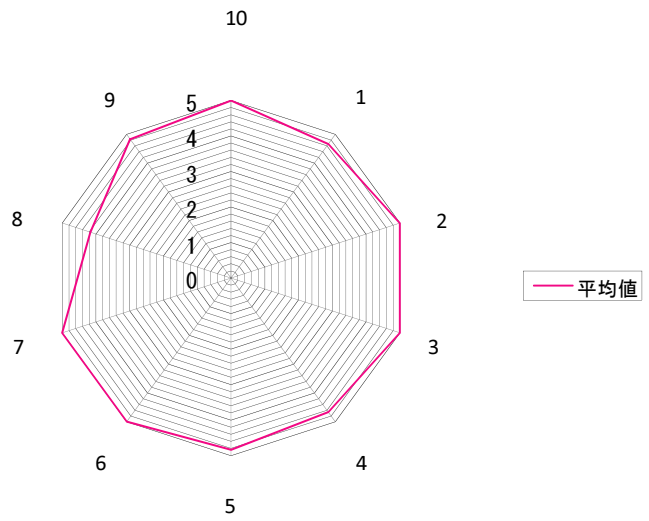
教員のコメント

受講者が少数ということもあり、概ね好評価を得られた。自由記述による回答においても、時間をかけて多様な観点から文学作品を読みこんでいくという作業自体に高い満足度が示されている。
教師の実践力の育成(3)および授業に対する主体的な取り組み(9)に関しては昨年度の結果を踏まえて意識的な授業を心がけたが、なお若干の問題が残されているかもしれない。前者に関しては学校現場での実践に直接結びつく技術の向上を目的とした内容ではないため項目上の限界はあるが、後者に関しては、受講者自身のによる発言・発表など双方向的な授業形態も視野に入れつつ、次年度以降の改善を期することとしたい。

結果報告書

授業科目名　日本文学研究Ⅱ
評価実施日　平成22年9月24日
担当教員名　妹尾　好信　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



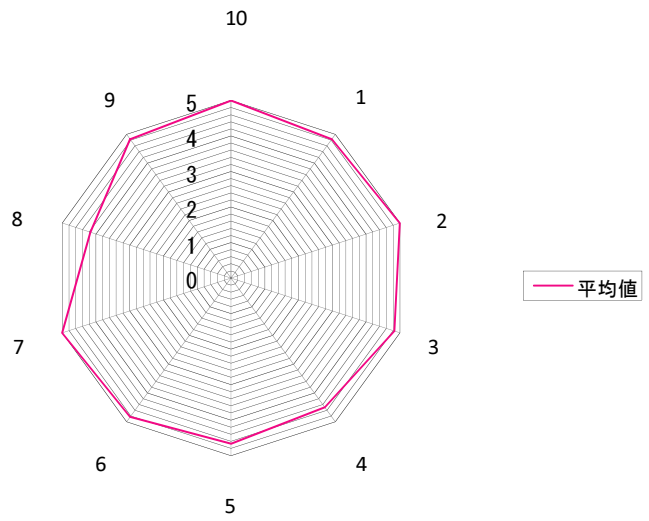
教員のコメント

残暑厳しい中、祝日も含めて4日間の連続講義を最後まで受講していただき、ありがとうございました。少数精鋭、講義する側としても大変充実した4日間でした。教材として使用されることの多い『伊勢物語』について、新たな魅力を発見してくださったならば、授業は成功だったと思います。次代を担う若い人たちに古典文学の面白さを伝えることが私の使命だと思っています。中学生や高校生に直接古典を教える立場にある皆さんに伝えることは、その最も効果的で手っ取り早い方法ですね。昔男が人の心をいつくしんだように、人を愛し大切にする心を持つ少年少女を育てていただきたいと思います。これからのご活躍を祈っています。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅱ
評価実施日　平成22年9月30日
担当教員名　山口　眞琴　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	5					4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



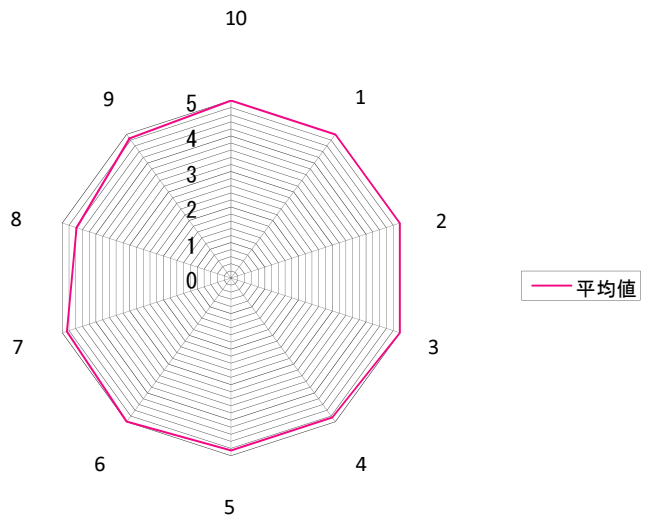
教員のコメント

実際以上に評価していただいたようで、恐縮に存じました。私自身も大変有意義な時間を過ごさせていただいたと感謝しております。教員養成系の大学院とはいえ、明日の教育実践に役立つことの習得だけが、勉学の目的ではない点をご理解いただければ、幸いです。現職の方も、現職をめざされる方も、教員の力量とは何かをじっくり考えながら、それぞれに充実した研究成果をあげられるように、祈っております。どうか、お元気で。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　小野　由美子　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



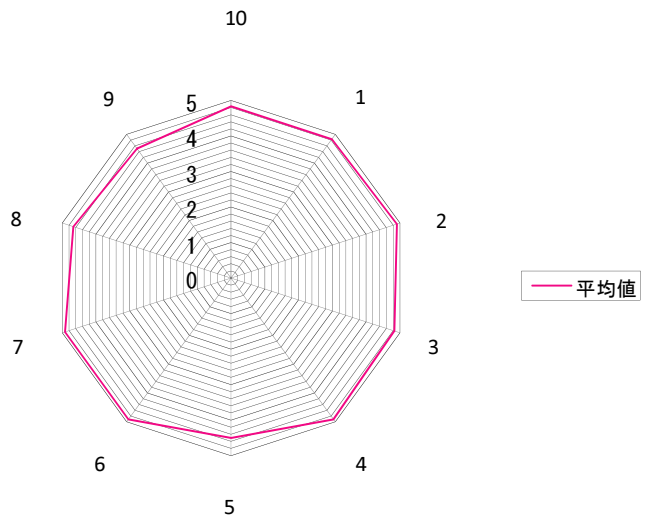
教員のコメント

学生がおおむね満足していることがわかり、ほっとしている。学生たちの学ぶ意欲や課題に取り組む積極性は大変旺盛で、密度の高い講義をすることが出来たと考えている。外部からお招きした先生方に素晴らしい講義をしていただいたおかげもあって、学生の幅広い興味を網羅することが出来たのは幸いであった。

結果報告書

授業科目名　社会言語学研究
評価実施日　平成22年8月5日
担当教員名　渋谷　勝己　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



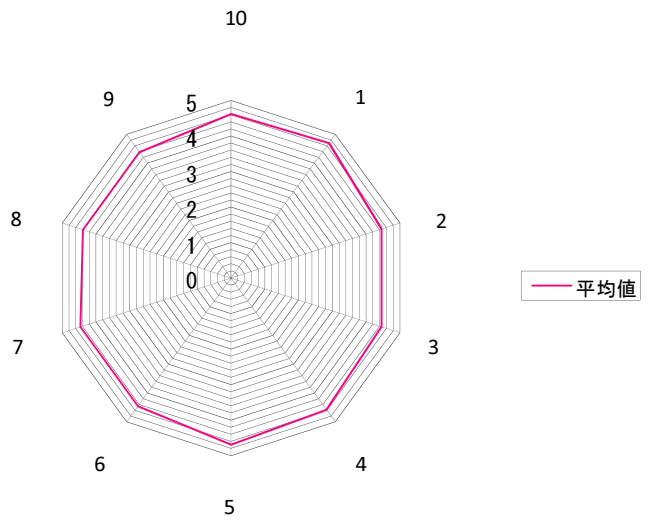
教員のコメント

全般的に高い評価を頂戴したこと、お礼申し上げます。
(5)の授業の進む速さにつきましては、限られた一週間のなかでできるだけたくさんのことを学生さんにお伝えしようとして、やや内容を盛り込みすぎたところがありました。また機会がありましたら、枝葉の部分を切り落として内容を若干スリムにし、重要な部分に時間をとって説明したいと思います。とくに留学生の方々にはご負担になったことと存じます。お詫び申し上げます。
(8)板書につきましては、ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞの角度なども調整しつつ、みやすいように工夫したいと思います。なお、もともと悪筆ですので、PPTも用意して対処したいと思います。
(9)につきましては、2名が実習の授業のためにやむをえず1時間だけ欠席された以外は全員が全時間ご出席くださり、たいへん驚きました。学生さんの積極的な取り組みに敬意を表します。
以上です。

結果報告書

授業科目名　対照言語学研究
評価実施日　平成22年8月11日
担当教員名　山川　太　　回答者数　13　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	4					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	1			1	4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	9	4					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	2				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	3	1				4.6



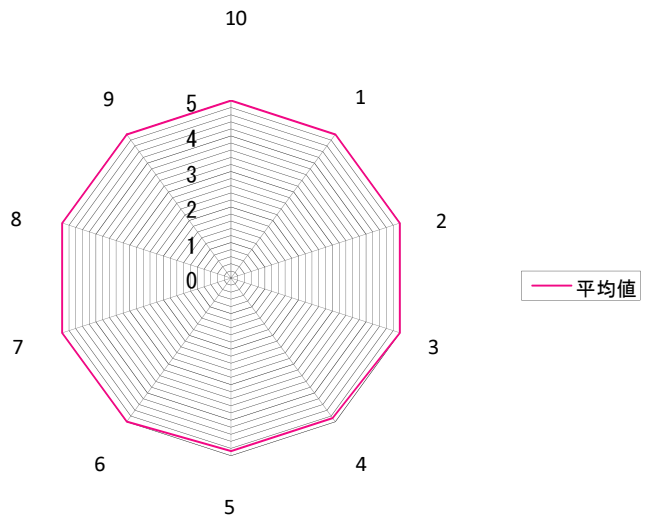
教員のコメント

本授業では、動詞の意味構造と統語構造との関連を分析することによって、日本語と他言語との類似点・相違点が動詞の意味から導かれ得るということを見てきた。内容は理論言語学、特に「語彙意味論(Lexical Semantics)」と呼ばれる枠組みに沿ったものであったが、理論のみに偏重することなく、バラエティに富んだ言語事実の観察を行い、また、言語教育などの側面にも言及することによって、将来日本語教師や英語教師などを志す受講生にも資するように努めた。今回の評価結果を見るかぎり、いずれの項目においても高い評価を得ており，受講生にとっても一定の達成感を感じ得る授業であったと思量される。今後は、言語学分野での更に多くの研究成果を、教育分野を目指す受講生により一層効果的な手法で教授していくことを目指していきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語文法研究
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



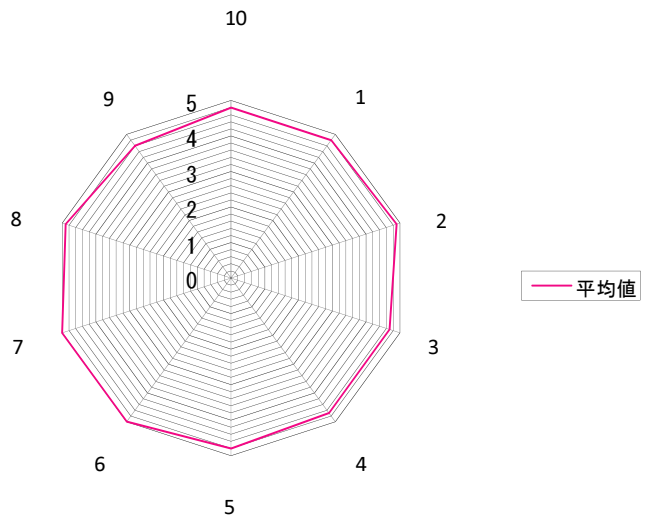
教員のコメント

本授業は，日本語の文法規則を意識化するとともに，日本語教師として必要な文法的知識を身につけることを目標とした。今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。前年度からの課題であった「授業に対する主体的・積極的な取り組み」に関しても，本年度は改善されており，学生の意識の高さがうかがわれる。今後は「成績評価の方法」や「授業の進む速さ」に留意しつつ，一層の改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本語音声表現研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　永田　良太　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



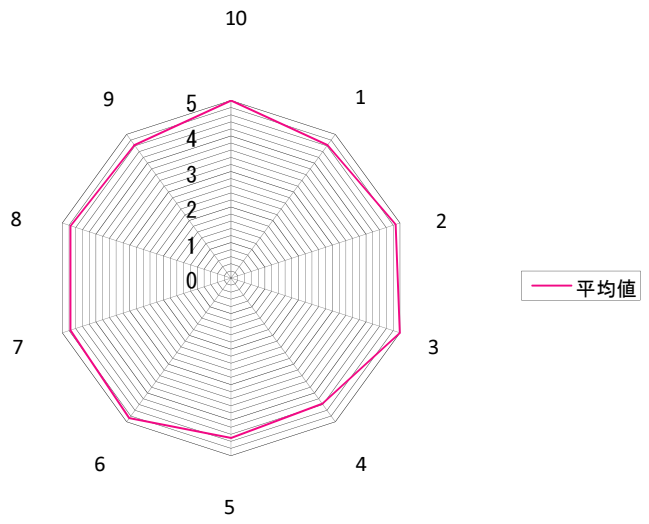
教員のコメント

本授業は，普段無意識に発している日本語の音声を意識化するとともに，日本語教師として必要な音声学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで日本語の音声の特徴を明らかにすることができ，また，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり，概ね上記の目標を達成することができた。今後は，「授業内容をどのように実践につなげるか（項目3)」，「成績評価についての説明の明示化（項目4）」，「授業への主体的な取り組みの促進（項目9）」などといった点に留意することで，授業の更なる改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1	2				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



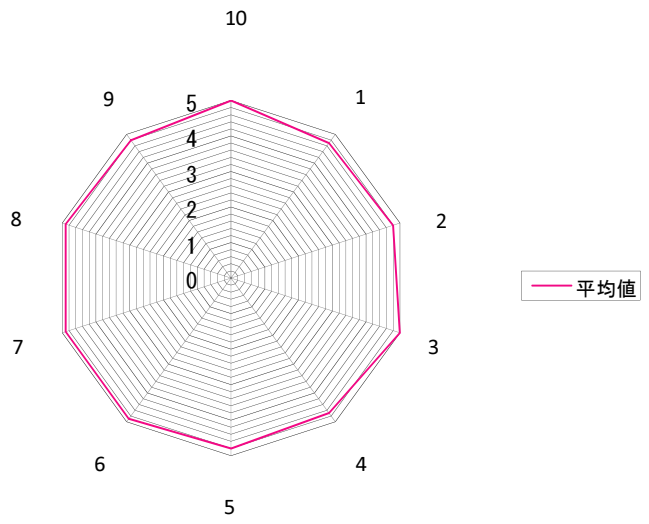
教員のコメント

受講者8名のうち、4名記述らんにの記入があった。内容が児童の作文を通じて、作文の内容だけでなく、発達の様相をいかにつぶさに読み取るかの実習を含んでいたので、「作文の読み取りにやくだつ」という感想が述べられていた。この内容は、学部生にも院生にも役立ち感をもってもらえることが再確認できた。

結果報告書

授業科目名　国語科授業研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　10　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1	1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



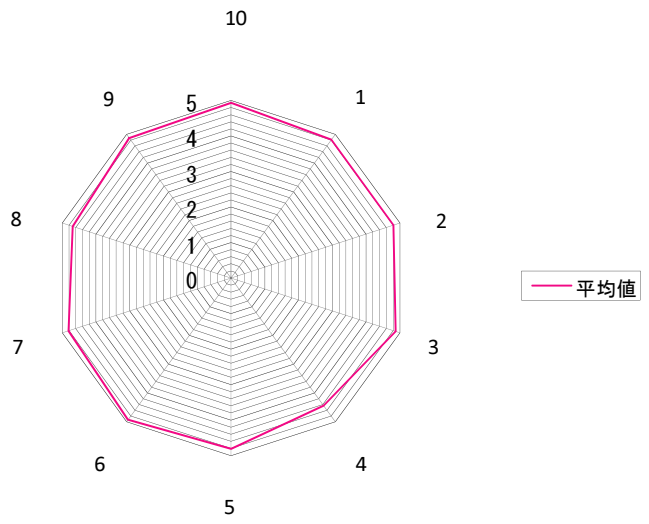
教員のコメント

非常に高い評価をしていただきました。受講者が10人という少人数だったこともあり、受講者それぞれが主体的・積極的に取り組まれたことが、授業自体に対する満足度を高めたものと考えます。教材分析など、ワークショップ形式を取り入れ、受講者全員がそれぞれの意見を交流しながら考える形式で授業を進められたも、よかったように思います。次年度以降、扱う題材の選択肢を増やす、自らの教材研究の質をより深めるといったことを通して、この評価を継続できるように努力していきたいと考えます

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	13	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15		1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	7	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	13	3					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	1	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	1	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	2					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	1					4.9



教員のコメント

すべての評価項目について、5の評価が一番多かった。特に「総合評価」については、受講生16人中15人が5の評価であった。この結果は、現職院生が同じ授業者の立場から、好意的な評価をしてくるとともに、ストレートの学生も、もともとこの分野に興味・関心のあった受講者が多かったことによるものと考えられる。

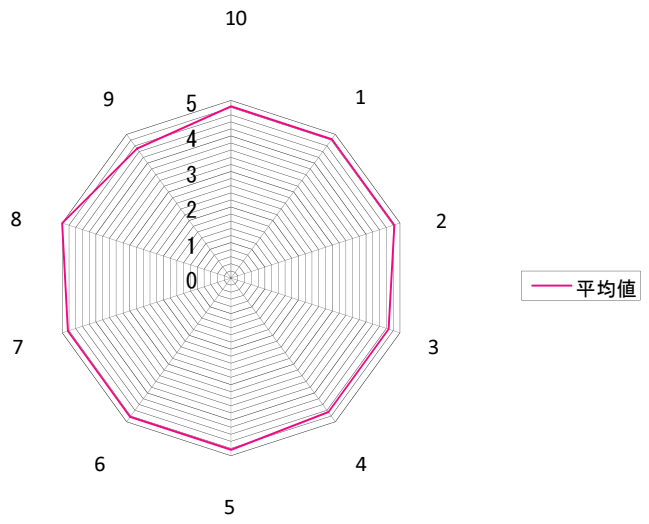
受講生のコメントとして 「高等学校の生徒であっても、絵本の読み聞かせをすることには、意味があることを知ることができた。」、「絵本の奥深さを知ることができた。」、「グループになって毎回読みあいをしたのもよかったです。」、「将来自分が親になった時、必ず子どもと一緒に絵本を読みたいと思う。」、「受講生による読み聞かせの発表は、自分であれば手に取ることのないものであるので、興味深かった。」、「出席をとる場合のこと、板書のこと、活動を伴う授業のこと、現場での授業でそのまま取り入れたい1時間の流れがあった。」など、講義内容を評価するものが多く見られた。講義の目的は達し得たと考えている。

しかし，受講生が16人にとどまっていることが、最大の問題である。受講生のコメントとして「国語科だけではなく、教師をめざす人全てに受けてもらいたいと思います。」という感想があった。受講生を増やす方策を考えたい。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅱ（現代文化研究）
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　前田　一平　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5		1				4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

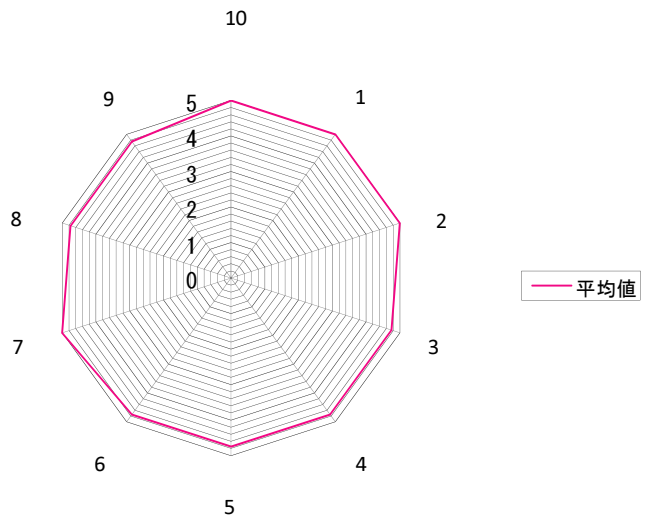
総合評価が4.8、そのほかの項目の平均値も4.8と高評価であった。自由記述においては、文学作品の読み方の理解、おもしろさ、解説のわかりやすさ等が「良かった」点をして挙げられ、「改善すべき」点はひとつも挙げられていない。

総じて高い評価を受けているので、当面、本授業について改善を急ぐ点はないと思われる。しかし、現職教員を含め本学の学生はほとんど本を読んでいないので、読解力の不足が目立つ。新指導要領のキーワードのひとつとして読解力が挙げられながら、教員および教員志望学生に読解力不足がみられるということは致命的であろう。小手先の「実践」では得られない、「豊かな」「人間を生臭いレベルでいつくしみ、抱擁する」ような教育こそ、求められるのではないかと考える。特に、本アンケートの自由記述を読んで、その必要性を読み取った。「英語教育」とは直接の連関はもたないかもしれないが、英語を教える技術的な問題よりも、「読解する」論理と感性と忍耐力、そのための「他者を慮る心」、そしてそれを「表現する姿勢」の養成のほうに教育上のプライオリティがあるように思われる。今後もそれを実践するための支持を本アンケートは与えてくれた。

結果報告書

授業科目名　英米文学応用演習Ⅱ
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　太田　直也　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



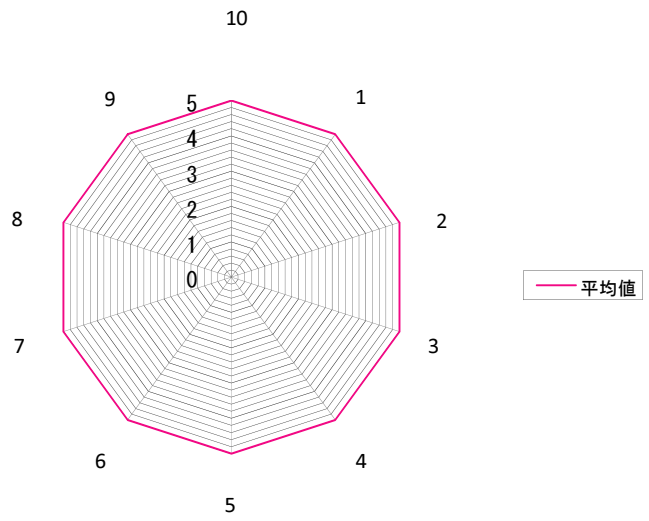
教員のコメント

意欲ある受講生に恵まれた結果、ほぼ思い通りの授業を展開できたと自負している。詩の精密な読みを通じて、言葉に対する感覚を磨くこと、さらに現実的な目標として英語のリズムを一層深く理解することを目標とし、おおむね達成できたといえるであろう。より多くの作品を読む必要もあると思われるが、それは次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　言語教育基礎論Ⅱ
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　藪下　克彦，眞野　美穂　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



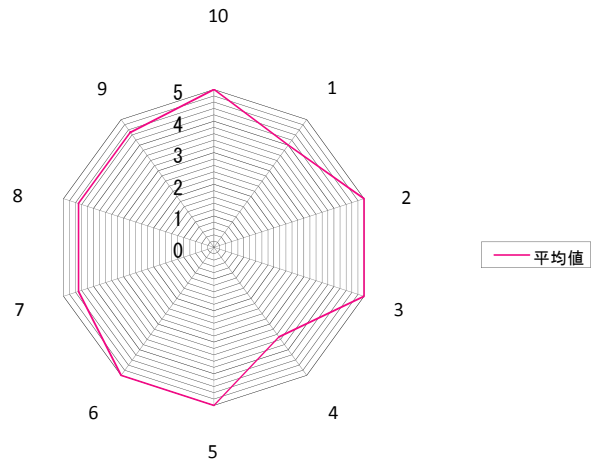
教員のコメント

先ず，授業評価アンケート調査回答者全員が，総合評価も含めすべての質問項目で5の評価をつけてくれたことを素直に喜びたい。幸か不幸か，「改善すべき点」として挙げられた点はなかった。良かった点としては，次の意見があった。「国語・英語両方の考え方，視点から授業に参加できたこと。」，「国語科と英語科の合同の授業なのでいろいろな意見があり楽しかったです。より英語，日本語など言語に興味を持つことができました。どの先生方の授業もすばらしく多く学べました。」 その他の意見として，次のものがあった。「先生がたのお話がとてもよかったです。1時間半の授業がとてもはやく感じました。ありがとうございました。」，「先生方のおはなしが，ほんとうにおもしろい＋勉強になる＋知的好奇心を刺激される ..... 楽しい授業でした。このようなお褒めの言葉に甘えることなくこれからお授業を改善していきたいと思っている。

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅰ（英文法理論）
評価実施日　平成22年7月21日
担当教員名　藪下　克彦　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。		2					4.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	1				3.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



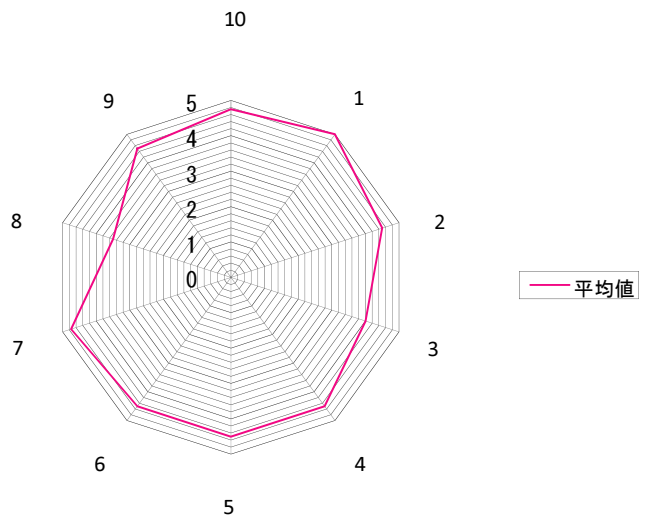
教員のコメント

総合評価を含め質問項目中，唯一評価得点の平均が4未満であった項目は，「授業評価の方法の説明は，適切であった。」である。授業概要にある現行の「成績評価方法」は，「出席，宿題・レポートの提出，授業中の発言・活動等をもとに総合的に判断する。」である。来年度は，授業内での説明を含め，成績評価の方法を受講生により分かりやすく伝える工夫をしたいと思っている。 次に，良かった点としてあげられていた意見を原文のまま記す。「先生の説明や，受講生の発言はすべて英語に限られていたので，はじめは大変だなと思いましたが，集中して聴くことができました。」，「期末課題のフィードバックをすぐにしてもらえたのは，とても役立ちました。」，"First, the subjec, I'm very interested in it. From this subject I can learn many about the English structure and know more about the English linguistics. The professor used English to teach the class. It is easy to understand and the teacher's explanations were easy to understand."．次に，改善すべき点として挙げられた点を，原文のまま記す。「宿題として解いてきたQUESTIONの解答を（あれば）テストの前に渡してもらいたかったです。」，"Sometimes the professor speaks too fast. I can't clearly. I want the teacher can speak more slowly." 最後に，その他の感想を原文のまま記す。「また，来年度も受けてみたいと思います。」，"I have not other comments about this course. It is a very good course. This subject can foster practical competence for teaching English in the future." 受講生の中に，留学生が含まれていたので，英語で授業を行ったのであるが，日本人学生は，最初は大変だと思ったが結果として集中して聴くことができたとして好意的に評価してくれていた。しかし，時々，早口になってしまったところがあったようである。これからは，受講生の理解を確認しながら授業を進めていきたいと思っている。そして，期末試験に関するフィードバックは好評であったが，学期中の課題に関するファードバックは十分でなかったようである。受講生にとって，教師からのフィードバックが重要であることが再確認された。以上の事柄に留意して来年度の授業を改善したいと思っている。

結果報告書

授業科目名　英語学研究Ⅱ（言語表現）
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　眞野　美穂　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		3				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



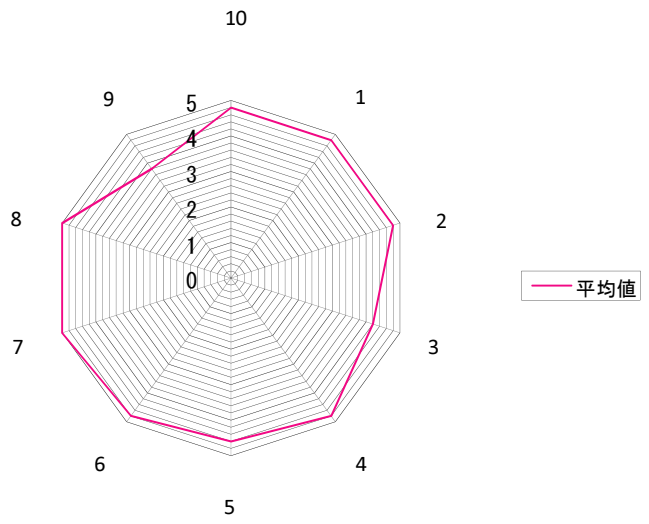
教員のコメント

赴任後初めての大学院授業であり、少人数（登録受講者は2名）であることに加え、初めて英語学系の授業を受講する学生もおり、専門的内容とその実践のバランスについて非常に検討を必要とした授業であった。このような状況を踏まえ、論文を読む前に前提知識の説明と質疑応答を行うことで、それぞれの院生の状況に対応することを心がけた。その結果は内容面や進め方に対する肯定的な評価に結び付いたのではないかと考える。板書や視聴覚機器については少人数での討論が中心であったためあまり使っていないために「3」の評価の多さにつながったのであろう。来年度は論文の選定段階においても今年度の状況を踏まえた上で、改善を行いたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅰ（文化史）
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　杉浦　裕子　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1	1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



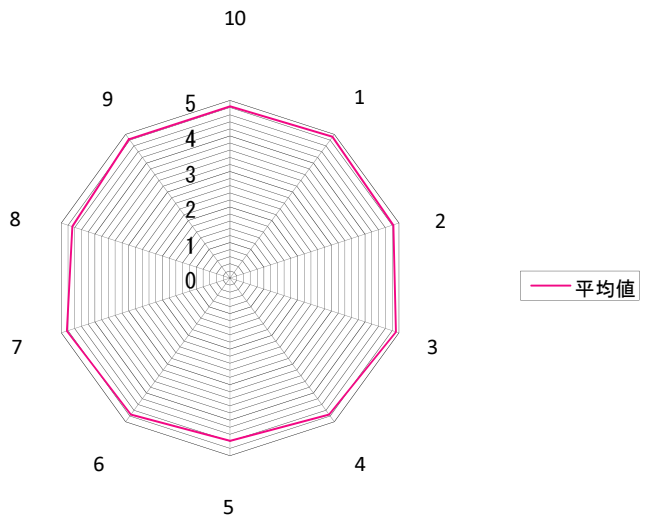
教員のコメント

受講生は毎回熱心に授業を受けてくれ、一本の劇を最後まで読みとおすこともできたし、授業評価としても高く評価してもらったことは嬉しいが、文学の授業に興味を持って受講する院生の数自体が少ないことが気がかりである。今後は、授業内容を工夫するとともに、教養を身につけてもらうことを狙いとしながらも取っ掛かりやすい題材を考えるなどして、受講生を増やす努力もしたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅰ
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　伊東　治己　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	1	1				4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	8	3	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	3					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



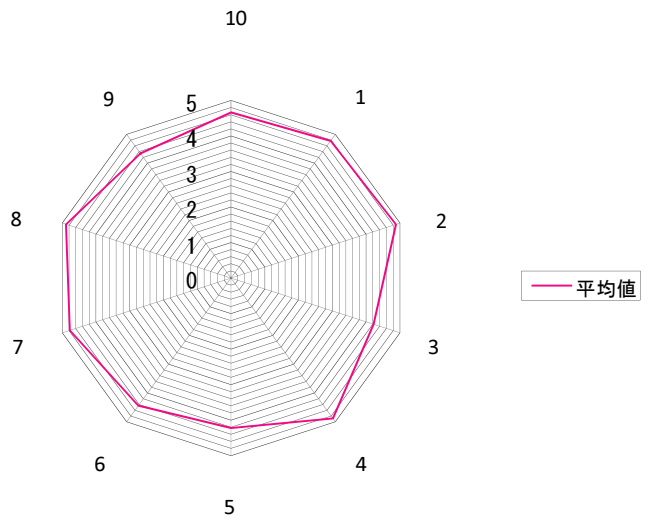
教員のコメント

本授業の目的は，社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室内において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育んでいくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値（総合評価が4.8）や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り，当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に，授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業（マイクロティーチング）に対して
・毎回とても充実していた。マイクロティーチングでは準備する段階からみんなで話し合い，先生も時間をつくって指導案を丁寧に見てくれた。授業後のアドバイスを他の院生や先生から頂き，とてもよい勉強になりました。多くのことを学び，また成し遂げた達成感のある授業でした。
・それぞれのグループに分かれ，コミュニケーション活動の紹介・提案をし，その後で良い点・改善点について話し合いをしたのがとてもよかったです。今後，授業を考え作っていくときに活用したいと思います。
・さまざまな授業を見ることができ，コメントし合ったので，他の人にどう映っていたかがわかり，とてもためになった。
・マイクロティーチングの準備がすごくよい経験になった。
など，多くの好意的評価を得ることができたが，実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名　英語科教育特論Ⅱ
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	4		1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3					4.7



教員のコメント

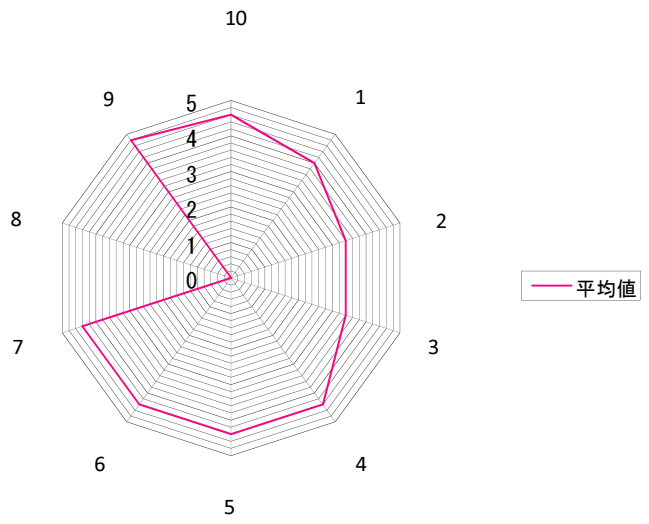
総合評価が4.7ポイントであったことをふまえると，本授業は受講生に満足のいく内容・方法だったと考える。相対的にではあるが得点が低かった(3)「教師の実践力の育成につながる内容であった。」(4.2ポイント)と(5)「授業の進む速さは，適切であった。」(4.2ポイント)については今後もよりよい方向に改善されるよう継続的に検討していきたい。(3)については，本授業が「研究方法」に焦点をあてた内容であったため現場での実践力との関連性が十分に見えない部分もあったと思われるが，今後，研究方法が現場実践や現職教員の成長といかにかかわるのかという点について今以上にとりあげていきたい。また，(5)については例年の反省もふまえ授業内容や構成・展開を工夫することにより授業進度を改善したつもりでいる。今後は授業に難しさ等を感じている受講生の状況を的確に把握し，授業者側から積極的に支援する手立てを検討したい。

結果報告書

授業科目名　四国遍路と地域文化
評価実施日　平成22年10月15日
担当教員名　大石　雅章、山本　準、立岡　裕士、町田　哲、梶井　一暁、皆川　直凡、木原　資裕、南　隆尚、中津　郁子

回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1	2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		3	1	1			3.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	2	1			3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3					4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3					4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	3					4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。						5	######
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



教員のコメント

この授業では、歩き遍路体験を軸に、現地における遍路文化を支えている人びととの交流を通じて、人間教育を目指している。本年は、受講登録者8名が、1番札所霊山寺から12番札所焼山寺まで全行程53.4kmを歩いた。1日め夜には、宿坊安楽寺で講話や、吉野川市で歩き遍路を支える取り組みをされている岡田晋氏からミニ講演をいただき、遍路と地域文化に関する理解を深めた。また参加者による俳句作成や、スポーツマッサージを行うなど、遍路歩きに関する様々な取り組みを行い、無事成功することができた。

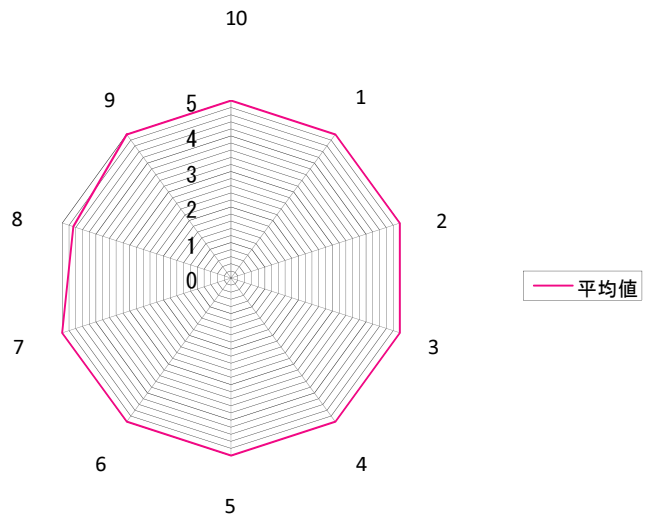
とりわけ本年は、遍路歩きを、教員が先導するのではなく、グループ毎に考えながら歩くという手法をとった。このことが、(9)主体的な授業への参加や(10)総合的評価の高さにつながったものと考えられる。アンケートでも「普段体験できないようなことを体験できた」「普段知り合うことのない人と話ながら歩けた」「班内での交流を深めることができた」という声が多数あった。なお、授業の進め方についても概ね好評を得た。

その一方で「院・学部の合同授業であるので内容が少し単純」「院に対応した課題などがあると有り難い」「寺を巡るのでなく、各寺で遍路や寺の話を聞く機会がほしかった」という声もあった。グループ毎に歩くことで、自分たちで課題をみつけ、それに取り組んでいくことを教員側では期待しており、あえて動機付けはしなかった一つの結果である。院生より自発的な取り組みに導くために何が必要なのか、学部と別途の課題提示が必要かどうか、今後の検討課題としたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅰ
評価実施日　平成22年9月18日
担当教員名　川岡　勉　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



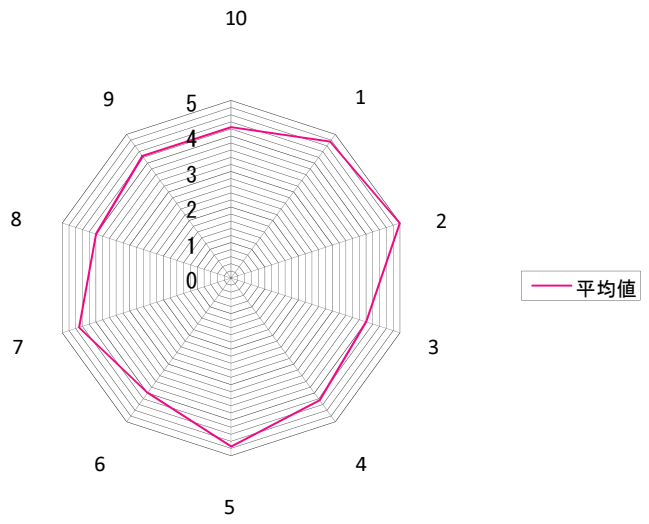
教員のコメント

受講生は少なかったが、皆熱心に受講し、内容もよく理解してくれたように思う。挙手して質問や意見を出してくれるなど大変積極的で、鋭い指摘を受けてこちらも考えを深めることができた。こうした機会を与えていただいたことに、感謝する次第である。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅱ
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1	1				4.3



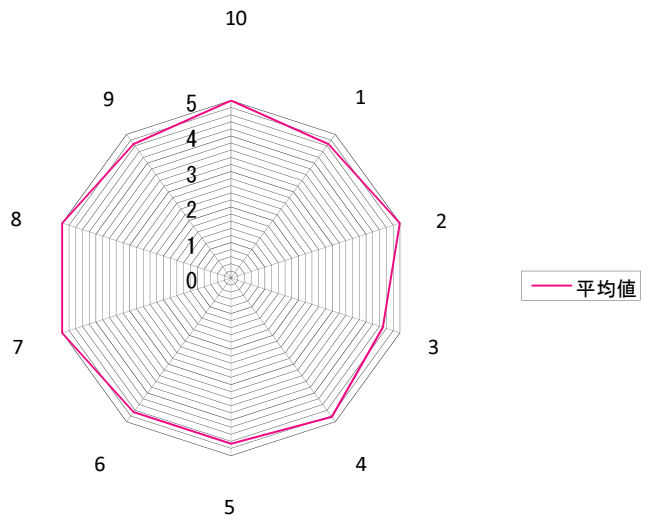
教員のコメント

この講義では、和泉国泉郡池田下村という一つの近世村を窓口にしながら、日本近世社会の成立と構造の特徴について論じた。講義者がレジュメ資料を用意し、受講生がそれを読み進め、講義者がレクチャーするという手法をとった。受講生は概ね積極的に授業に参加し、その理解を目指し、読解についてもだんだん力とつけてきた感がある。その点が上記のような概ね好評を得ることができた点に反映したものと考える。しかし、やや講義の進め方が単調となった面はいなめず、今後の課題としては、今少し受講生の意欲・発言を引き出せるような工夫が必要かと考える。
なお、低い値の3「実践力の育成」については、実践力を、即席の力量あるいは教材確保とみるのであれば、当然低い評価となるだろう。しかし実践力に至るための、歴史的思考力、あるいは歴史的現在における歴史学のあり方を問う点でいえば、十分その期待に応える内容になっていたと考える。

結果報告書

授業科目名　歴史学研究Ⅲ
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　原田　昌博　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



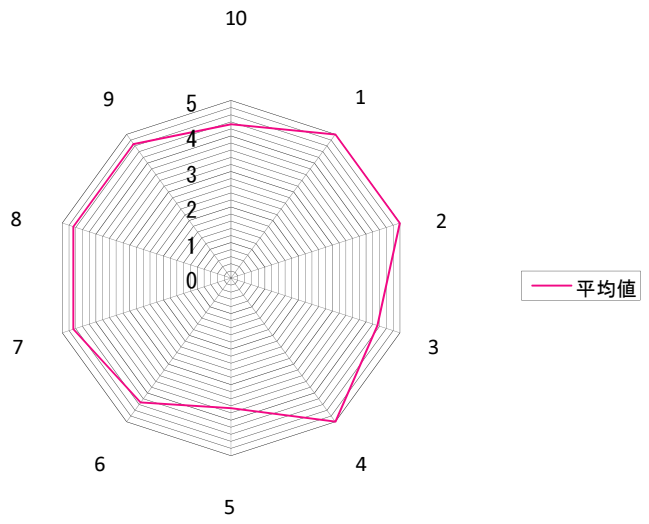
教員のコメント

全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」ないしは「4」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。とりわけ、回答した6名中、質問2、7、8、10では全員が「5」と評価しており、授業の専門性、配布資料の内容、視聴覚機材の使用についてはとりわけ満足度が高い。この他の質問でも回答者6名中、4名以上が「5」の評価をしている。最後に、質問10で全員が「5」と評価している点からも、学生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。

結果報告書

授業科目名　地理学研究Ⅰ
評価実施日　平成22年8月5日
担当教員名　木原　克司　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2					1	5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2	1				3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



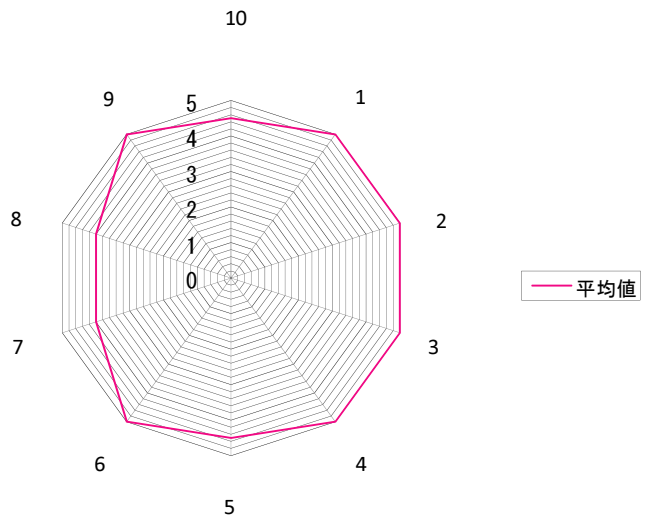
教員のコメント

総合評価が4.3であったことから考えて、授業そのものの内容はおおむね満足できるものと考えている。ただ、授業時間が不足したため、補講も実施したものの途中の授業を少し早めたこともあり、その点で学生の不満があったのかもしれない。反省すべき点である。しかし、授業終了後の8月に、例年どおり現地巡検を行い、現地で授業内容を別途準備した資料を用いて講義した。これに関しては、学生側からの評価はきわめて高く、授業内容を十分に理解することができ、すばらしかったという評価が得られた。一方的な講義型式の授業の欠点を現地での質疑応答を踏まえた巡検という方法でカバーできたと思う。

結果報告書

授業科目名　地理学演習Ⅰ
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　木原　克司　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1		1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



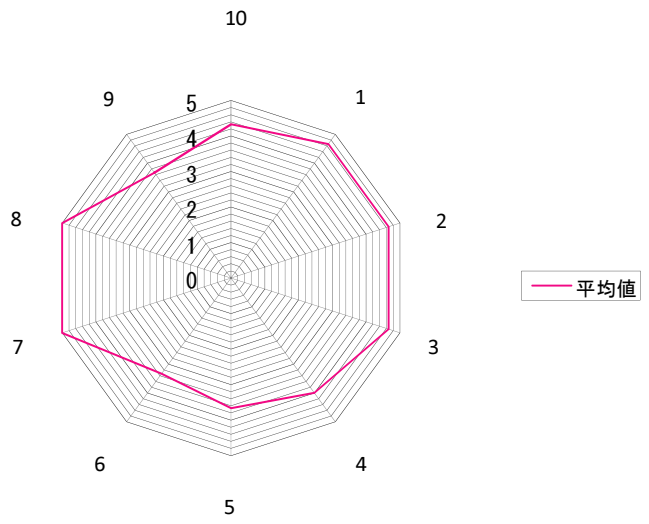
教員のコメント

総合評価は4.5と高いので満足している。しかし、演習という授業は、学生側が主体となって進める授業形式であることを学生が認識できていないようである。そのことが資料配布や板書等に対する評価に見られる。

結果報告書

授業科目名　地図表現学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　立岡　裕士　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1			1	4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2	1				3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2		1			3.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1				3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



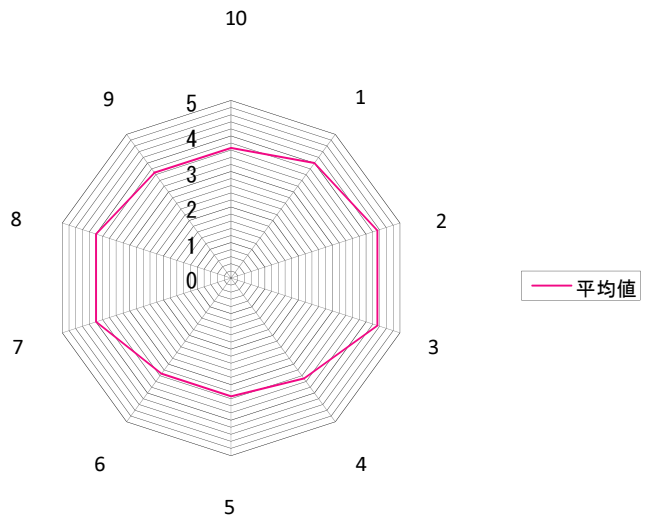
教員のコメント

本講義開設以来初めて「地図表現学演習」と受講生が完全に一致し、両者を有機的に結びつけて実施することができた。また受講者が3人であったため、講義全体の前半では理解度を確認しながら授業を進めることができた。しかし、そのためもあり後半部に至り授業時間が足らなくなり、やや進度を早めた。1名が説明がわかりにくかったと評している点はその結果であろうか。今後の検討課題である。

結果報告書

授業科目名　地図表現学演習
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　立岡　裕士　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1	1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1			1		1	3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2		1			3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2		1			3.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2			1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2			1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1		1			3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1		1			3.7



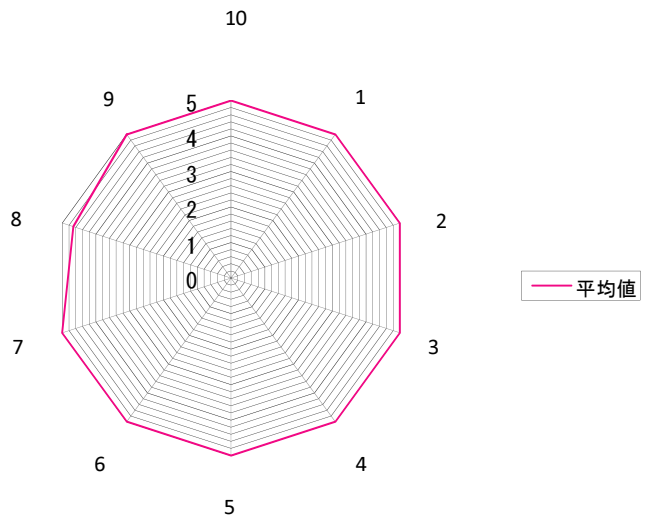
教員のコメント

本演習開設以来初めて「地図表現学研究」と受講生が完全に一致し、両者を有機的に結びつけて実施することができた。
取り上げた文献の「訳が悪く初心者には厳しかった」というコメントがあった。訳文の問題は指摘の通りであるが、原書の大意を把握することはそれほど困難ではなかったと考える。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



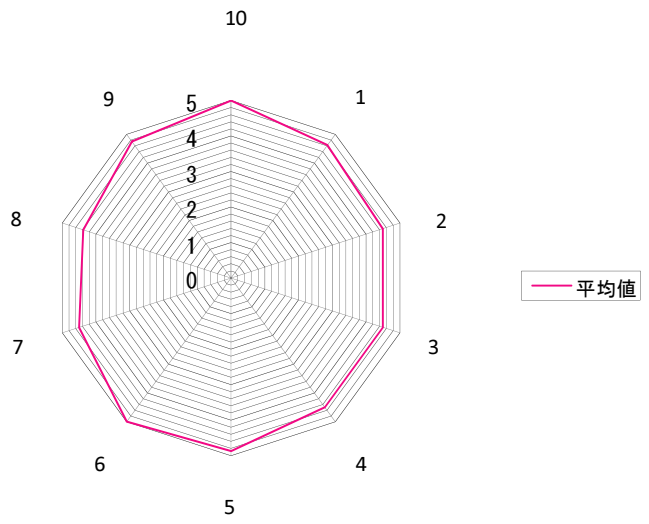
教員のコメント

今期は、姜尚中『愛国の作法』(朝日新書、2006)を講読した。毎週、章ごとに要約・報告の担当者を立てて、報告に続いて討議に移行するという形で講義を展開した。印象的であったのは、内容において難解な箇所が少なからず含まれている本書の講読に対し、受講生の皆さんが大変意欲的に取り組んでくれたことであった。報告担当週でなくとも、全員がしっかりと予習をしてきていることが、討議を通じて明らかであったし、討議の内容も大変活発なものとなり、有意義な時間となったのではないかと思う。私の講義方法については、拙い面も多々あろうかと自覚しているが、今回このような形で評価をいただくことになり、やや過分な評価ではないかと恐縮しているが、私もこれを励みに頑張りたいと思う。

結果報告書

授業科目名　社会学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　山本　準　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1				4.5
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	4					4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	1					4.9
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	3	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



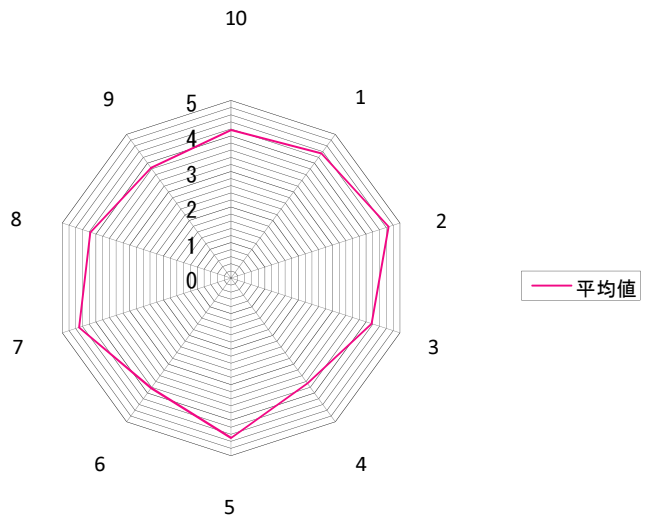
教員のコメント

アンケート項目（1）～（10）のすべてにおいて、受講者平均が4ポイント以上なので、おおむね好評であったかと思える。特に質問項目の（10）「総合評価」に関しては、すべての受講者が5としていた。これは講義する側にとっては非常に喜ばしいものである。このような結果が毎年得られるように、授業の工夫を続けていきたいと思う。ただ質問項目の（8）「板書や視聴覚機器の使用は適切であった。」 については、受講者平均が4．4ポイントであり、アンケート項目の中で最低点であった。視聴覚教材の利用や資料の利用方法などに、さらにもう一工夫必要ではないかと考えている。

結果報告書

授業科目名　社会科教育学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　伊藤　直之　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4		2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5		1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	2				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	3				3.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1	1			3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4		1	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1	1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2		1			4.2



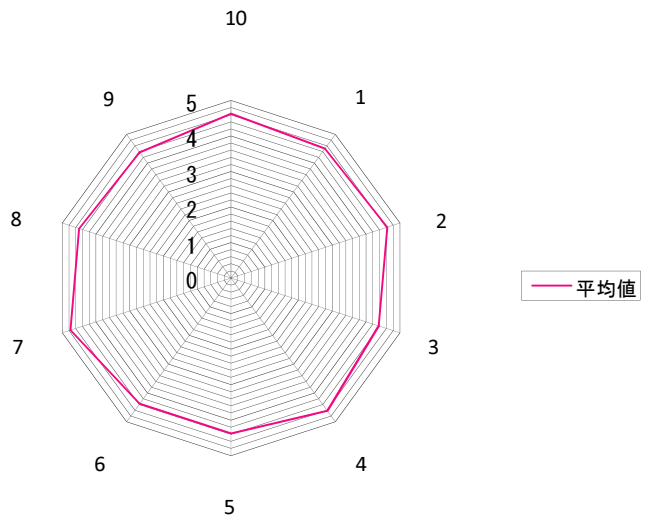
教員のコメント

学生の評価結果から，成績評価の方法を明示すること，説明のわかりやすさに課題があることが明らかとなった。
前者については，来年度より早速改善に努めたい。
後者については，社会科教育の基礎を知らない院生の増加，他コースからの受講生増加という状況があるものの，大学院の授業として水準の維持も無視できない。難解な用語・概念を使わずに本質を理解させるような工夫を検討してみたい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　8　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	2	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2		1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1	1				4.6



教員のコメント

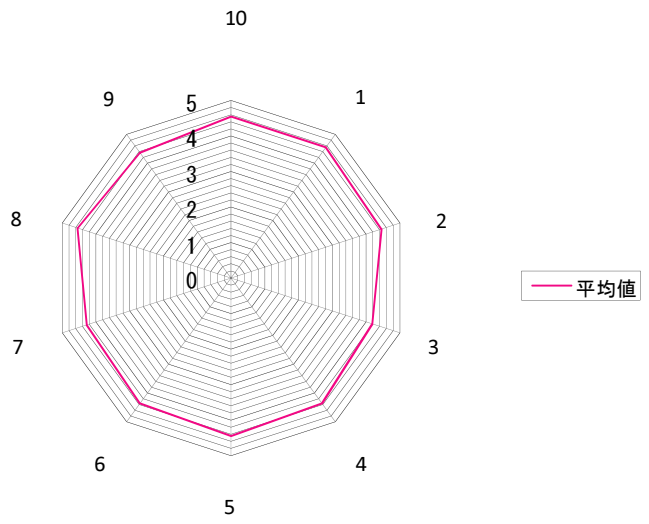
本講義は，受講学生の歴史授業研究能力，特に歴史授業の事実を分析し評価し，理論を類型化して、それぞれの授業の特質と限界を説明できる能力の育成を目標に展開した。受講生は，全部で8名であった。上記の目標を達成するために，教員は社会科教育研究としての授業分析の方法論を実践の事実にもとづいて具体的に講じた。受講生はその方法論を活用して，授業論と実践の性格を異にする複数の歴史授業研究事例（仮説を組み込んだ授業計画書）を分析し評価を加え，発表した。そして，教員と受講生がともにそれぞれの理論と実践の特質・課題・位置について討議していった。

受講生による授業評価の全体平均点は，4.5であった。社会科教師としての教育実践力の成長につながる授業であったかを直接的に評価した項目(2)(3)(10)の平均値も4.5であった。本講義の目的と内容は，受講生から概ね意義あるものとして評価されたとみることができる。

結果報告書

授業科目名　代数学研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	5					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	6					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	3				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	5	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	4	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	5					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	2				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	5					4.5



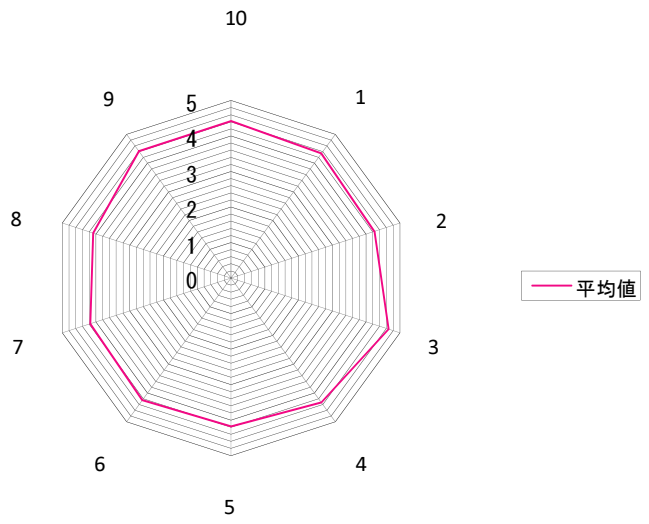
教員のコメント

すべての値が3～5の範囲にあり，「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」という問いに対して評価の平均値が4.5であり，「(6)受講生に分かりやすく説明した」に対する評価も平均値4.4であったので，この授業が受講者の要望にかなり近いものであったと思われる。学生が授業によく出席し，教員の説明をよく聞いてくれて，自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。講義に関連する資料を渡すなどして，受講生が予習できるようにしたことが「(7)教科書や配布された資料は，適切であった」の評価の平均値が4.5という結果につながったのかもしれない。「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対しても平均値4.4であり，「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が4.5であったので受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名　代数学演習
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　平野　康之　　回答者数　12　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	4	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	4	2				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1	4			1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	5	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4	3				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	5	3				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	2				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	5	1				4.4



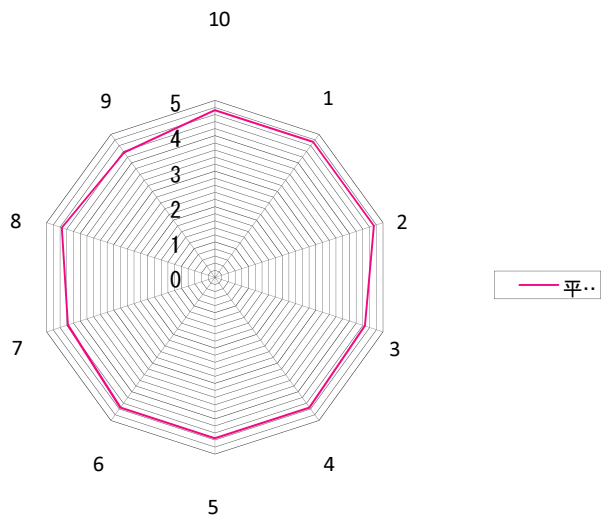
教員のコメント

すべての値が概ね3～5の範囲にあり，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」という問いに対して評価の平均値が4.7であり，「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対する評価も平均値4.4であったので，この授業を学生主体のものにしたことが評価されたと考える。学生が授業によく出席し，教員の説明をよく聞いてくれて，自ら教師の実践力を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(4)成績評価の方法の説明は，適切であった」という問いに対しても平均値4.3であり，「(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う」という問いの平均値が4.4であったので受講者が概ね，この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学研究
評価実施日　平成22年7月20日
担当教員名　齋藤　昇，秋田　美代　　回答者数　11　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3	1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	3	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	5					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	7					4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



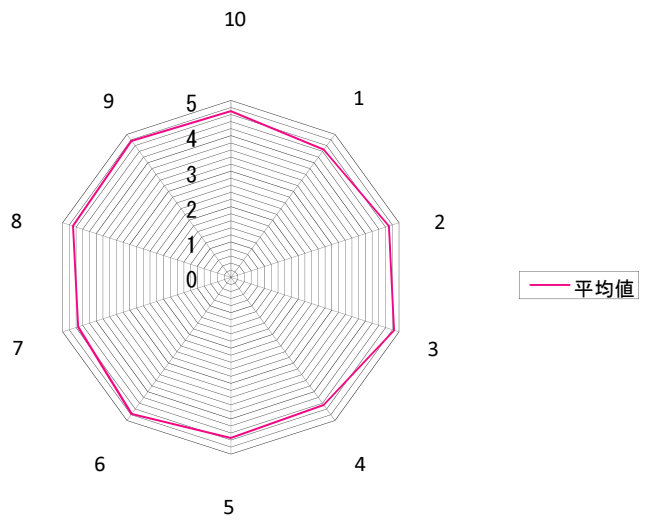
教員のコメント

この授業では，算数・数学科教育の現在の教育課題である創造性の育成法について，理論とその背景を小・中・高等学校の実践例を取り入れながら講義を行った。この授業に対する受講者の評価平均値は4.54であった。特に，「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」という反応が高かった。また，アンケート調査における記述文では，「学部では学ぶことのできない奥深い授業を受けることができた。」「数学教育の背景と現在の教育課題が分かりよかった。」「創造性教育の本質が見えてきたような気がする。」「数学教育の国際比較を知ることができてよかった。」等という反応が多く，世界の数学教育の動向や創造性の育成法に対する興味や関心が高い様子がうかがわれた。11名のうちの3名は留学生であったが，留学生は創造的思考を活性化する新しい学習指導法である「山登り式学習法」に強い関心を示し，帰国したら自国の学校でぜひ実施したいとの反応があった。これらの反応から，受講者は本授業の目的である創造性の育成法について，強い関心を示し，理解を深めた様子がうかがわれた。

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発研究
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　齋藤　昇，秋田　美代　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3	2				4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2	1				4.7
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	2					4.8
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3	2				4.5
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	7	6					4.5
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	10	3					4.8
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	1				4.5
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	4					4.7



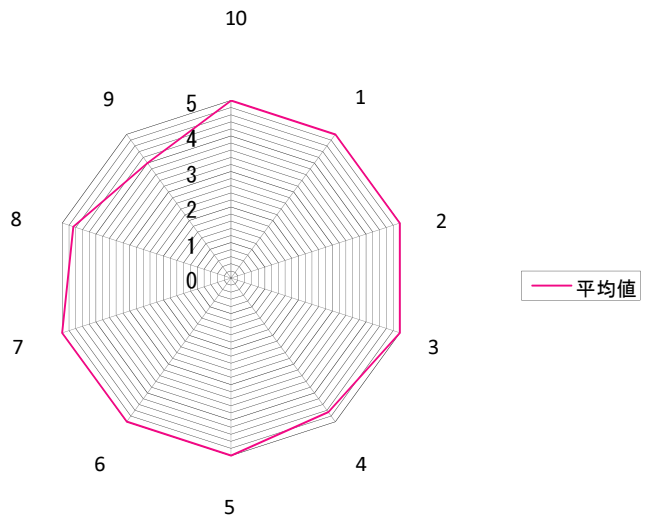
教員のコメント

この授業では，数学教育において指導目標を達成するための教材の活用法・開発方法について概説し，生徒の思考力や創造性を育成するための，教材の構造について理論と方法を考察した。
この授業に対する受講者の評価平均値は4.7であった。評価平均値が高かった項目は「教師の実践力の育成につながる内容であった」「受講生に分かりやすく説明した」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。評価平均値が低かった項目は「授業概要は，この授業を適切に表現していた」「成績教科の方法の説明は，適切であった」「教科書や配布された資料は，適切であった」であった。記述では「教え方の工夫によって，学習者に身に付きやすいかどうかが変わってくることが理解できた」「今まで意識していなかったことが表面に出せた」との内容が記載されていた。授業の内容については，考える時間や学生同士で議論する時間がもう少し長い方がよいという履修者がいたことから，次年度は，教員の説明と履修者の活動の時間配分を工夫する必要を感じた。

結果報告書

授業科目名　エネルギー・物質と環境特論
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　粟田　高明　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



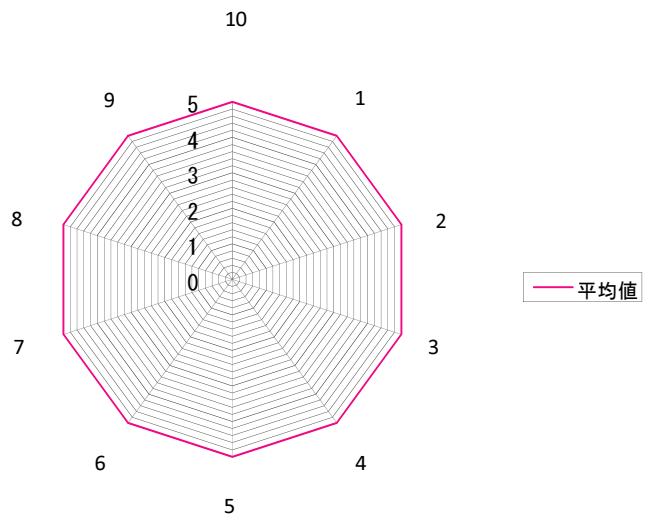
教員のコメント

本授業は，放射線エネルギーを中心にエネルギーの概念を説明し，身の回りの生活をエネルギーをキーワードに，実験・観察・教材作成を授業内で行うものである。中学理科の新学習指導要領で「放射線の性質」の項目が加わった。そのため本年度は，現場で使える教材として，放射線を可視化する霧箱を作成し，主にアルファ線を観察した。アンケート結果はおおむね好評であり，霧箱作成が印象に残ったようであった。そのため当初の目的は達したと考えている。

結果報告書

授業科目名　電磁気学特論
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　松川　徳雄　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



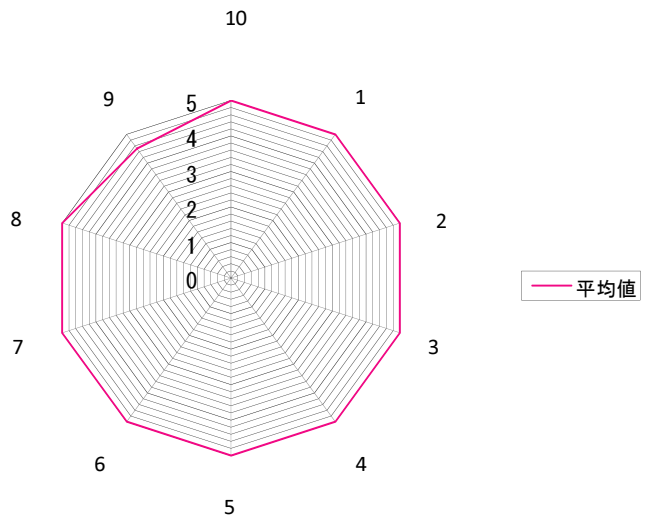
教員のコメント

各人の物理学習歴、英語力ががだいぶ異なるのでゼミナールの運用にはだいぶ気を遣った。事前指導として講義の目的、進め方、意図するところ、シラバスで説明しきれないことを丁寧に説明しておいた。幸いに各人の理解に応じたゼミナールを進められ各人の求める成果は達せられたと思う。ただし小人数で行うゼミでは教員、受講生の間が親しくなりいわゆる客観的な評価は得がたいことを示しているように思う。

結果報告書

授業科目名　物性物理学特論
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　本田　亮　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	**(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。**	2						5.0



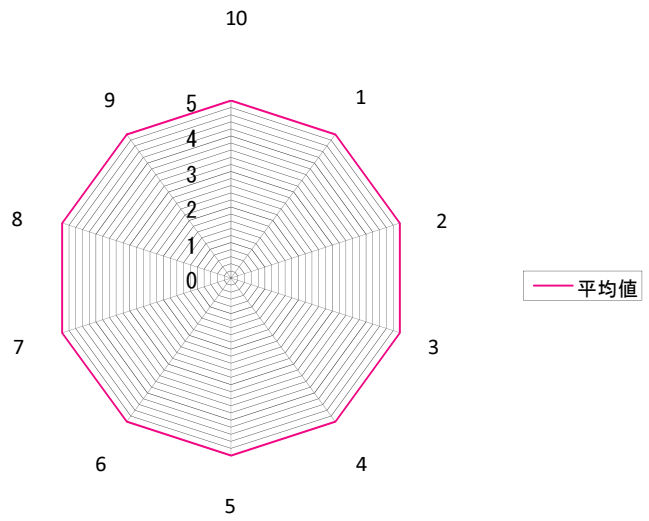
教員のコメント

受講生の人数が少ないという利点をいかして，受講生の様子をうかがいながら授業を行うことができた．受講者が英語のテキストの内容を予習し，その内容を授業中に説明することで授業を成り立たせた．自ら書物を読み，問題点をはっきりさせる能力が大学院生には求められるからである．また，自然科学において，必要な参考文献が英語のものしかないということは珍しくない．そのためであろうか，英語の勉強にもなったという意見が受講者２人ともから出た．物理的内容はそれほど高度ではなく，現代物理の初歩的なものを選んだため，受講者が著しく理解不足になることはなかった．また，受講者は疑問に思ったところを積極的に質問していた．この授業以後は，受講者が求めるものにあわせて，受講者自らがより高度な内容を学ぶ姿勢をとってほしい．

結果報告書

授業科目名　有機化学特論
評価実施日　平成22年9月16日
担当教員名　高津戸　秀　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



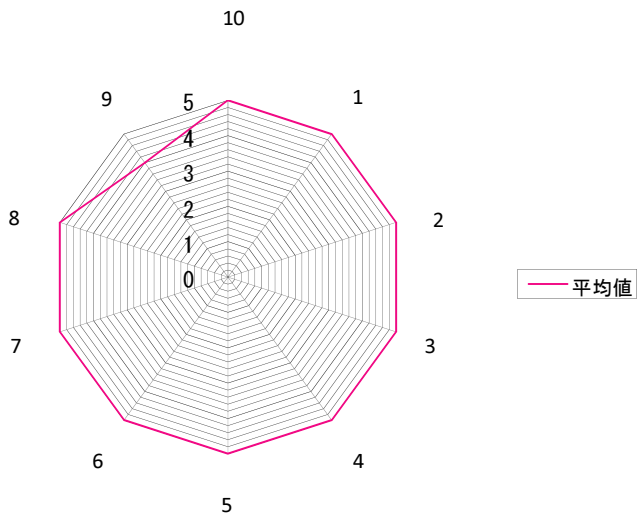
教員のコメント

全ての項目において高い評価を頂いて感謝しています。受講者は毎回熱心に授業に取り組まれ、積極的に質問をされ、こちらからの質問にも的確に答えていました。内容が理解されているという手ごたえを感じながら授業を進めることができました。内容が専門的かつ広範囲に及ぶものだったので、基本的な事柄の解説を加え、わかりやすく説明したのが、高評価につながったのではと考えています。

結果報告書

授業科目名　進化生物学特論
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　工藤　慎一　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



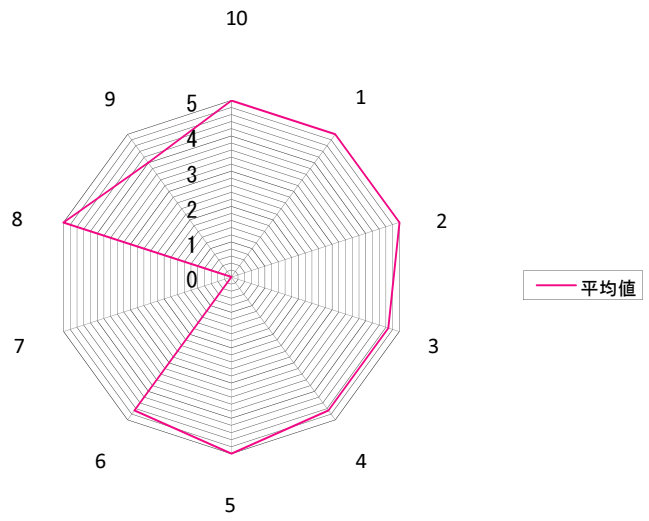
教員のコメント

授業内容や方法に問題は無いと考えている。

結果報告書

授業科目名　地球科学特論Ⅱ
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　村田　守，香西　武，西村　宏　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。						3	######
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



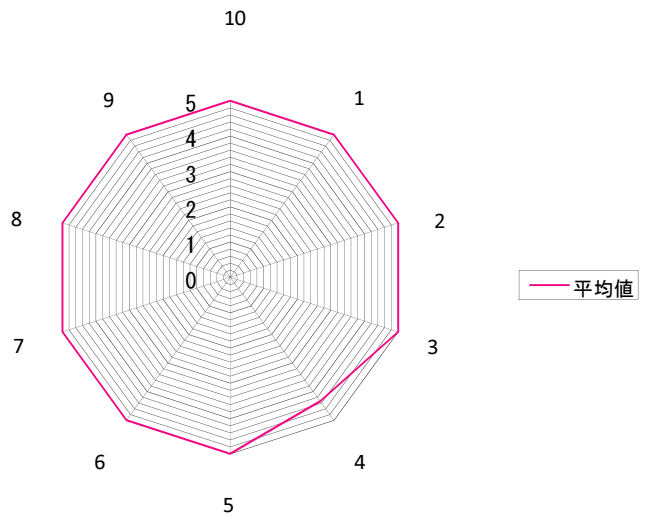
教員のコメント

受講生3名のうち，長期履修生1名，外国人留学生1名とバラエティに富んでいたために，演示実験やスライド映写等を多くするように努めた。アンケート結果は3名のために信頼性を欠くが，好評であったと解釈した。来年度以降もこのような講義形態を行いたい。

結果報告書

授業科目名　地質学･古生物学特論
評価実施日　平成22年7月21日
担当教員名　香西　武，村田　守，西村　宏，小澤　大成　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



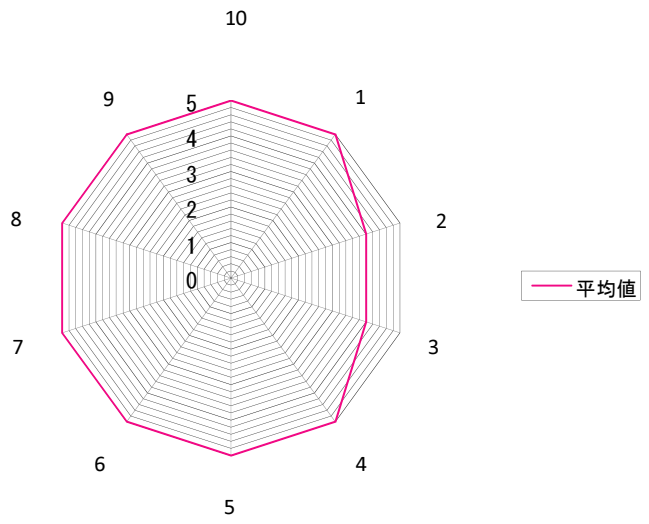
教員のコメント

受講者が少人数であるため，受講者のニーズに合った授業を行った。その結果，野外に出ることが多くなり，授業時間の枠に収まらないことがあり，受講生に迷惑をかけたが，受講生各自に満足のいく講義となったと思う。

結果報告書

授業科目名　地球惑星物質学特論
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　西村　宏，村田　守，香西　武　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



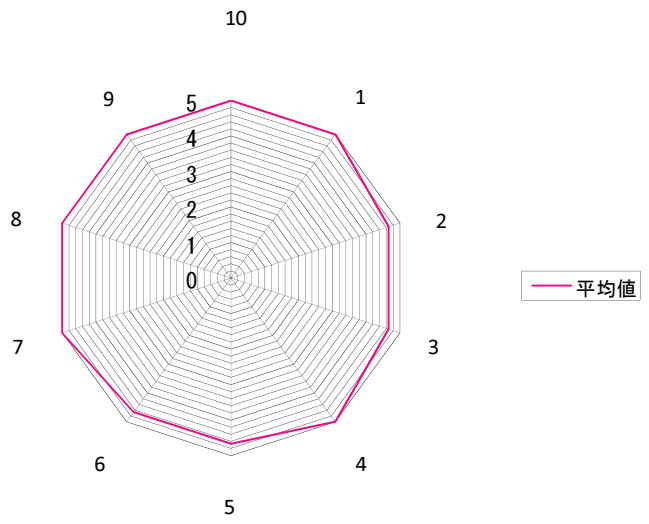
教員のコメント

本科目は主授業者(西村)の今年度末定年退職を控えて開講停止とした科目で，本年度新規入学生には開講されていなかったが，過年度入学生に対して開講されている科目であったため，授業登録者は長期履修2年次生1人だけとなった。
ただ，この受講生は極めて熱心で，授業内容に非常に興味を持っていたため，レクチャー方式よりもディスカッション方式を多用した授業とした。授業内容への興味のみならず，理解力も抜群で現在まで行ってきた多数の授業の中では，最も充実した授業の一つに数えることができるものとなった。それを具体的に表すものとして，統計的には意味をなさないものの，総合評価が5.0であり，授業者と受講生のベクトルが共鳴したものとなっていることが分かった。
以下に受講生の自由記述欄に記載された内容を記す。
○授業がディスカッションのように進めることができたことはよかった。
○思う存分疑問をぶつけることのできる授業であり，充実していた。

結果報告書

授業科目名　音楽劇総合演習
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　草下　實　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



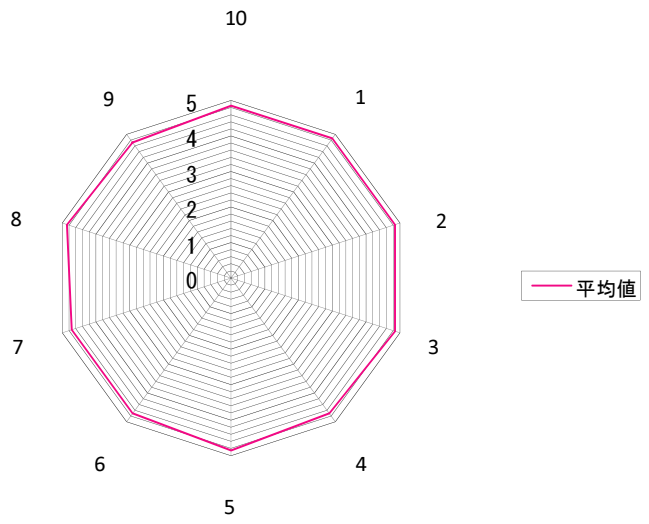
教員のコメント

平成22年度における本授業の履修状況は，正規履修者が3人，非正規履修者(全てが既履修者及び研究生)が5人という変則的であった。本授業の性質上，履修者の状況に合わせたオリジナル音楽劇作品を教材としているため，予め用意していた脚本が使えず，急遽，脚本を新しく書き直し，音楽，衣装，舞台構成，美術制作及び演出計画等を授業の進行と同時に進めることになった。履修学生に時間的余裕があれば，その制作課程を共同して行うことも可能なであるが，現実は学生が制作を手伝う時間はなく不可能である。また，履修者数も少なかったことで授業教材を大幅に修正せざるを得なかった。しかし，シラバスに沿って授業は展開した結果。学生による評価については，総合評価において5.0であることから，授業の到達目標，内容，展開，取組について概ね良好であったと判断できる。次年度は多くの履修生が得られるようにシラバスに工夫と改善をするようにしたい。

結果報告書

授業科目名　声楽発声法
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



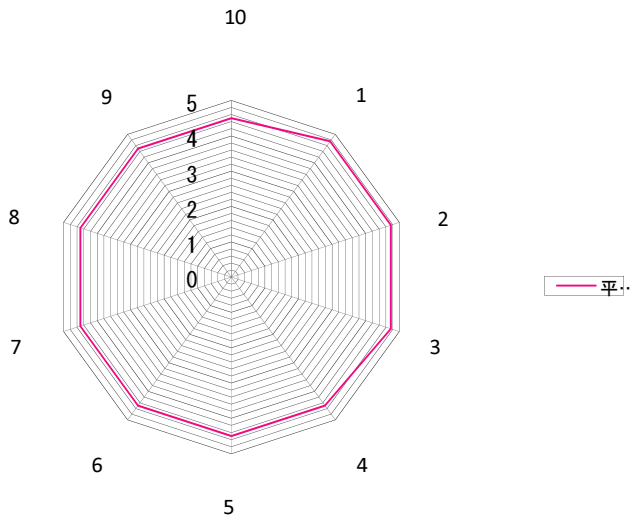
教員のコメント

声楽発声法は，前半が理論，後半が実践という形で授業を行っている。そのため理論と実践が一つの授業の中でうまく融合されなければならない。総合評価の平均値が4.9であるということは，理論と実践の融合という点において，効果的に授業がすすめられたものであると判断する。

結果報告書

授業科目名　ピアノ演奏基礎演習
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　森　正，田中　巳穂　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3		1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3		1				4.5



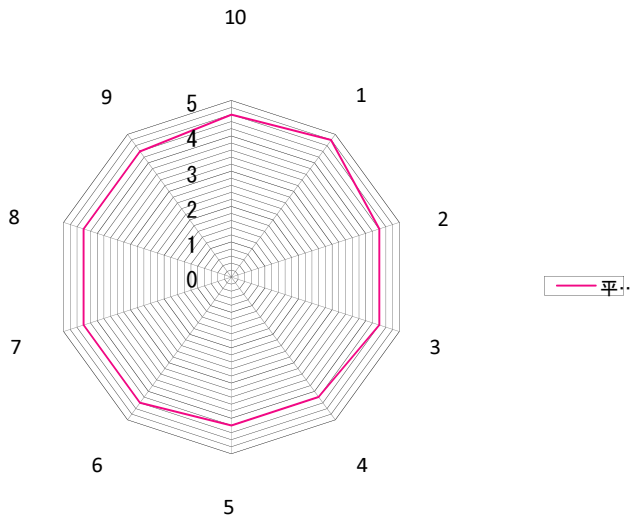
教員のコメント

概ね受講した学生から評価された授業であると考えるが、設問(4)以降で3と評価した学生については、講義形式の授業と、このような実技の授業との違いに戸惑っていたのかもしれない。(一切コメントもないので、推測であるが)音楽コース以外の学生や留学生の受講生も増えたことから、今後は、このように実技の授業の進め方に慣れていない受講生に対しても、理解される説明等が必要になると思われる。

結果報告書

授業科目名　学校教材ピアノ伴奏法
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　森　正　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1		1			4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	1		1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	1				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



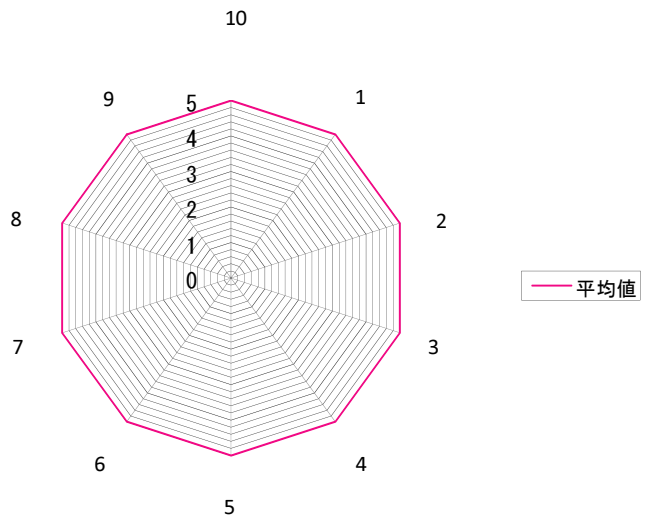
教員のコメント

概ね受講した学生から評価された授業であると考える。多少評価の割れた部分については、受講生からのコメントがなく、どのような事情からこのような評価がされたを考察することが出来なかったが、設問(4)のように評価方法の説明に関して、5と評価した受講生もいれば2と評価した学生もいたということは、授業者としては気になる点である。必要に応じて、授業そのものをより良いものとするために、受講生にはより積極的にコメントを記述してもらいたい。

結果報告書

授業科目名　ピアノ演奏法
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　森　正　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



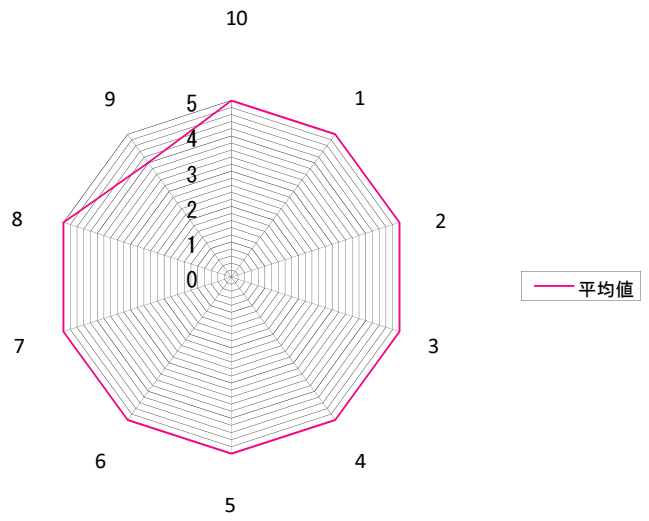
教員のコメント

受講した学生は二人とも、ピアノの演奏及びそれに関連した解説を書いて大学院を修了する学生であり、授業では当然そのための準備が行われた。二人とも、修士演奏及び解説に関して、目的意識も明確で、そのためにどのようにして課題の準備を進めていくのかを十分に理解しており、その結果、授業そのものもこのように評価されたと考える。

結果報告書

授業科目名　管弦打楽器総合演習
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　山根　秀憲　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



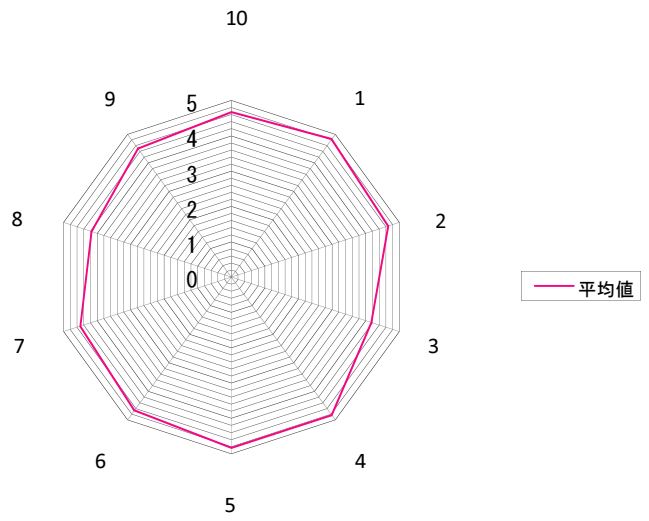
教員のコメント

受講者が1人であったため，その学生の学習段階に即応することができた。その一方で，他の学生の学びの姿を観察し自己を振り返る，また，受講生同士のコミュニケーションを通して学びを深める，という環境が得られなかったのが残念である。

結果報告書

授業科目名　管弦打楽器演奏基礎
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　山根　秀憲，小林　苳子　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1	2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5		1				4.7



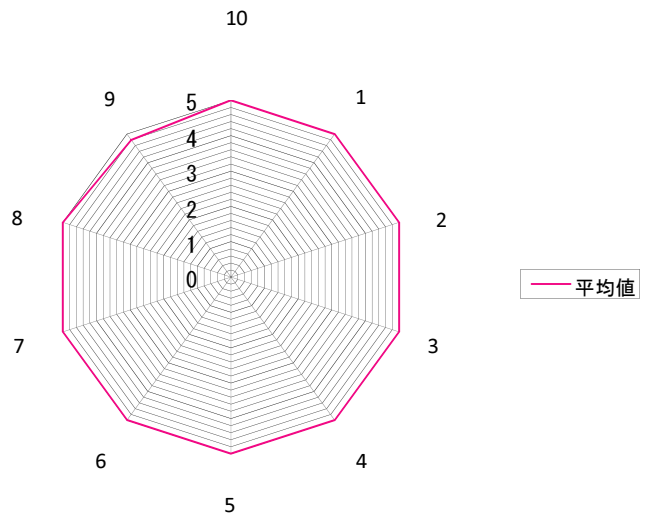
教員のコメント

「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」という項目が，4.2と低かった。自らの演奏の到達段階にのみ関心を向けるのではなく，子どもを指導する場面を想定しながら，学習を進める，という視点を持てるよう，本授業で指導をより明確にする必要があると思われる。「授業以外でも楽器を貸し出して欲しい」という意見があったが，授業を受講するために用意している楽器なので，それ以外の用途のために貸し出すことは考えていない。

結果報告書

授業科目名　指揮法基礎演習
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



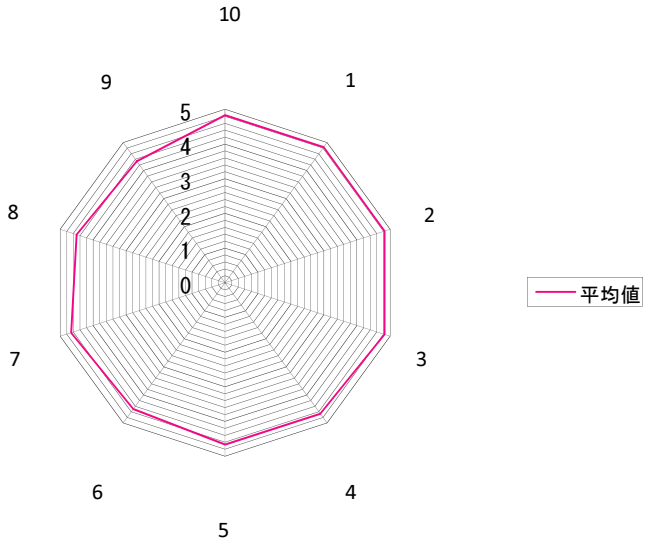
教員のコメント

指揮法の分野は学部，大学院を通じて学生の関心が高く，人気がある。総じて評価が高いのは教員の熱意や力量というよりは，興味が持て，取り組みやすい分野だからではないか？

結果報告書

授業科目名　楽曲分析研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　松岡　貴史　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

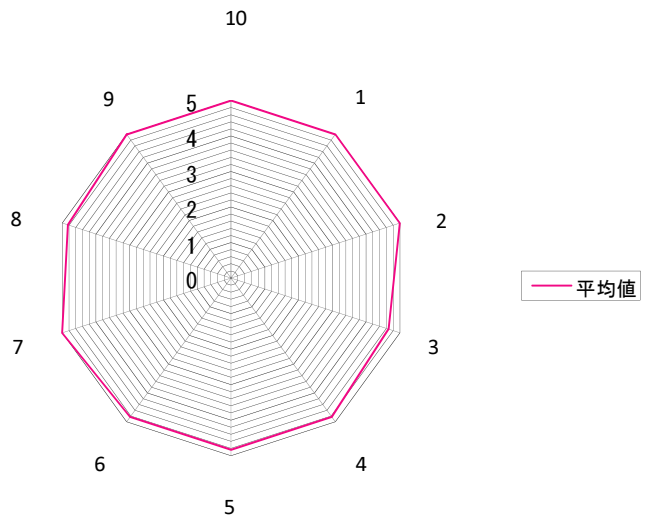
授業では，楽曲分析の方法を提示し，学校教材を含め，受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い，演奏表現にそれをどう生かすか，演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み，このような授業内容が求められていることがひしと感じられた。実際，毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ，その結果，点数評価においても平均4.8となり，満足度の高い授業であったといえよう。

自由記述は次のような内容であった。「楽曲を分析する手法について丁寧に説明された。特にソナタ形式が面白く，勉強になった。」「説明が理解しやすい。」「楽曲を分析することにより，演奏のしかた，解釈も，よくわかり，曲に深く接することができるようになった。」「童謡からイタリア歌曲，ハーモニカ曲からピアノ曲と，幅広く楽曲分析をし，先生の曲や演奏も聴けてぜいたくな時間だった。」「和音分析は最初速くてついていけなかったが，だんだんわかってきた。」「音楽を聴くだけでなく読む楽しみも味わった。」

結果報告書

授業科目名　音楽教育史研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



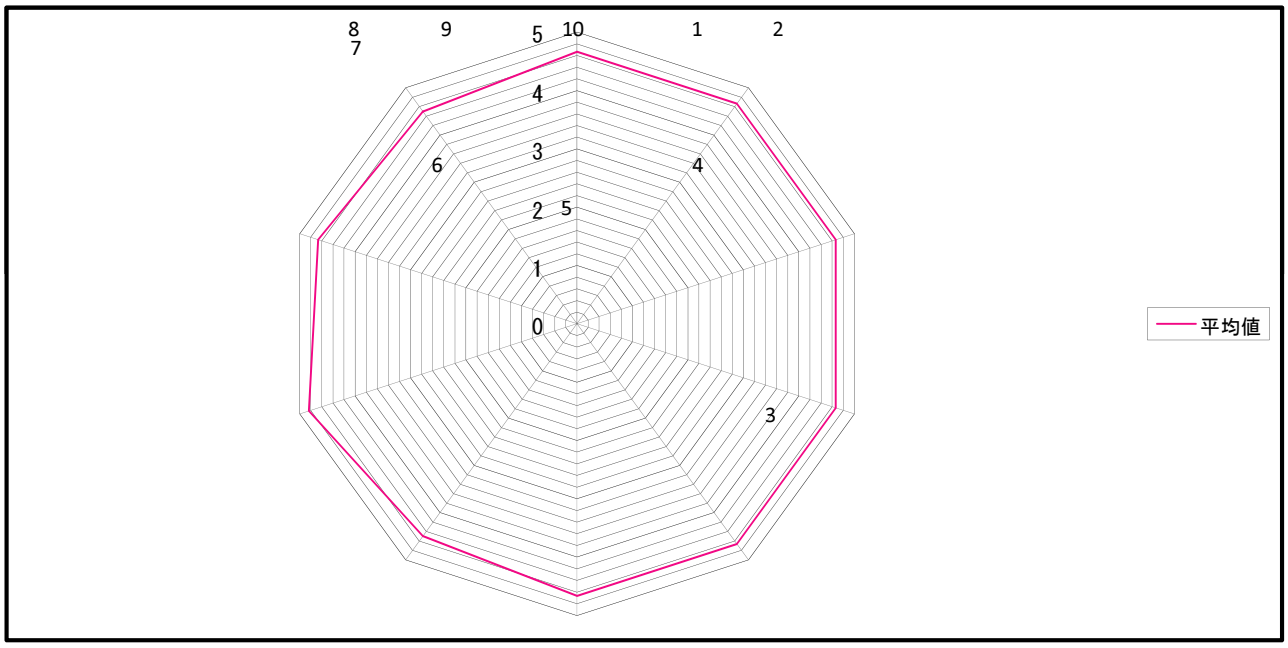
教員のコメント

原始時代や古代ギリシャの時代から、今日の学校教育の原型が生み出される19世紀までの音楽教育に関する歴史的な事実を紹介しながら、今日の学校において教科として音楽を教えることの意味や教える内容を時間の流れの中で考察していく本授業は、院生にとって、決して安易に理解できるものではない。したがって、できるだけ典型的な史料や資料を準備し、平易な解説から、音楽科教育の内容と方法を検討することができるように工夫してきた。今年度も酷評はなかったが、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」の項目で評定「4」が二つあったことには、注目しておきたい。この講義内容と教育実践力の育成との関わりを明確にしていく工夫をさらにしていきたい。院生たちの自由記述には、以下のような報告があった。「理解しやすい。説明が詳しかった。」「音楽教育の歴史的な流れがよくわかりました。」「たくさんの知識を勉強しました。古代の音楽教育からアメリカの音楽教育まで、視野を広めることができました。」「2000年もの音楽教育の歴史を、15回の講義でわかりやすくまとめられていて、大変勉強になりました。なぜ、教育現場で音楽を教えるのか、改めて考える時間となりました。」「教師をめざす人は、ぜひ、受講してほしいです。」

結果報告書

授業科目名　音楽科教育研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　長島　真人　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



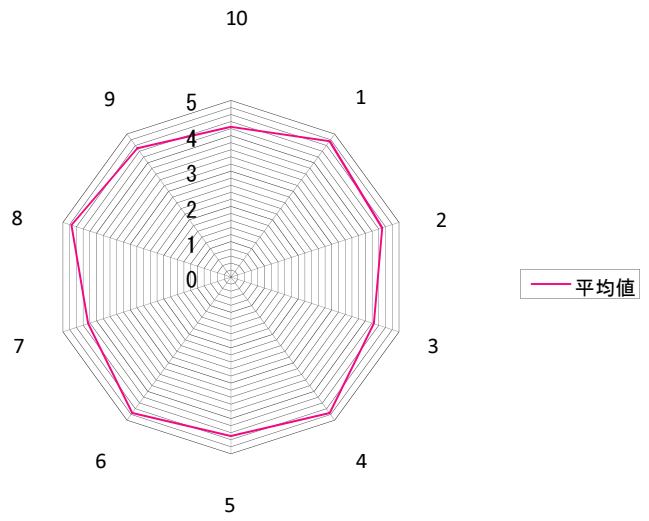
教員のコメント

音楽科教育の原理と方法を哲学と心理学の学術的な知見を援用しながら検討する授業であるが、今年度は、留学生が三人加わり、授業の展開に非常に苦慮した。日本語が十分に理解できない留学生のために、必要な板書事項は、日本語と英語の双方を提示し、必要な説明のために、ときおり英語で話す必要があった。一方、英語が全く理解できない留学生もいた。そのため、例年通りの授業を展開することは困難であったが、シラバス通りの内容を扱うことは何とかできた。今後は、また留学生が授業に来ることを想定して、英語の資料を準備することや、英語を組み込みながらスムーズに授業を展開する方法を工夫しておきたい。学生からの自由記述は、特に何もなかった。

結果報告書

授業科目名　絵画制作研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　西田　威汎，鈴木　久人　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1	1				4.3



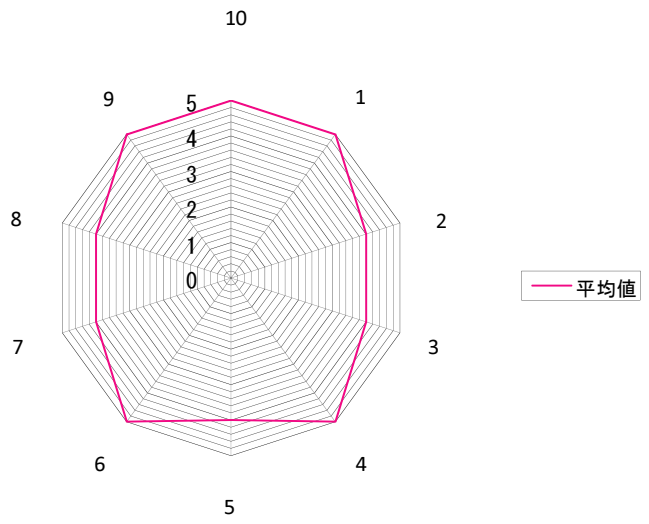
教員のコメント

概ね，質問事項(1)から(10)では本授業の内容が好意的に受け取られていると考える。だが，総合評価で3と評価した学生がいる点は授業者には気にかかる点ではある。より授業の内容，進め方について丁寧な検討をくわえる必要があるのではないか。
自由筆記の[2][3][4]の質問でも好意的記述が目立ち，前半の現代美術を取り上げている内容や後半の美術館での授業等を高く評価している。こういった内容・経験が教育現場でどのように生かせるのかもより取り上げていきたい。

結果報告書

授業科目名　版画制作演習
評価実施日　平成22年8月4日
担当教員名　武市　勝　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		2					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



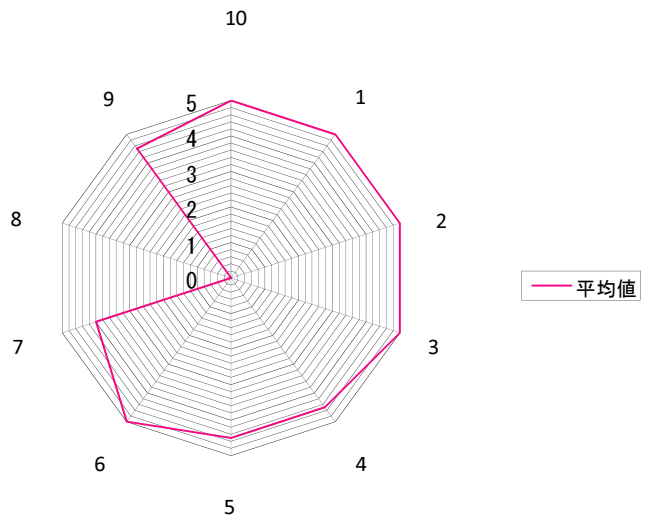
教員のコメント

今回のアンケートは、本音を言えばアンケートにはならないと思っている。
受講生が2名であり、ほとんど特定されるため書き込みが限られるからである。
ただ、その中でも4のついた項目は、もって銘にしようと思われる。
とくに、3の現場実践との関係、5の授業の速さについては以後の留意としたい。
3について
経験が多様な院生には現状がベストの教材と考えていた。
が、今回のような場合は、ただ2人の経験から、それに欠如している内容で必要と思われるものを用意すればいい。
問題は、そうするとシラバスと異なること、用材の不足が起こることである。
その問題を押してもなお、モチベーションの高い題材を与えることは能力向上に貢献すると思われる。
次回の検討としたい。

結果報告書

授業科目名　塑造制作演習
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　長岡　強　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1					1	5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					1	5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。						2	######
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



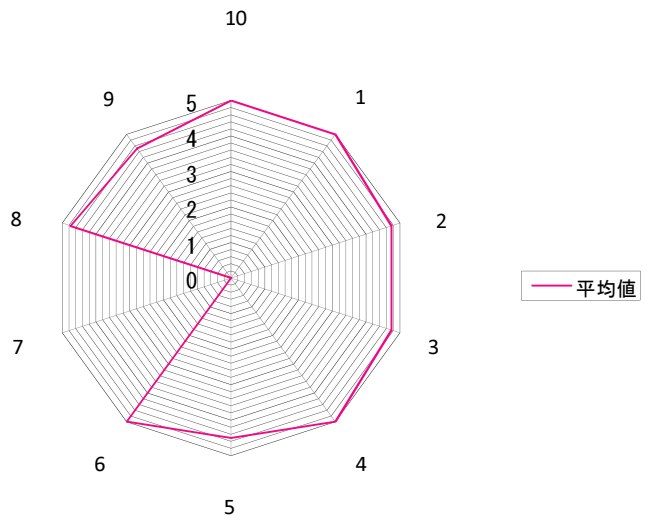
教員のコメント

受講生2名とも初めての全身像の制作であったが，個別指導が徹底し，受講生にとって満足のいく授業となった。

結果報告書

授業科目名　石彫制作演習
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。						4	######
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



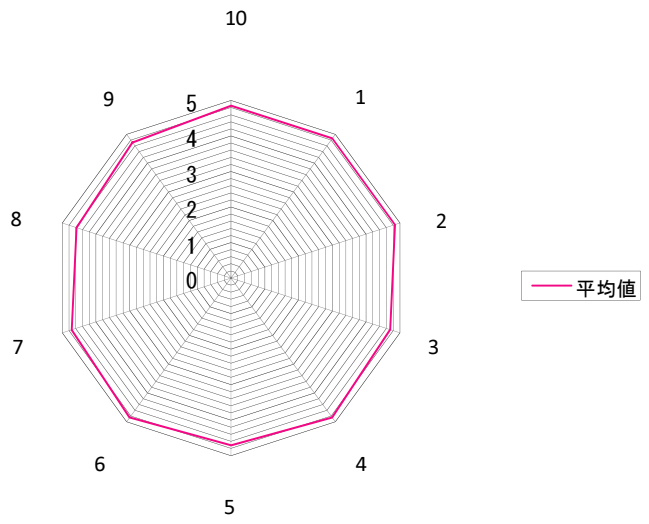
教員のコメント

質問項目(10)の「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」が，4人の受講生，全員，5の評価をつけている。また，他の質問項目においても全体的に高い評価になっていることから，特に反省することがないように見受けられるが，(7)における資料の配付等が今後の課題と考える。この評価に甘んじることなく，授業内容の質を高めていきたい。

結果報告書

授業科目名　視覚デザイン演習
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　松島　正矩　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1					4.9



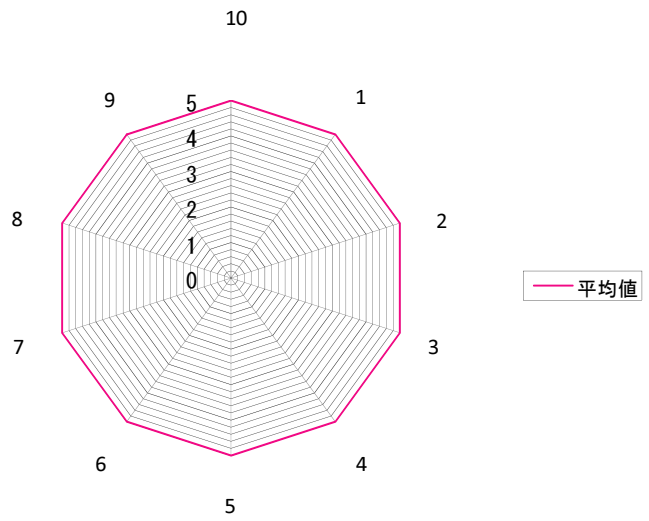
教員のコメント

履修者は，美術コースの学生が6名，特別支援の学生が1名であった。全員がそろった日が12回もあり，全員が大変熱心に受講してくれたと感じている。少人数であったため，学生の能力に応じて個別に指導することができ，理想的な授業を展開することができた。
評価結果を見ると，全項目が5に近い数字となっており，今まで経験したことのない最高の評価をしてもらえたようである。しかし，アンケート調査用紙のコメント記入欄を見ると，記入してくれた学生は半数に満たない情況にあり，アンケート疲れしている様子が感じられる。

結果報告書

授業科目名　工芸制作研究
評価実施日　平成22年9月23日
担当教員名　井戸川　豊　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



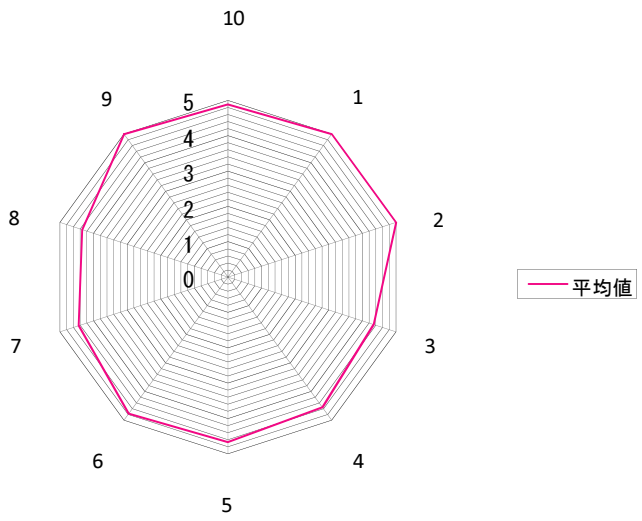
教員のコメント

受講生が熱心に授業へ取り組んだ。受講生数が少数だったので、指導が行き届いた。

結果報告書

授業科目名　陶芸制作演習
評価実施日　平成22年7月28日
担当教員名　上田　敦子　　回答者数　9　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	6					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	7	1	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6		3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



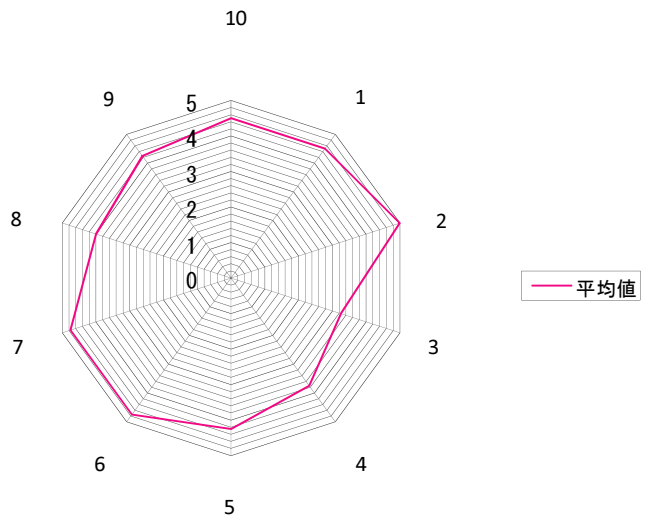
教員のコメント

陶芸の基礎を一通り習得する授業構成にした。実技中心なので教科書や板書や視聴覚機器の使用が適切ではなかった事と、受講生の半数が美術以外の学生だったので、教師の実践力の育成に役立つ授業ではなかった項目が生徒から満足してもらえていない点につきては仕方ないと思うが、成績評価の点で不明だと思っている学生がいる点についてはもう少し明確にしていきたい。

結果報告書

授業科目名　芸術学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　小川　勝　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	3				3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1	2				3.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	3					4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5

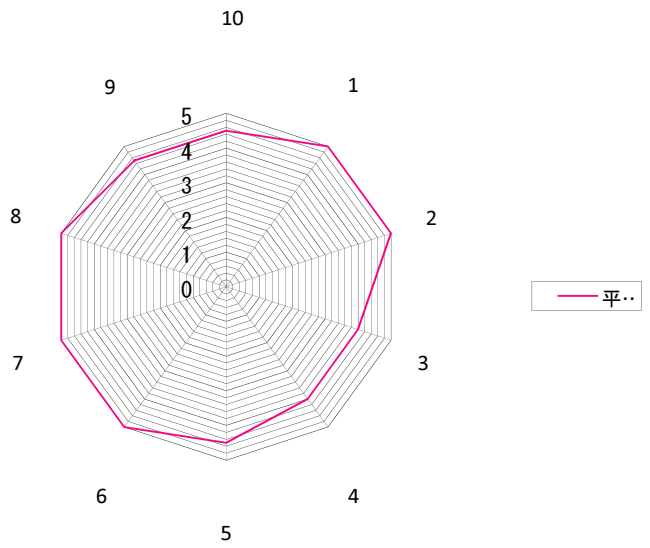


教員のコメント

結果報告書

授業科目名　美術科教育学研究
評価実施日　平成22年9月30日
担当教員名　赤木　里香子　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		2					4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



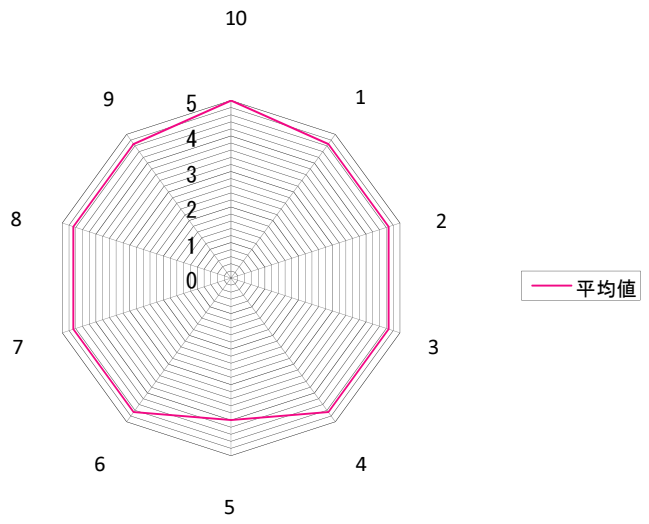
教員のコメント

美術教育の歴史に関する講義が中心であったため、教師の実践力の育成に直接つながるものは見い出しにくかったと考えられる。教科の存在意義や大きな目的、社会との関連性などに注目させることで、自らの実践を見直すきっかけとなるようにしたい。また、成績評価の方法については、確かに説明不足であった。今後は課題の種類や量について、最初に情報を提供するようにしたい。

結果報告書

授業科目名　美術科授業研究
評価実施日　平成22年7月22日
担当教員名　山木　朝彦　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		3					4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



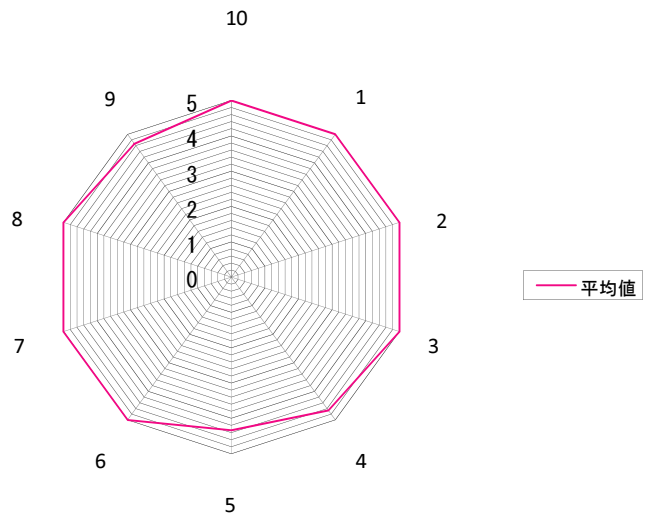
教員のコメント

何よりも良かったのが総合評価である。全体的に見ると、ほぼ完成に近い形態の授業であるということだと思う。ただし、わずか三名という授業アンケートの結果である。その点については留意する必用がある。授業の進度については、他項目と較べて相対的にはやや満足度が下がっている。おそらく、最終段階のプレゼンター用資料の作成のために十分な時間を用意できなかったことが、このようなアンケート結果に結びついている。この点、次年度には、なおいっそう授業の進度に気をつけたいと思う。

結果報告書

授業科目名　美術科教材開発研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　山田　芳明　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



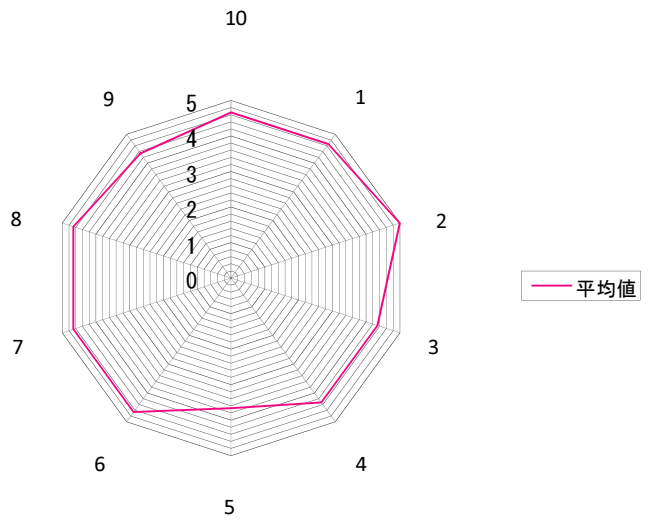
教員のコメント

本授業は，美術科の本質的内容である教材について，その開発のあり方について研究する。授業は，大きく前後半に分けており，前半は教材についての理解と，視野を広げるという・目的で，ビデオ視聴をもとにディスカッション形式で進行する。後半は，各自が実際に教材を開発することを通して教材開発のあり方とその意味意義について理解を深める。本授業評価結果からは，このような授業の目的と，方法が学生から高い評価を得ていると判断できる。今後とも，学生が意味・意義があると感じられる授業を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名　美術科教育研究法演習
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　山木　朝彦，山田　芳明　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1		1			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



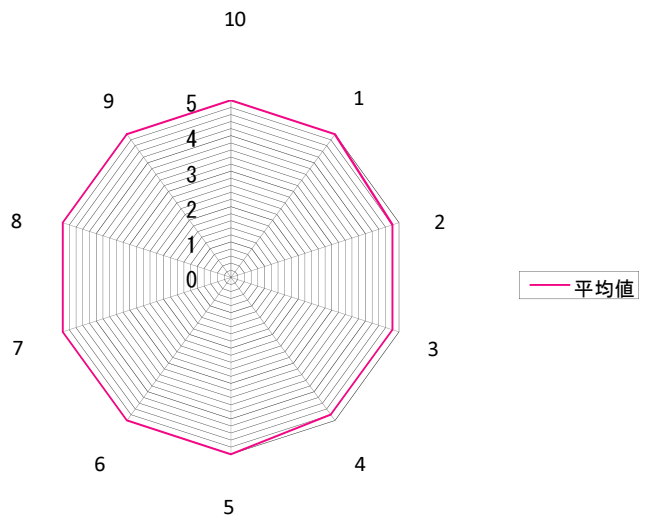
教員のコメント

授業の進度を除き、全項目が良い結果となった。これは、オリエンテーションにおいて授業の目的と方法を明確に伝えたことと、適度に変化をつけて、飽きない授業を心がけた成果であろう。また、できるかぎり教育実践現場で役立つ教材作りを目指してもらったことも良い結果に結びついた。今後の改善点は、シラバスの計画に捉われすぎることなく、受講生ひとりひとりの能力に見合った学習進度を確保できるよう、授業計画をフレキシブルに運用することに尽きる。

結果報告書

授業科目名　スポーツ社会学研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　木原　資裕　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



教員のコメント

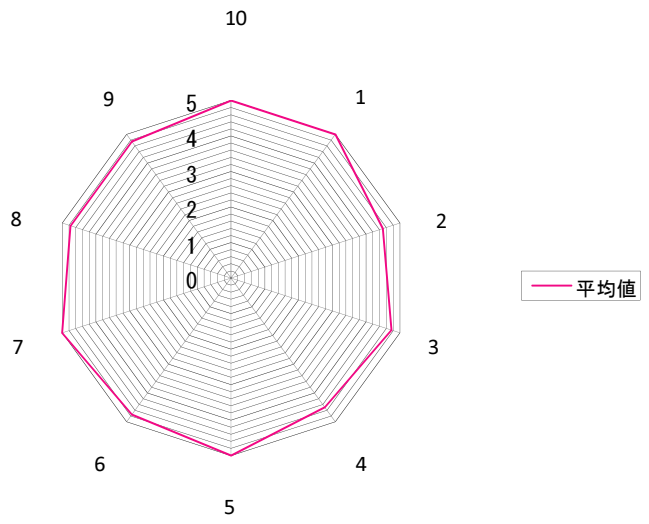
「10. この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の項目に対して、平均値5．0であり、すべての受講生が「5．そう思う」と評価している。また、受講生の自由記述にも、「これまで表面的にしか見ていなかったスポーツを深く見ることができ、いろいろなものの見方を学ぶことができた。」「参考文献や資料が豊富に使われていて、今までのスポーツや武道の見方・興味を広げることができた。」等の指摘があった。

このことは、受講生が5名であり、授業内での教員とのコミュニケーションがよくとれたことと、受講生の興味・理解にあわせた視覚教材を用いた授業が展開できたことが大きいと思われる。今後も、受講生とのコミュニケーションの取り方の工夫や視覚教材の充実を目指していきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　体育・スポーツ心理学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　賀川　昌明　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



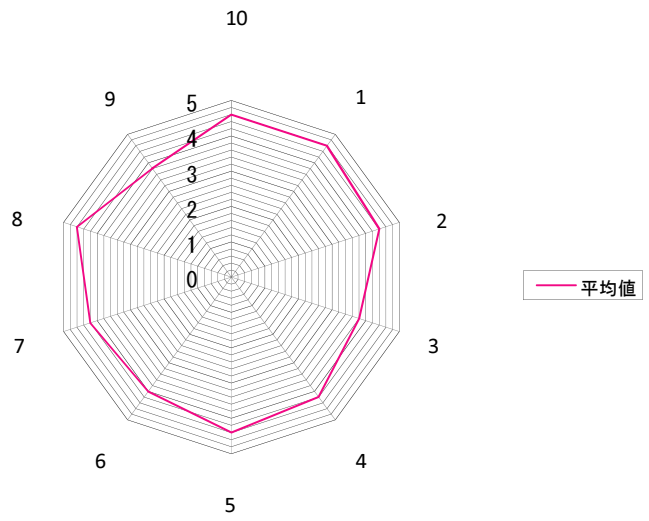
教員のコメント

受講生は6名であったが、授業最終日に体調不良等の理由で欠席者があり、回答は4名となった。
いずれの質問項目に対しても高い評価が得られ、総合評価としても全員が5を選択した。そういった点では、一応の成果が得られたと思われる。
しかし、授業中に示した受講生の反応は今ひとつという感があり、授業者の意図や講義内容がどれだけ浸透したのか不安な面もある。
今年度のシラバスには体育授業に関する項目に重点を置いた本授業のねらいや内容を示していたが、受講生にはあまり周知されていなかったようである。「もう少しスポーツ心理のことを学びかった。」という自由記述欄のコメントも、その実情を示している。授業内容を受講生のニーズに対応させるためも、教務ガイダンス等を通じてシラバスの意味を事前に指導する必要性を感じた。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・バイオメカニクス研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　松井　敦典　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	2				3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1		1			4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	4					4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3		1			3.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



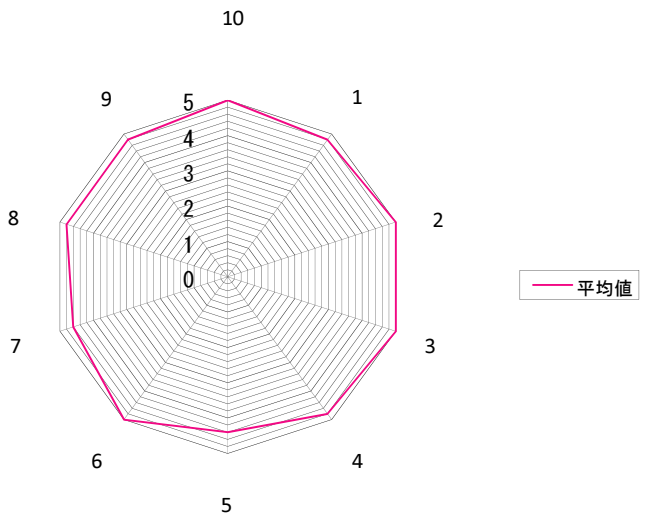
教員のコメント

近年の受講生は、それ以前の受講生と比較して、受講動機に単なる物珍しさを挙げ、教員や指導者にとっての必要性に関する理解が十分でない者が見られるようになってきた。そのような受講集団の変容に対応して、よりよい授業が展開できるように工夫していく必要がある。
また、多くの受講生は専門のスポーツ種目を持ち、それに関する知識や経験は豊富に持っているものの、非専門の競技種目に関する知識経験は豊富とは言い難い。本授業によって身体運動の一般的・普遍的な見方や考え方を再確認し、全ての体育・スポーツ種目に対応・応用できるよう、授業の内容と方法を精査していきたい。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・トレーニング研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　南　隆尚　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4		1				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



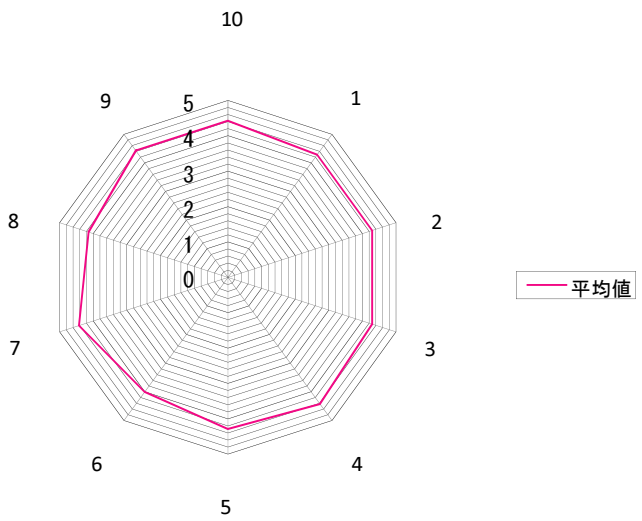
教員のコメント

＜分　析＞
　本授業は，『(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。』や『(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。』，『(6)受講生に分かりやすく説明した。』などは高い評価得られた。これらは，学生が少人数であったことから，希望する内容を逐次聞いたことや，質問にも比較的丁寧に回答することが出来たためと考えられる。
　『(5)授業の進む速さは，適切であった。』や『(7)教科書や配布された資料は，適切であった。』は比較的低い評価であった。これは授業大半をPCによるプレゼンテーションを中心に授業を進めたため，計画的な板書の活用が出来なかったためと考えられる。しかし(5)と(7)は昨年度は高い票を得ており，その違いは，配布した資料であるように考えられる。こちらで要点を抜粋した資料を用意したが，学生は，プレゼンテーションで示した全ての資料を要望しているものと考えられる。板書と資料，また筆記する文量を鑑みたノート作成を促すような資料の作成も検討する必要がある。しかし場合によっては補足説明で板書を使用することもあり，もっと的確な配慮が必要であった。また自学自習のためにも，より適切な文献などの紹介もしたい。
　『(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。』は全員に高い評価を受けており，大変喜ばしい。来年度も続けられるように研磨したい。

結果報告書

授業科目名　学校保健学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　吉本　佐雅子　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5		2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	2				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2	1				4.4



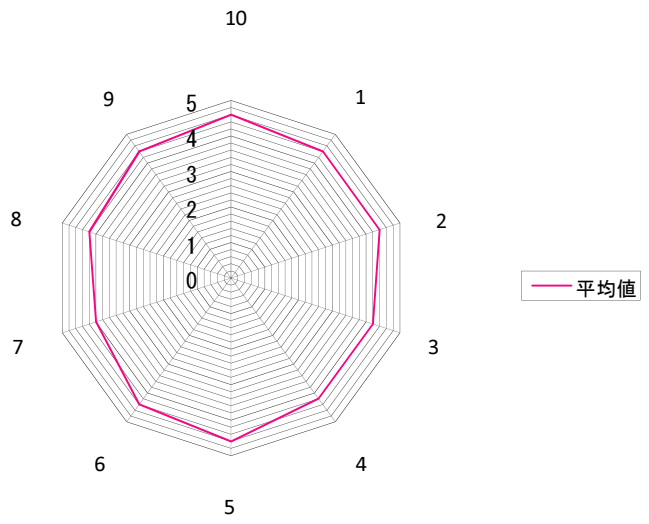
教員のコメント

本年度は，保健学習の意義，健康対策としての位置付け，学校現場での現状などを重点的に講義した。これらの点に関して，現在の保健の存在意義が良く分かり，学校での保健活動へのモチベーションが上がった等の意の評価コメントをうけた。これらの評価から，これからも，学校保健の全体像をしっかり理解させることが本授業の重要なねらいになると考えられた。

結果報告書

授業科目名　健康科学研究
評価実施日　平成22年7月23日
担当教員名　廣瀬　政雄　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		2				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	2				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



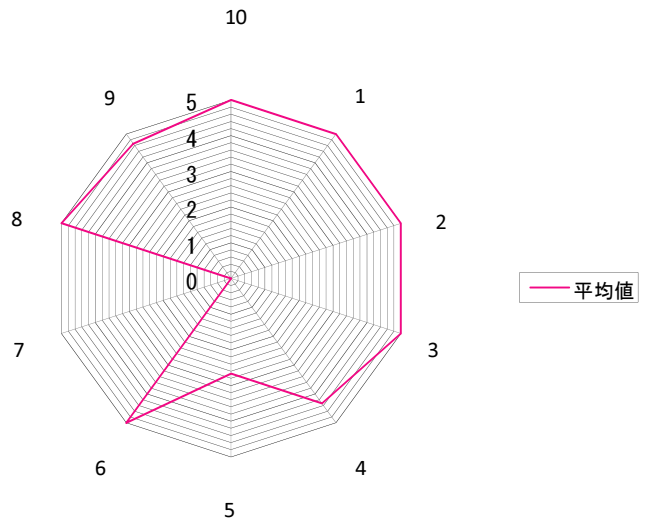
教員のコメント

健康の維持と増進に役立つ医学的な内容の授業であるが、興味を持って受講してもらえるように工夫した点が伝わっている評価である。

結果報告書

授業科目名　運動生理学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　田中　弘之　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。		1	1		1		2.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。						3	######
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



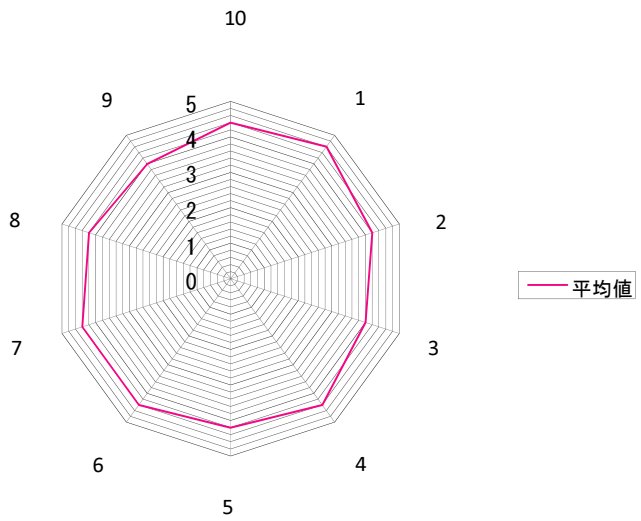
教員のコメント

評価の平均値は4.6であり，総合評価においても全員が5と判断していることから，所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。しかし，『授業の進む速さは，適切であった。』について，1の評価があり，今年度は例年になく受講生が少なかったために，進度を抑えて講義をしたつもりであったが，容易には解決し難い課題であると思われる。
自由記述欄の概観では，『健康に豊かに生きていくための基礎を学びました。』『丁寧に教えてくれたので，生理学を勉強する意欲が生まれた。』『他の教授の方より，はるかに分かりやすかった。』等，概ね好評であった。
改善するべき点としては，『スピードを落として頂ければありがたいです。板書ができなくて困りました。』の一件のみであり，今後の参考意見として考慮したいと考えているが，総じて授業改善に関する強い要望は認められなかった。
授業のより実践的で，効率的な運営については今後も継続して検討を重ねたい。

結果報告書

授業科目名　情報処理研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		2				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	2	1				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1	1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1	1				4.4



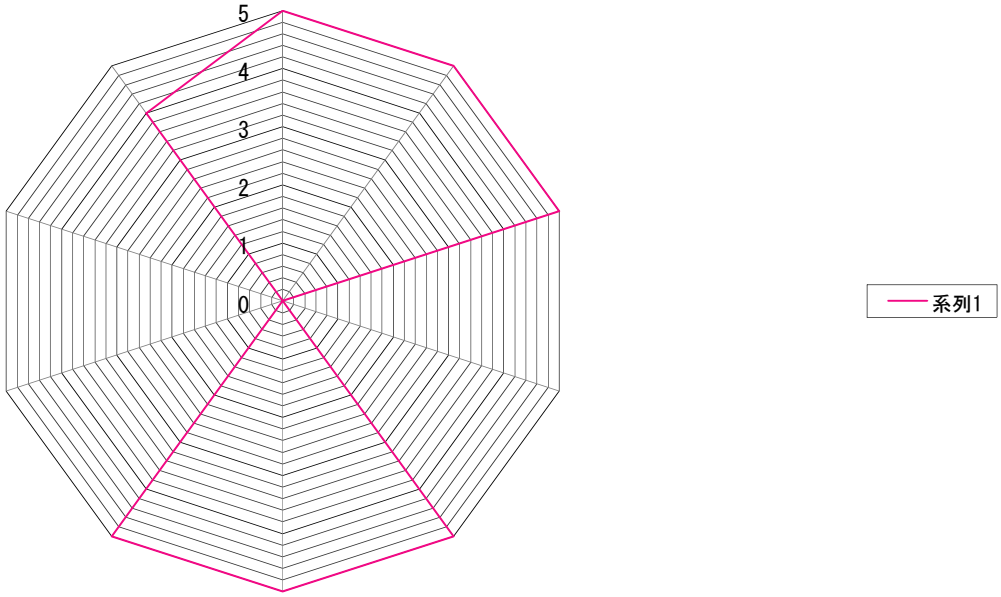
教員のコメント

本授業の評価はオール5と評価している学生と4または3と評価している学生に極端に分かれている。すなわち，本人にとって非常に興味を持てた学生とそれほどでもなかった学生がいたようである。学生の自由記述では，情報機器の変遷に関して，実物を触れること，実物を触りながら授業を進めること，分かり易い資料が毎回配られることが良かった点で書かれている。改善すべき要望は書かれていなかったが，海外調査で写真等も入手できているため資料内の写真情報をより鮮明な写真に変える必要があると思われる。本授業は，概ね学生からの反応が良かったと思われる。

結果報告書

授業科目名　材料及び加工学演習
評価実施日　平成22年7月23日
担当教員名　米延　仁志　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。						1	######
教員の授業の進め方について	（4）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（5）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（6）受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	（7）教科書や配布された資料は，適切であった。						1	######
	（8）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。						1	######
あなたの授業への取り組みについて	（9）授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	**(10) この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。**	1						5.0



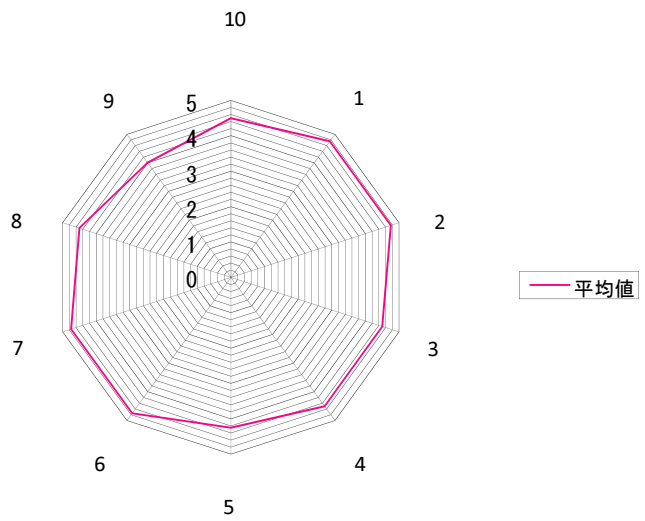
教員のコメント

受講者が，ほぼ満足している点は良かった。この演習では例年，受講者全員が全く違う制作品を作製することにしている。そのため，受講人数が多いほど，担当教員の負担が増える。今年度は一人だったので，非常に緊密に内容の相談や制作品の設計が行えた。ただしお互いの制作品の工夫点を学び取る機会が得られなかったことは残念である。

結果報告書

授業科目名　情報科学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　伊藤　陽介　　回答者数　4　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



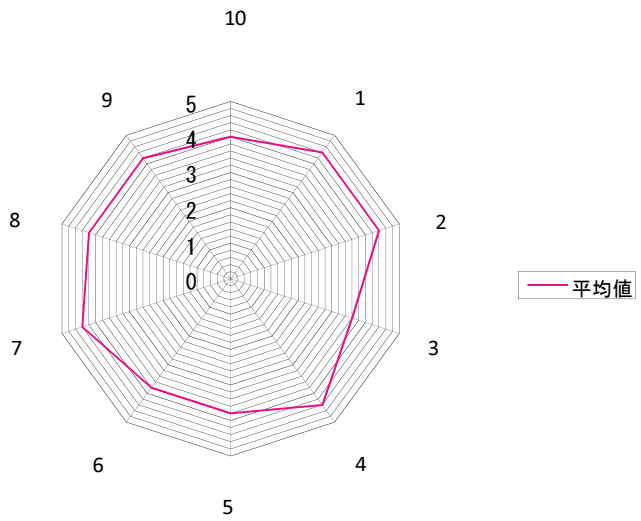
教員のコメント

4名の受講者数では客観的な授業評価は難しいが，総合評価は高く本授業の内容について問題は少ないと推測される。授業で取り扱う内容が専門的でやや多いため進度が速い印象を与えている。今後授業方法ならびに教材などにおいて改良が必要である。また，受講生のコメントから，教授用資料の評価は高く，概ね本授業について満足できていることが読み取れた。

結果報告書

授業科目名　信号情報処理研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1	1			3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3					4.4
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1	1			3.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1	1			3.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		2				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1	2				4.0



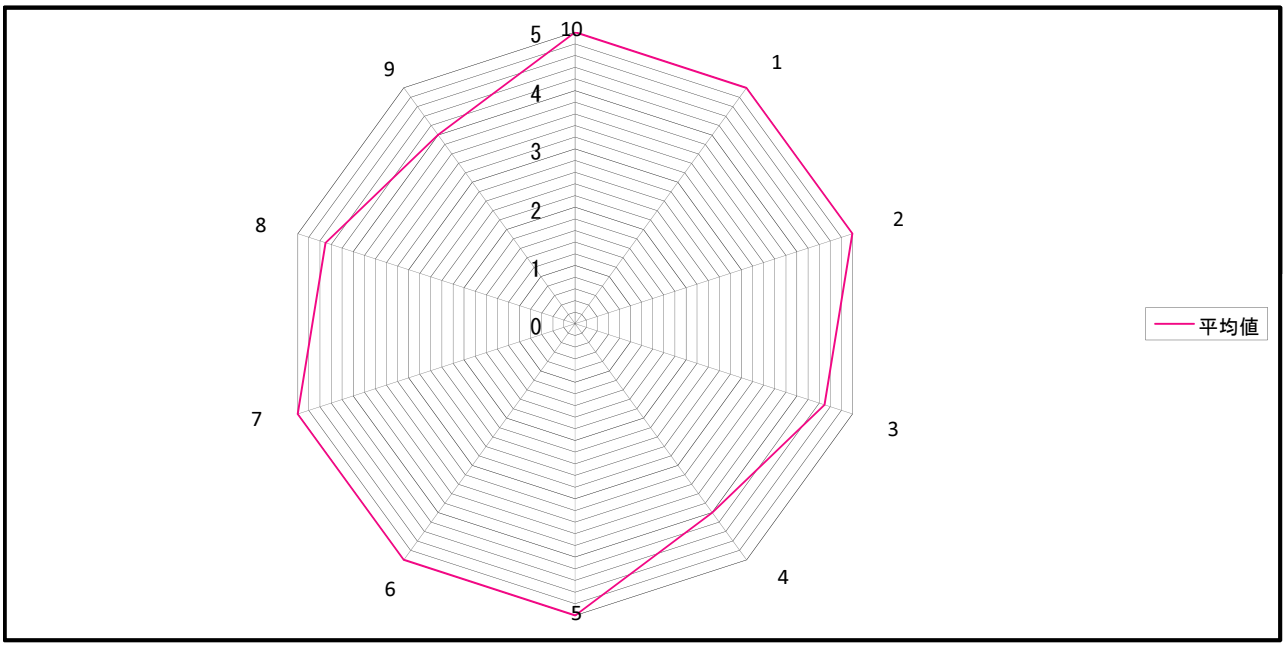
教員のコメント

本授業科目は高校情報免許関連科目であるが，高校情報免許を所有している学生は1名のみで，ほとんどの学生が専門的知識の習得のために受講していた。そのため，項目3の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」については一部の学生の評価値が低い。自由記述では，自分の声を使って信号処理を行い実習に非常に興味を持ったとの記載があり，プログラミングレベルが高度であるにも関わらず，授業内容には興味を持ったようである。数学的な処理にそれほど興味がない学生が受講していた割には全員積極的に受講していたと思われる。

結果報告書

授業科目名　シミュレーション研究
評価実施日　平成22年9月16日
担当教員名　高曽　徹　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



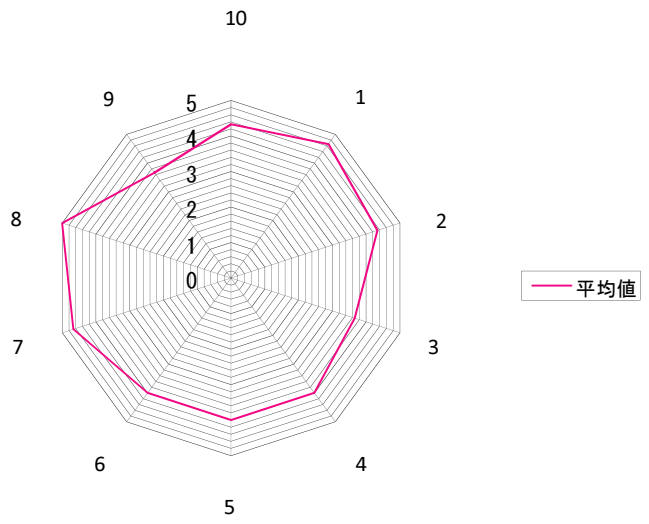
教員のコメント

熱心に聴講していたように思います。このアンケートには現れていないのですが、講義の前提となる力学の知識が不足していたようなので、今後はその講義も含めたいと思います。

結果報告書

授業科目名　計算力学研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		2				3.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1	1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1				4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		2				3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



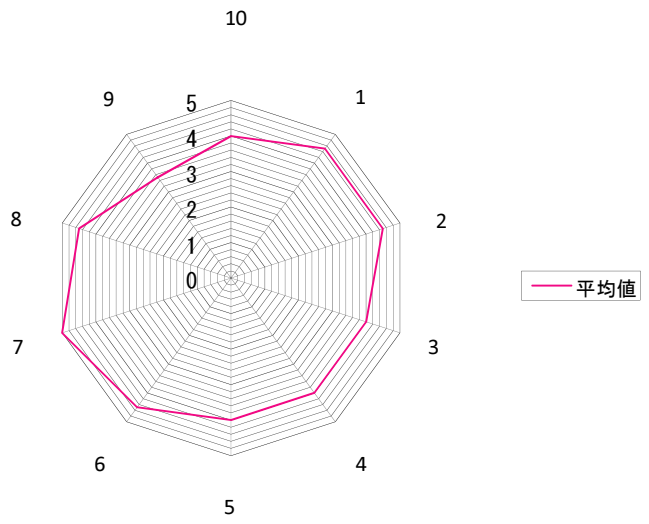
教員のコメント

評価4.0以下の項目が二つあった.「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」と「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」がいずれも，3.7である. 大学院における教科専門のさらに応用分野に係わる講座であることから，(3)の小中学校における教育実践に直接役立つ内容か否かで評価されると低位な値となることは避けられないと思うが，来年度に向けて教育内容を再検討する. (9)の学生の授業に参加する姿勢については，特に問題は感じていなかったが，講義の展開等において学生が積極的に参加するよう工夫をする.

結果報告書

授業科目名　計算力学演習
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　畑中　伸夫　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1		1				4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1				3.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1		1				4.0



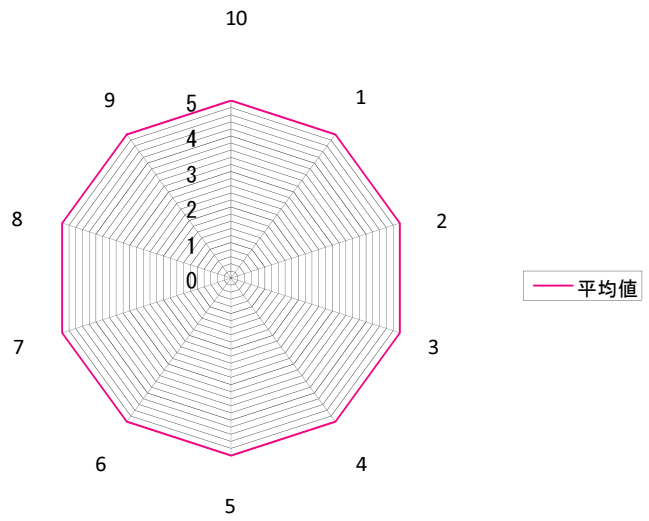
教員のコメント

受講者(アンケート回答者)2名で，アンケートに対する信頼性の問題はあるだろうが，学生は全般に良く勉学に励んでいた．学生自身の授業への自己評価が低位となっているが，授業を担当したものとしては特段の問題があったとは考えていない．

結果報告書

授業科目名　教育と情報活用
評価実施日　平成22年9月30日
担当教員名　益子　典文　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



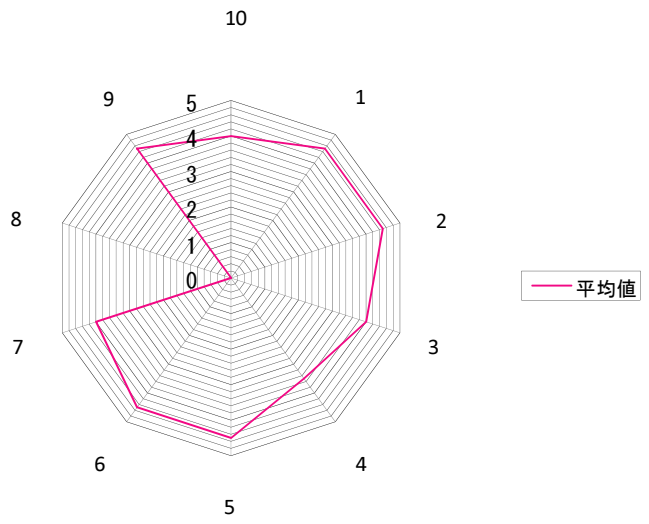
教員のコメント

高い評価のようですが，次のような原因が考えられます。
(1)受講生が2名であったので，常に対話しながら講義を進めることができたため。
(2)受講生2名とも現職教員でしたので，外部講師の私に気を遣ってくれたため。
いずれにせよ，現職教員の大学院生といろいろな話をしながら講義ができて，私自身も楽しく集中講義をさせていただきました。
教務課の担当の方にも，シラバス作成から高島会館の宿泊や教室予約など，大変お世話になりました。
ありがとうございました。

結果報告書

授業科目名　家族・ジェンダー研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　黒川　衣代　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。		1	1				3.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		2					4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。						2	######
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		2					4.0



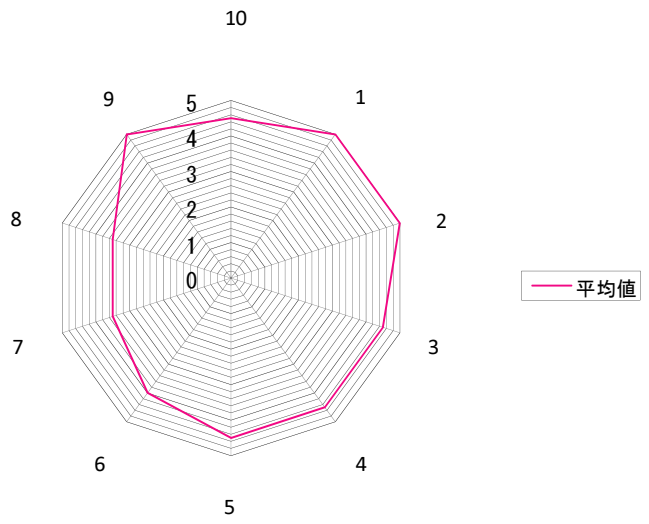
教員のコメント

授業では輪読する本(今年度は「ライフコースとジェンダーで読む家族」)を選び、各章ごとにまとめを発表してもらい、それに対して補足説明の講義を行うという方式で進めた。また、テーマごとに、学生それぞれの意見を求めディスカッションに進展させたかったが、履修した学生が2名という少ない人数であったので、それぞれの意見を述べるに留まった。専攻が「家族・ジェンダー」とはあまり関わりのない学生であったので、分かりやすく説明することを心がけた。成績評価の方法の説明が、やや曖昧であったのかもしれないので、改善していきたい。

結果報告書

授業科目名　衣生活学研究
評価実施日　平成22年7月27日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2					4.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。		1	1				3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1	1				3.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



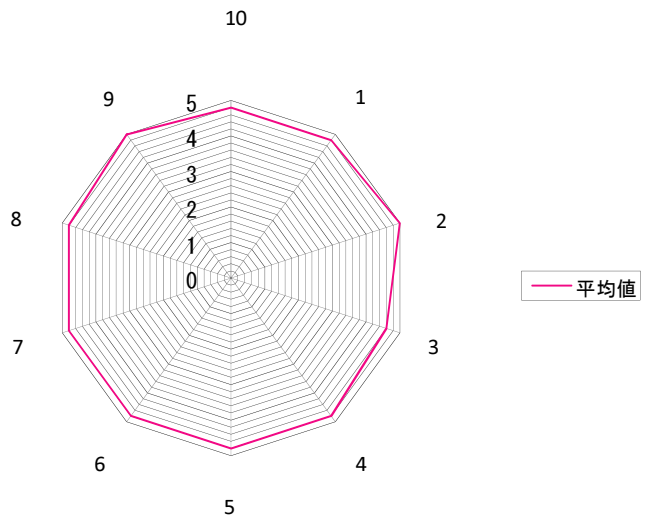
教員のコメント

この授業は受講者の希望にあわせて毎年授業内容を変更している。今年度の授業は修士論文作成時に活用できるように，エクセルの基本的な使い方と，エクセルを活用して統計処理の基本を学習した。この授業でよかった点として，「専門性を高める授業内容だった。」，「エクセルでの技能が増えた。」という学生からの回答が得られ，総合評価においても高く，概ね授業内容を好意的に受けとめている。しかしながら，改善すべき点として，「内容が難しかった。プリント配布が切れていた所があった。」，「難しかったので毎時間必死だった。」という授業内容に対する不満もあった。同じ内容の統計処理の方法について練習問題を2，3回繰り返し行い，学生が理解したうえで，次のステップの統計処理を実施したが，教員の判断と学生の理解度に乖離があったようだ。授業の進度について適切であったと学生が授業評価している結果から，来年度も学生の理解度を確認しながら授業を進めたい。プリントに関する問題については来年度以降，教科書を購入するように指導する。

結果報告書

授業科目名　食生活学研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　前田　英雄，西川　和孝　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	**(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。**	4	1					4.8



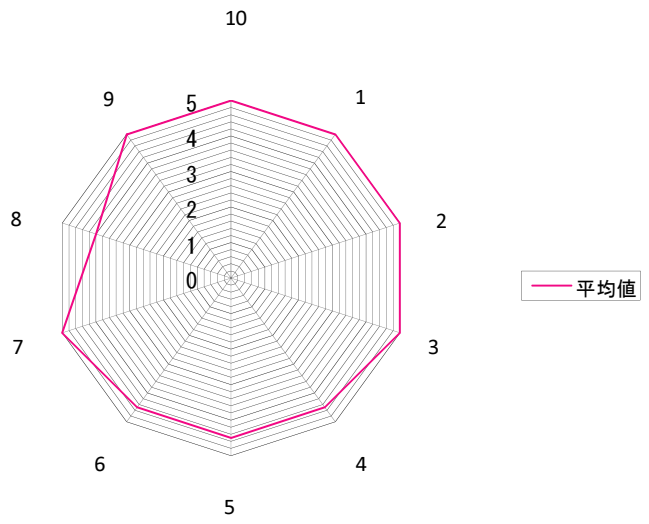
教員のコメント

平成22年度前期に開催されるこの授業科目には5名が受講した。受講生の出身大学やその学科の専門は5人ともすべて異なり、また、その中には留学生2人も含まれていた。この授業の基礎となる食品学、栄養学および調理学を学んだことのない学生や学んでいてもその深さの程度が多様である。そのため専門的用語は必要最低限にして授業をすすめた。知識は、授業担当者としては限られた授業時間内に講義内容をどこに焦点を合わせるかが難しい点があったが、「授業内容について」「教員の授業の進め方について」の評価は概ね良かった。一方、過去の受講者による「あなたの授業への取り組みについて」は、学部授業及び大学院授業もいずれも低いが今回の受講者はすべて積極的に授業を受けているように思われた。

結果報告書

授業科目名　住生活学研究
評価実施日　平成22年7月26日
担当教員名　金　貞均　　回答者数　2　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



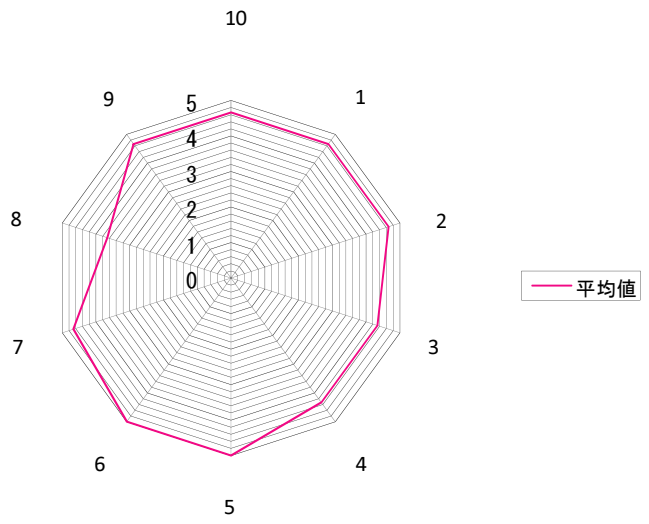
教員のコメント

本授業に対する総合評価は5.0ポイントで、「授業内容」と「授業への取り組みに対する自己評価」において高い評価をしていた。「教員の授業の進め方」について、特に「(8)板書や視聴覚機器の使用」については4.0ポイントの評価で、今後工夫が必要と考える。[2]この授業で良かった点についての自由記述では、「現場で使える教材を提供してくれた。今までの研究を見せてもらえた。」「毎回の授業で教科の専門性を高める授業内容だった。繰り返し科目の定義、重要なポイントを押さえてくれたので何が大事なのか良くわかった。実際に教壇に立つことを想定していたのでよかった。配布資料は使えるものばかりだった。」という意見が書かれていた。なお、[3]この授業で改善すべき点についての自由記述では、「レポートが難しかった。」「(授業)スピードが多少早かった。」という意見が書かれていた。授業スピードについては内容に応じて受講生の理解を確認しながら進めることが必要であろう。提出物についても課題を通して何を学ぼうとしているのか十分に説明し、理解してもらうことに重点を置きたい。[4]その他の意見として、「受講生が少なかったので、もっと多かったら良かったと思う」という意見があった。確かに議論し合ったり、情報共有を図るためには受講生が多い方が効果的であろう。しかし現状は残念ながら少人数での授業が続いており、その中でできることを頑張ってやっていきたい。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学研究
評価実施日　平成22年7月29日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　3　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2	1				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



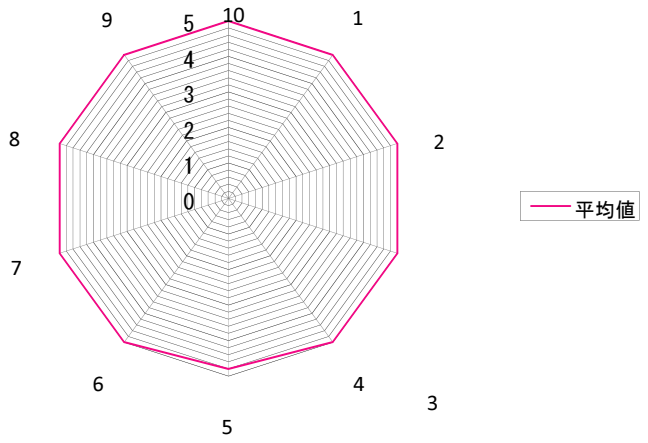
教員のコメント

総合評価は4.7であり、学生にとって有意義な授業であったと考えられる。質問項目の「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」についてが3.7と項目別の平均値の中で最も低い値になっているが、これは受講者が3名と少なかったため、ほとんど黒板等を使用せずに直接参考資料等を見せて授業を行ったからと考えられる。「この授業で良かったと思われる点」を尋ねた自由記述欄には、「わからないところや疑問点は必ず取り上げてゆっくり進めてくれた」「疑問点はすぐに答えてもらえて、わかりにくい内容も易しい言葉にかえて教えてもらえて良かった」「疑問点をすぐに聞ける雰囲気が良かった」と書かれており、少人数で授業を行うことの良い点があらわれた授業であったと思う。授業中に出された疑問点については、それぞれの考えを述べたり討論をしたりすることを取り入れたことで、より理解が深まったと思われる。今後は教員としての実践力の育成につながる内容となるよう工夫を加えたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力研究
評価実施日　平成22年9月30日
担当教員名　大隅　紀和　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



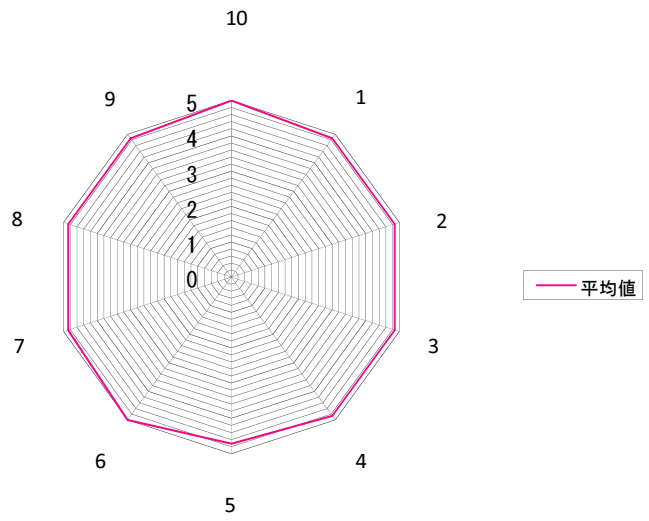
教員のコメント

1.　受講学生は5名と少数ながら，その出身国はガーナ，マラウイウ，フィジー，ラオスなど5か国だった。
　そのため，各国の教育制度，教育事情を勘案した授業展開を心がけた。
2.　受講学生は，極めて熱心な授業態度で，質問も多かった。
　授業のなかで参加型，実習型を取り入れたことも好評だったと思われる。
3.　今回で，3回目となるだけに，新しい話題，日本が直面しているトピックスを取り入れたことも教員側にとっても良い機会だったとかんがえるする。

結果報告書

授業科目名　国際教育IT活用研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　松嵜　昭雄，小澤　大成　　回答者数　7　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



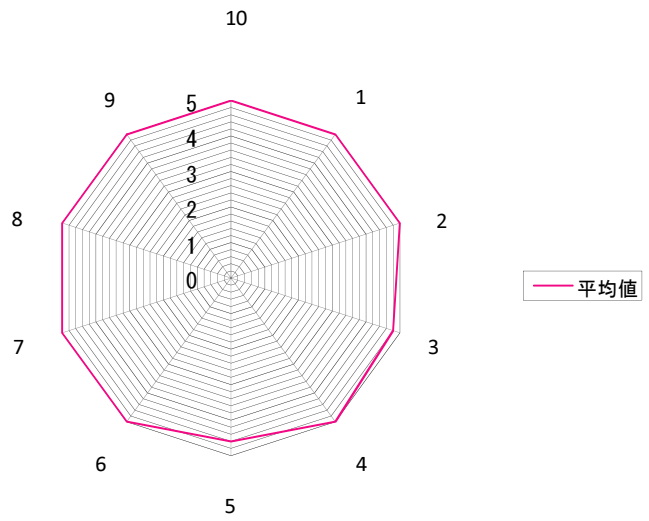
教員のコメント

総合評価は全員が5と高い評価であった。「教員の説明が丁寧」「ICT技術が学べた」「」要望としては「もっと多くの時間をICT技術にかけてほしい」があり，大学院生それぞれの進行度合を考慮しながら対応していきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育現地理解研究
評価実施日　平成22年9月17日
担当教員名　鈴木　隆子　　回答者数　5　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



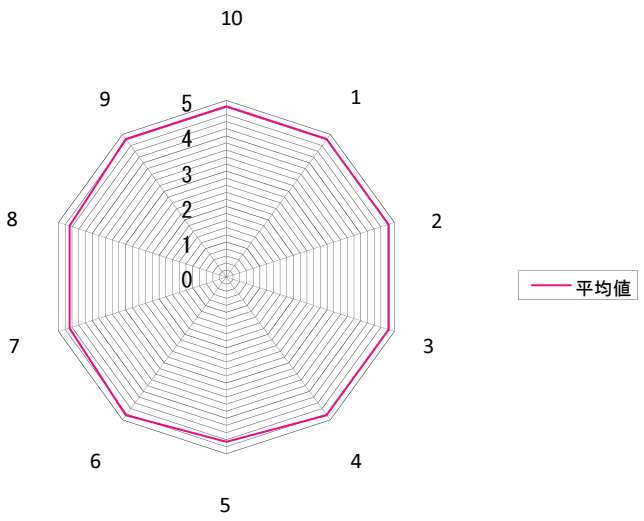
教員のコメント

全員が留学生で、英語ができる学生が多かったのと、全員が実務経験者だったので、議論が活発で中身も濃く、授業への参加度も高くて、私自身も楽しい授業でした。

結果報告書

授業科目名　国際教育教材開発研究
評価実施日　平成22年7月30日
担当教員名　小澤　大成，松嵜　昭雄　　回答者数　6　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	5		1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	5		1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5		1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



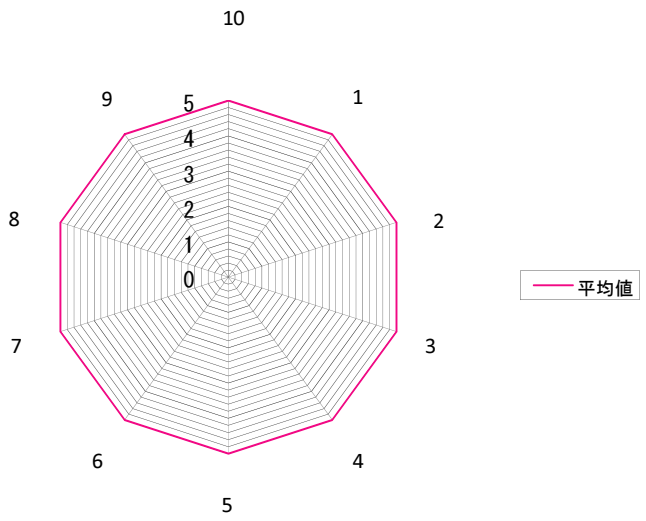
教員のコメント

全般的に高い評価であった。「他国の教育課題が共有できた」「授業研究の過程が理解できた」要望としては「日本の学校の授業を観察したい」「多様な形で学生同士での議論を行いたい」という要望があり，機会をとらえて含めるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名　国際教育教材開発演習Ⅱ
評価実施日　平成22年8月3日
担当教員名　小澤　大成，松嵜　昭雄，服部　勝憲　　回答者数　1　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(5)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(7)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



教員のコメント

「お互いの国の教育事情が学べてよかった」「英語での授業で理解できた」と高い評価であった。今後も継続して取り組んでいきたい。